

ヲ破毀スヘキ理由アリト認ムル以上ハ他ノ上告趣旨ハ一々辯明スルノ要ナシ
 右ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第二百八十六條ノ規定ニ從ヒ判決スル左ノ如シ
 原判決ノ全部ヲ破毀シ更ニ審判ヲ爲サシムル爲メ本件ヲ東京控訴院ニ移送ス
 明治二十八年九月三十日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○取引所法違犯ノ件

明治二十八年第八三〇號
 明治二十八年九月三十日宣告

○判決要旨

上告申立書ハ大審院ニ提出スヘキモノニアラス

(參照) 上告申立ノ期間ハ判決言渡アリタル日ヨリ三日トス 刑事訴訟法第
 二百七十一條

上告ヲ爲スニハ其中立書ヲ原裁判所ニ差出シ且其中立ヲ爲シタル日ヨリ五日內ニ趣
 意書ヲ差出ス可シ 同法第二百七
 十三條一項

第一審 長野地方裁判所上田支部 第二審 東京控訴院

被告人 長井芳太郎 朝倉萬兵衛 澤尾新作 竹内傳五郎
 大澤與三郎 宮島三平 清水ノ作 熊谷澤治

右取引所法違犯被告事件ニ付明治二十八年五月三十一日東京控訴院ニ於テ被告ノ控訴ヲ審

理シタル末長野地方裁判所上田支部ニ於テ言渡シタル被告與三郎澤尾傳五郎ニ對スル判決
 ハ之ヲ取消シ更ニ被告與三郎澤尾傳五郎ヲ各罰金六十圓ニ處ス押收ノ帳簿ハ悉皆各差出人
 ニ還附ヌ又同支部ニ於テ被告新作ヲ罰金八十圓ニ處シ被告芳太郎萬兵衛三平ノ作ヲ各罰金
 六十圓ニ處ス押收ノ帳簿ハ各差出人ニ還附スト言渡シタル判決ハ相當ニシテ右被告新作等
 ノ控訴ハ其理由ナキニ付之ヲ棄却スト言渡シタル判決ニ對シ被告等ハ上告ヲ爲シタリ
 大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ
 本案被告等ノ上告ハ明治二十八年六月三日即チ上告申立ノ期間內ニ其中立書ヲ原院ニ差出
 サスシテ誤テ直チニ本院ニ差出シタルヨリ本院書記課ニ於テ其翌四日右上告申立書ヲ原院
 書記課ニ移送シタルモノナレハ原院ノ判決言渡アリタル日即チ明治二十八年五月三十一日
 即チ起算スルニ原院ニ於テ上告申立書ヲ受理シタルハ其期限外ニ係ルモノナリ然ラハ則チ刑
 事訴訟法第二百七十一條ニ上告申立ノ期間ハ判決言渡アリタル日ヨリ三日トストアリ又同
 第二百七十三條ニ上告ヲ爲スニハ其中立書ヲ原裁判所ニ差出シ云々トアルニ依レハ上告申
 立ノ期間內ニ其中立書ヲ原裁判所ニ差出サハル可カラサルモノナレハ縱令誤テ其期間內ニ
 上告申立書ヲ本院ニ差出スモ之ヲ以テ右申立ノ効アルモノト認ムルコトヲ得ス故ニ原院ニ
 於テ上告申立書ヲ受理シタルハ日其期間外ニ涉リタル上ハ即チ不適法ノ上告ナリトス
 右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本案ノ上告ハ之ヲ棄却ス
 但上告豫納金ハ明治十九年勅令第四十六號ニ依リ各其中額ヲ沒收ス

明治二十八年九月三十日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事安居修藏立會宣告ス

○恐喝取財ノ件

明治二十八年第九六八號
明治二十八年九月三十日宣告

○判決要旨

煩雜ナル事件若クハ其他ノ事情アルトキハ即日又ハ次ノ開延日ニ判決ヲ言渡サ、ルモ不法ニアラス

(參照) 判決ノ言渡ハ辯論ヲ終リタル後即日又ハ次ノ開延日ニ之ヲ爲ス可シ

刑事訴訟法第二百四條

第一審 松江地方裁判所濱田支部 第二審 廣島控訴院

被告人 小川芳太郎 辯護人 高木益太郎

右芳太郎カ恐喝取財被告事件ニ付明治二十八年七月十七日廣島控訴院ニ於テ被告ノ控訴ヲ審理シタル末、松江地方裁判所濱田支部ノ判決ヲ取消シ更ニ被告ヲ重禁錮六月ニ處シ罰金七圓ヲ附加シ監視六月ニ付ス押收シタル證據書類ハ各差出人ニ還附ス公訴訴訟費用金七圓十圓錢ハ被告ニ於テ負擔スヘシト言渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ
大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ

上告趣旨ノ第一點ハ被告ハ判決シテ本案ノ金員ヲ騙取セシモノニ非ス何トナレハ則被告ハ安市ニ對シ直接ニ該判シタル形跡ナキノミナラス安市ハ成年ノ男子ニシテ普通ノ識能ヲ有スルモノナルコトハ原院ノ認ムル所ナレハ他人ノ傳言ヲ聞キ願ル恐怖ノ念ヲ生シタリトコトハ事理上アル可カラサル事柄ナレハ被告方安市ヲ恐喝シタリトノ材料トハ爲シ難キ筋合ナレハナリ此ノ如ク恐喝ノ材料ト爲シ難キ事柄ヲ探テ恐喝シタリト判決シタルハ違法ナリト云ヒ同第二點ハ被告カ一旦本案ノ金員ヲ受取リシ意思ハ唯安市ノ好意ヲ空シクセサランカ爲メナリシコトハ該金ヲ受取リ一兩日ヲ經テ直チニ還付シタル事實ニ依ルモ明ナリ故ニ恐喝騙取ノ罪ヲ組成スヘキモノニアラサルニ有罪ト爲シタル違法ノ判決ナリト云フニ在リテ○右論旨ハ要スルニ原承審官ノ職權ニ存スル事實ノ認定ヲ非難スルニ外ナラサレハ固ヨリ上告ノ理由トナル可キモノニアラス

辯護士高木益太郎カ上告趣旨辯明ノ要旨ハ本件ノ辯論ハ明治二十八年七月十三日ニ終結シタルコトハ原院ノ公判始末書ニ載シテ明ナリ然ルニ原院ハ次ノ開延日タル同月十五日ニ其裁判言渡ヲ爲サス又辯論ヲモ更新スルコトナクシテ同年七月十七日ニ至リ直チニ有罪ノ裁判言渡シタルハ刑事訴訟法第二百四條ニ違反セリト云フニ在レトモ○同條第一項ハ普通ノ場合ヲ規定シタルモノニ過キサレハ事件ノ煩雜ナルカ若クハ其他ノ事情ニ由リ即日又ハ次ノ開延日ニ判決言渡ヲ爲ス能ハサル場合ニ於テハ右規定ニ依ラズシテ判決言渡ヲ爲スモ敢テ違法ト爲スコトヲ得ス因テ上告ノ理由ト爲スニ足ラサルナリ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本案ノ上告ハ之ヲ棄却ス
明治二十八年九月三十日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○私書偽造行使詐欺取財ノ件

明治廿八年第一一三六號
明治廿八年九月廿日宣告

○判決要旨

白紙委任狀ニ濟口權限ノ委任アルモノ、如ク記載シ之ヲ他人ニ交付シテ裁
判所ニ提出セシメ濟口ノ事實ヲ主張セシメタル所爲ハ當然文書偽造行使罪
ヲ構成ス

第一審 松山地方裁判所

第二審 廣島控訴院

被告人 黒田角藏

右私書偽造行使詐欺取財被告事件ノ控訴ニ付明治廿八年九月六日廣島控訴院ニ於テ松山地
方裁判所ノ裁判ヲ失當トシ「原判決ハ之ヲ取消ス被告人角藏ヲ重禁錮七月ニ處シ罰金七圓ヲ

附加シ監視六月ニ付ス偽造ニ係ル委任狀ハ之ヲ沒收シ其他ノ差押書類ハ各差出人ニ還付ス
公訴ニ關スル訴訟費用金五圓二十五錢ハ被告人ニ於テ負擔スベシ被告人カ黒川幸榮ヨリ金
八十圓ヲ騙取シタリトノ點ハ無罪「下旨渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シ原院檢事ハ上
告理由ナキ旨ノ答辯書ヲ差出シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ

上告趣意ノ要旨ハ原裁判所ノ認メタル事實ニ依レハ被告人ハ黒川幸榮ノ面前ニ於テ被告人
カ竹ヲ森岡仲治ヨリ受領セル所ノ權限ノ記入ナクシテ森岡仲治ノ記名捺印アル委任狀「被
告自ラ代理權限ヲ記入シタル上黒川幸榮ニ交付シタリトナリ同裁判所カ此事實ヲ認メナカ
ラ之ヲ私書偽造行使犯トシテ判決サ下シタルハ所謂疑律錯誤ノ判決ナリ抑モ文書偽造若ク
ハ變造罪ハ他人ノ名義ヲ以テ文書ヲ調成シ若クハ他人署名ノ文書ニ増減變更ヲ施シ又ハ白
紙ニシテ他人ノ署名アル文書ニ文書ヲ記入シ之ヲ其文書ノ名主ナル某ノ調成増減變更又ハ
記入シタルモノナリトシテ其名主ノ資格ヲ僞ルヨリ成立スルモノナリ本件ノ如ク對手人ノ
面前ニ於テ他人ノ名義アル文書ニ文書ヲ記入シタル場合ハ相手人其記入ノ現場ヲ目撃シテ
記入者ヲ熟知スルヲ以テ署名者ノ資格ヲ僞ルコトナキハ明カナリ故ニ成立セサル犯罪ニ對
シ被告ハ其責ヲ負フヘキ謂レナシト云フニアレトモ○原判決ノ認ムル所ニ依レハ被告カ會
ヲ森岡仲治ヨリ黒川幸榮ニ係ル損害賠償金等確定裁判ニ基ク請求方ヲ仲治ヨリ委任セラレ
シ際受取り既ニ反古ニ歸シタル委任條件ノ記載ナキ委任狀ノ其手中ニ存スルニ乘シ擅ニ

該濟口ヲ爲シ得ヘキ權限ヲ記入シ情モ仲治ヨリ示談濟口ヲ爲スヘキ權限ヲ授與セラレタルカ如ク作爲シ更ニ森岡仲次代ノ名義ニテ金八十圓ノ辨償ヲ以テ濟口ト爲スヘキ旨ノ定約書並ニ該辨償金ノ受取證ヲ作成シテ前顯偽造ノ委任狀ト共ニ之ヲ幸榮ニ交付シ幸榮ヲシテ仲治ニ對スル強制執行異議ノ訴ヲ松山地方裁判所ニ提起セシメ口頭辯論ノ際右委任狀ヲ濟口定約書等ト共ニ提出シ既ニ示談ニ依リ金八十圓ヲ辨償シ以テ其債務ノ辨償ヲ了ヘタルト主張セシメタリトアリテ其前段仲治カ曾テ委任シタルコトナキ虛偽ノコトヲ白紙委任狀ニ記載シテ濟口權限ノ委任狀ヲ作爲シタルハ乃チ權利義務ニ關スル文書ノ偽造又其後段之ヲ幸榮ニ交付シ同人ヲシテ裁判所ニ提出セシム以テ濟口ナリシコトヲ主張セシメタルハ即チ行使ナレハ此事實ニ對シ原院カ刑法第二百十條第一項同第二百十二條ヲ適用シ處斷シタルハ相當ノ判決ニシテ擬律ノ錯誤ニアラス隨テ上告ハ其理由ナシ

右ノ理由ナルニ付刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治二十八年九月三十日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○詐欺取財證書變造ノ件

明治二十八年第一四二號
明治二十八年九月三十日宣告

○判決要旨

金圓騙取ノ目的ヲ以テ賣渡證書ヲ其犯罪ノ手段ニ供シタルトキハ該證書ハ犯罪ノ用ニ供シタル物件トシテ沒收スヘキモノトス

第一審 大分地方裁判所 豆田支部 第二審 長崎控訴院
被告人 高倉勝次郎

右詐欺取財證書變造被告事件ニ付明治二十八年九月七日長崎控訴院ニ於テ大分地方裁判所豆田支部ノ判決中有罪ノ點ニ對スル被告ノ控訴ヲ審理ノ末原判決中控訴ニ係ル部分ヲ取消シ被告ヲ重禁錮十月罰金十圓監視六月ニ處シ犯罪供用ノ玄米四十石賣渡證書ハ沒收シ其他ノ證書類ハ各所有者ニ還付シ公訴裁判費用ハ被告及ヒ木瓦林治湯淺勘市小野紋市ニテ連帶負擔ス可シト旨渡シタル第二審判決ヲ不法トシ被告ヨリ上告ヲ爲シ以テ原判決ノ破毀ヲ要求セリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ以テ判決スルコト左ノ如シ

上告趣意ノ第一點ハ本案玄米四十石賣渡證書ナルモノハ湯淺勘市カ穴井官藏ヨリ金員借用方ノ依頼ヲ受ケタルトキ二百圓ノ借用證書ト同時ニ官藏ヨリ受取リタルモノナルコトハ官藏ノ告訴狀ニ明記スル所ニシテ被告勝次郎木瓦林治カ原院ノ公廷ニ於ケル陳述モ亦之ト當

犯罪ノ手段ニ供シタル證書

馳スル所ナシ而シテ原院カ證據ト爲シタルモノハ右告訴狀ト被告兩名カ原院ノ陳述ノミ然ルニ原院カ支米四十石ノ賣渡書ハ二百圓ノ借用證書ヲ以テ金員ヲ借出シタル後ニ金員騙取ノ爲メ官藏ヲ欺キ記名調印セシメタルモノト認メラレタルハ其採用セシ證據ト至ク背馳シ裁判官擅ニ自カラ事實ヲ作リタル不法ノ判決ナリト云ヒ其第二點ハ官藏ノ告訴狀ニ據レハ支米四十石賣渡證書ヲ以テ金員ヲ借受ケルコト非ニ其貸主ハ何人タリトモ官藏ノ拒マサル所ニシテ官藏勘市ノ合意上受授シタルノミナラス金員貸借ノ全權ヲ勘市ニ委子タルモノナレハ其買受人ヲ被告勝次郎カ記載シ遺ハシタリトテ毫モ官藏ノ意旨ニ反スルモノニアラス故ニ該證書ヲ以テ金員返濟ノ申込ヲ爲シタリトモ官藏勘市間又ハ官藏紋市間ニ何等影響ノ及フヘキモノニアラス況ンヤ官藏ハ已ニ其義務ヲ認メ日延證ヲ買受人ニ送付シ勘市ヨリ自己ニ對スル證書ヲ受領シ居ルノ事實アルニ於テテヤ要スルニ被告勝次郎ヲ有罪ナリトセンニハ勘市紋市ト共謀ノ事實證據ナカルヘカラサレニ原院ノ採用セラレタル證據ニ依レハ其共謀シタル事實ノ見ル可キナキニ拘ハラズ詐欺取財ノ共犯者ト認定セラレタルハ不法ナリト云ヒ其第三點ハ假リニ原院カ認メタル事實ヲ眞實ナリトスレハ支米四十石ノ賣渡證ニ官藏ヲシテ記名調印セシメ又紋市ニ對スル日延證書ヲ送付サシメタルハ俱ニ證書騙取ノ罪ト爲ラサル可ラス抑モ原院カ該二通證書ノ受授ヲ如何ニ認メタルヤナ吟味スルニ原院ハ該證作成ノ當時ハ眞實ナリシモ後ニ之ヲ詐欺取財ノ用ニ供シタリト認メスシテ始メヨリ證書騙取ト認メ居レルコト原院文ニ明カナリ從テ金四百四十圓受取りタル

ハ其結果ニ過キサレニ却テ證書騙取ヲ罪ト爲ナスシテ其結果タル百四十圓ヲ受取タルヲ金員騙取ト爲シ其法條ヲ適用セラレタルハ事實理由ニ阻礙アリ疑律錯誤アル裁判ナリト云ヒ其第四點ハ前第三點ノ理由ナルニ依リ支米四十石ノ賣渡證書ハ犯罪供用ノモノニアラスシテ犯罪ニ因リテ得タル所ノ物件ナレハ之ヲ其所有者ニ還付セサルヘカラサルニ原院カ刑法第四十三條第二號ヲ適用シ之ヲ沒收セラレタルハ亦疑律錯誤ノ判決ナリト云フニ在リト雖トモ○其第一第二ノ上告論旨ハ至ク法律ニテ原承審官ノ職權ニ屬セシメタル證據ノ判斷事實認定ヲ批難スルモノニシテ適法上告ノ理由ト爲ラス其第三點ノ論旨モ亦タ原承審官ノ渡證及ヒ日延證ノ受授ハ被告等カ金員騙取ノ手段ニ供シタルニ過キサルモノト認メタルコトハ原判文ニ於テ明瞭ナレハナリ其第四點ハ既ニ說明セシ如ク原院ハ被告等カ初メヨリ金員騙取ノ目的ヲ以テ其證書ヲ犯罪ノ手段即チ其用ニ供シタル事實ヲ認メタルモノナレハ之ヲ刑法第四十三條第二號ニ照シ沒收シタルハ相當ナルヲ以テ是亦適法上告ノ理由ナキモ以上說明セシ如ク上告論旨ハ總テ適法ノ理由ナキヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ照シ之ヲ棄却ス

明治二十八年九月三十日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事應當融立會宣告ス

○恐喝取財ノ件

明治廿八年第一一四七號
明治廿八年九月卅日宣告

○判決要旨

印紙ノ貼用ナキ證書ト雖モ當事者間ニアリテハ證書タルノ効力ヲ有ス從テ之ヲ騙取シタル所爲ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

第一審 甲府地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 高森平次

右恐喝取財被告事件ノ控訴ニ付明治廿八年九月十四日東京控訴院ニ於テ審理ノ末原判決ヲ取消シ被告平治ヲ重禁錮二年ニ處シ罰金二十四ヲ附加シ監視六月ニ付ス押収ノ證書一通ハ山田承教ニ葉書一葉仕込杖一本ハ被告平治ニ還付ス公訴訟費用ハ被告ノ負擔トスト旨渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シ原判決ノ破毀ヲ要求シタリ
大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ
上告ノ要旨第一點ハ告訴人ハ被告カ銃ヲ以テ恐喝シタリト告訴シタルニ檢事ハステツキチ以テ恐喝シタリト論告セラレタルハ不當ナリト云フニ在レトモ○原院公判始末書ニ依レハ檢事カステツキチ以テ恐喝シタリト論告シタル事職ナキノミナラス右ハ檢事ノ論告ニ對スル書情ニ過キス固ヨリ上告ノ理由ト爲ラス
其第二點ハ騙取シタリト云フ證書ハ山田承教カ清作ニ記サシ置キ自ラ捺印セシモノナリト

本人自ラ陳述シタルニ原院ハ證書ノ印影相違セリトセラレタルハ事實ノ相違ナリト云フニ在レトモ○原院ハ印影ノ相違ヌルト否トニ付判決ヲ與ヘタルコトナケレハ此論旨ハ其謂レナキモノニシテ是亦上告ノ理由ト爲ラス

其第三點ハ本件ノ證書ニハ印紙ノ貼用ナク無効ノモノナレハ之ヲ騙取スルモ罪ト爲ラス況ヤ被告ニ騙取ノ事實ナキニ於テオヤト云フニ在レトモ○原判決ハ本件證書ニ印紙ノ貼用ナキ事實ヲ認メサルノミナラス假ニ其貼用ナシトスルモ當事者間ニ於テハ證書タルノ効力ヲ有シ又處罰ヲ受ケタル後ハ裁判上同様ノ効力ヲ有スルカ故ニ之ヲ騙取スルモ罪ト爲ラスト謂フヘカラス後段ノ論旨ハ事實認定ノ批難ニ止マリ孰レモ上告ノ理由ト爲ラス

其第四點ハ被告妻フミト對質訊問ヲ請求シタルモ原院ハフミヲ召喚セサリシハ不當ナリト云フニ在レトモ○證人喚問ノ必要不必要ヲ判定シ其請求ヲ許否スルハ原院ノ職權ニ屬スルヲ以テ原院カ被告ノ請求ヲ排斥シフミヲ召喚セサリシハ違法ニ非ス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ則リ本件上告ハ之ヲ棄却ス
明治二十八年九月三十日大審院第一刑事部公延ニ於テ檢事安居修藏立會宣告ス

人名音字目録

岡崎智彦ハ關崎智彦ノ誤

本卷

十九頁横欄記載

「詐欺取財ヲ犯スニ因テ文書ノ偽造變造ヲ爲シタル所爲」ハ「文書ヲ偽造行使シタル」ノ誤

三十三頁横欄記載

「没収○還付」ハ「没収及還付」ノ「言渡」ノ誤

六十五頁横欄記載

「分配金ノ多寡方法ヲ明示セサル判決」ハ「贖金ノ分配方法ヲ云々」ノ誤

九十四頁横欄記載

「裁判所外ノ文書」ハ「裁判所外ノ文書」ノ「効力」ノ誤

二百一頁横欄記載

「犯罪人アリタルコトヲ原由トスル再審」ハ「刑ノ言渡ヲ受ケタル者アリルコトヲ云々」ノ誤

大審院刑事判決錄

第三卷

大審院刑事判決錄 第二卷

○賣藥規則違反ノ件

明治廿八年第九一三號
明治廿八年十月一日宣告

○判決要旨

賣藥規則第二十五條ニ所謂ル有毒藥トハ毒藥ノミヲ指シタルモノニシテ劇藥
ヲ包含セス(判旨第一點)

賣藥規則ニ違犯シタル製藥沒入ノ判決ハ單ニ其現存高ヲ明示スルヲ以テ足レ
リトシ必スシモ製造高ヲ確定スルヲ要セス(判旨第二點)

(參照) 免許ヲ受ケヌシテ私ニ藥味分量用法服量能書等ヲ改更シ又ハ許可ヲ經ヌシテ無
稽ノ忘説ヲ記載シ世人ヲ街惑スル者ハ其鑑札ヲ取上ケ賣藥ヲ沒入シ藥劑一方ニ付十圓
以上二十圓以下ノ罰金ヲ科ス可シ(明治十年第七號布告)
賣藥規則第二十二條

私ニ有毒藥ヲ配伍スル者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥及ヒ其賣得金ヲ沒入シ藥劑一方ニ付百
圓以上五百圓以下ノ罰金ヲ科ス可シ(同上規則)
第二十五條

毒藥ノ解釋○製藥ノ沒入

毒藥ノ解釋○製藥ノ没入

第一審 大阪地方裁判所 第二審 大阪控訴院

被告人 宮口吉太郎 辯護人 福原直道

右賣藥規則違反被告事件ニ付明治廿八年六月廿七日大阪控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シテ原控訴院檢察長林誠一ハ上告ヲ爲シ被告辯護士福原直道ハ附帶上告ヲ爲シタルニ依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ辯護士福原直道ノ辯論檢察岩田武儀ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

上告趣意第一點ハ明治十年賣藥規則布告ノ當時ニ在テハ劇藥毒藥ノ區別スラ明確ナラサルカ故ニ同規則第三條ニハ劇毒微毒ヲ問ハス云々トアリテ其微毒中ニハ劇藥ヲ含蓄スルコト論ヲ俟タス若シ劇藥ニシテ普通藥品ト同シク僅ニ同則第二十二條ノ制裁ニ止メンカ其危險測ルヘカラス且劇藥ハ取扱井ニ制裁ノ上ニ於テ普通藥品トハ全然之ヲ異ニシアルニ獨リ同則第二十二條ノミ同視スルノ理アルヘカラス藥品營業井ニ藥品取扱規則第十七條第十八條第二十九條第三十條第三十一條第三十二條皆其取扱ト制裁トヲ同フスルヨリ觀察スルモ兩藥ハ其制裁ヲ同フセサルヲ得サルヤ明ナリ賣藥規則第二十五條ニ有毒藥トアルハ毒藥ナル名詞ニアラスシテ毒アル所ノ藥品ト云フニ過キス故ニ微毒アル所ノ劇藥ハ本案ノ制裁ヲ免レサルモノト論斷セサルヘカラス何人ト雖モ劇藥ハ微毒ヲ有スルモノトシテ爭ハサルヘシ畢竟劇藥ヲ以テ第二十五條ノ制裁以外ノモノト爲シタル判決ハ明治十年布告ノ不完全ナルヲ覺ラサルモノト有毒藥ナル文字ニ誤ラレタルモノニシテ疑律ノ錯誤タル最モ觀易キモノトス而シテ明治二十一

判旨第一點

年第二十七號布告ヲ以テ賣藥規則第十條第十九條但書有毒ト改メタルハ毒藥劇藥以外ト雖モ取扱上失誤ヲ生シ易キモノニ付テ制裁ヲ定メタルモノトス本條ノ文字ニ改正アルヲ論據トシテ劇藥ハ有毒藥ニアラストノ論旨ノ如キハ採ルニ足ラスト云フニ在レトモ○明治十年第七號布告賣藥規則第二十五條ニ有毒藥トアルハ毒藥ハミテ指ハタルモノハニシテ劇藥ハ同條ニ包含セス本件ハ如キ免許以外ニ劇藥ヲ配伍シタル藥劑ヲ販賣シタルモノハ原院ノ判決セシ如ク賣藥規則第二十二條ニ依リ處斷スヘキモノナルヲ以テ上告論旨ハ其理由ナシ第二點ハ賣藥規則第二十二條製藥没入ノ制裁ヲ付センニハ其製造高ノ裁許ナルヤハ最モ必要ノ理由ナリトス然ルニ一審判決ハ製造品ノ内販賣シタルモノト現存スルモノトチ明カニシアルニ二審判決ハ製造高ヲ示サス隨テ現存高ヲ知ルニ由ナク忽チ執行ノ差支フル理由不備ノ判決ナリト云フニ在レトモ○賣藥規則第二十二條ニ依リ同規則違反ノ製藥ヲ没入スルハ判決ニハ必シモ其製造高ヲ確定スルノ理由ヲ要セス唯其現存高ヲ明示スルハ執行ヲ爲スニ於テ差支アルコトナシ而シテ原判決ニハ其主文ニ製藥ハ現存高ヲ明示シテ之ヲ没入スルハ言渡ヲ爲シタルニ依リ原判決ハ違法ニアラス第三點ハ被告ハ第二審ノ訊問ニ先テ藥味分量増加ノ點ニ付テハ一審判決ニ不服ナシト明言シ控訴セサルノ意思ヲ表白シテ控訴成立セサルニ歸シ訊問モ一トシテ分量増加ノ點ニ及ヒシコトナシ即比點ハ最早確定動スヘカラサルニ拘ハラヌ又一ノ訊問ナキニ拘ハラヌ更ニ一審判決ノ全部ヲ取消シ判決シタルハ訴ヲ受ケサル事件ニ付判決ヲ爲シタルモノトス又一歩ヲ讓リ全部ニ對スル控訴トスルモ訊問ヲ爲サスシテ爲シタル判決ハ違法ナリト

判旨第二點

毒藥ノ解釋○製藥ノ没入

云フニ在レトモ●實藥規則第二十二條ノ規定タルヤ免許ヲ受ケタル實藥品ノ分量ヲ恣ニ増加スル所爲ト免許以外ノ藥品ヲ配合スル所爲トナ各別ニ一罪ト爲シテ論スルノ法意ニアラス同時ニ右ノ二所爲アルモノハ合シテ之ヲ一罪ト爲スヘキモノトス故ニ本件ノ如ク免許ヲ受ケタル實藥品ノ分量ヲ恣ニ増加シタルト免許以外ノ劇藥ヲ加味シタル所爲トナ同時ニ處斷スルニ當リテハ假令被告ニ於テ藥品ノ分量増加ノ點ニ付テハ第一審判決ニ服從スル旨申立タリトスルモ免許以外ノ劇藥加味ノ所爲ヲ判決スルニ付必ス分量増加ノ事實ヲ併合シテ法律ノ適用ヲ定メサルヘカラス然レハ分量増加ノ點ニ付テハ控訴ヲ爲サ、ル旨被告ノ申立アリタルニ拘ラズ原院カ分量増加ノ所爲ト劇藥加味ノ所爲トナ分割シテ二罪ト爲シタル第一審判決ノ全部ヲ取消シ更ニ判決ヲ下シタルハ當然ニシテ違法ニアラス又原院ノ公判始末書ヲ閱スルニ藥品ノ分量増加ノ點ト劇藥加味ノ點即本件ノ事實全體ニ對シ簡單ニ訊問ヲ爲シタル事蹟ハ之ヲ認メ得ヘキヲ以テ原判決ハ訊問セスシテ判決ヲ爲シタル違法アルコトナシ

附帶上告ノ論旨ハ原院檢事ハ上告ノ第三點トシテ被告ハ藥味分量増加ノ點ニ付テハ控訴セサルノ意思ヲ表自シ即最早確定動カスヘカラサルニ第二審ニ於テ全部ヲ取消シ判決シタルハ訴ヲ受ケサル事件ニ付判決ヲ爲シタル不法アリト云フモ元來本件ハ一所爲ニ付二罪トシテ罰シタルモノニシテ一部ニ對シ控訴シタルトキハ隨テ他ノ一部ニモ關係ヲ及ホスヲ以テ第二審ニ於テハ刑事訴訟法第二百八十九條第一項ノ精神ヲ酌ミ他ノ控訴セサル部分ヲモ取消シタルモノニシテ此點ハ法律ニ違背スル所ナシト雖モ藥味分量改更ノ所爲ニ付テ第一審裁判所ハ罰金

十五圓ニ處シ而シテ被告ノミ控訴ヲ爲シタルニ原院ハ同所爲ニ對シ罰金二十五圓ニ處シ被告ノ不利益ニ第一審判決ヲ變更シタル違法アリト云フニ在レトモ●第一審判決ハ藥品ノ分量増加ノ點ト劇藥加味ノ點トナ分割シテ二罪トナシ分量増加ノ所爲ヲ罰金十五圓ニ劇藥加味ノ所爲ヲ罰金百圓ニ處スヘキモノト爲シタルニ依リ原判決ハ之ヲ取消シ右ノ二所爲ヲ合シテ單ニ罰金二十五圓ニ處斷シタルモノナレハ固ヨリ第一審判決ヲ被告ノ不利益ニ變更シタルニアラサルヲ以テ附帶上告論旨モ亦適法ノ理由ナシトス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件ノ上告及ヒ附帶上告ハ共ニ之ヲ棄却ス

明治二十八年十月一日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

○官印偽造公證文書偽造詐欺取財ノ件

明治二十八年第九三五號
明治二十八年十月一日宣告

○判決要旨

數人共犯ノ事實ヲ認メ刑法ノ各正條ヲ適用シタル上ハ特ニ同法第四百條ノ總則ヲ適用スルヲ要セス(判旨第六點)

數人共犯ノ法律ノ適用○豫審手續○民事原告人○官印偽造ノ所爲

數人共犯ノ法律ノ適用○豫審手續○民事原告人○官印偽造ノ所爲

六

(參照) 二人以上現ニ罪ヲ犯シタル者ハ皆正犯ト爲シ各自ニ其刑ヲ科ス(刑法第百四條)

豫審判事證據物件ヲ被告人ニ示シテ辯解ヲ聽カサル處措ハ其手續ニ於テ違法アルコトナシ(判旨第十點)

公判廷ニ於テ民事原告人トシテ私訴ノ申立ヲ爲シタルカ爲メ豫審廷ニ於テ證人トシテ訊問セラレタル調書ノ効力ヲ抹消セス(判旨第十五點)

官印偽造使用ノ所爲ハ官印偽造ノ所爲ニ包含ス(判旨第二十點)

(參照) 官ノ文書ヲ偽造スルニ依テ官印ヲ偽造シ又ハ盜用シタル者ハ偽造官印ノ各本條ニ照シ重キニ照シ處斷ス(刑法第百六條)

第一審 德島地方裁判所 第二審 大阪控訴院

被告人 元木小太郎 藤水重吉 辯護人 高木益太郎
宮高太郎 加藤茂三郎 三宅碩夫

右被告人四名カ官印偽造公證文書偽造詐欺取財事件ニ付明治二十八年六月二十二日大阪控訴院ニ於テ德島地方裁判所ノ判決ニ對スル各被告人ノ控訴ヲ審判シ原判決ヲ取消シ更ニ被告小太郎ヲ重懲役十年ニ處シ同重吉高太郎ヲ各重懲役九年ニ處シ同茂三郎ヲ輕懲役七年ニ處ス被告茂三郎カ第三四高太郎カ第一二三ノ被告事件ハ各無罪トス押収セル甲第二三四號同七號證ノ偽造證書ハ沒収シ其他ノ物件及ヒ書類ハ各差出人ニ還付シ公訴裁判費用ハ各被告ノ負擔トスト官渡シタル第二審ノ判決ニ服セス被告四名ハ上告ヲ爲シタルニ因リ刑事訴訟法第二百八

十三條ノ式ヲ履行シ被告辯護士高木益太郎三宅碩夫ノ辯論立會檢事應當融ノ意見ヲ聽キ判決ヲ爲スコト左ノ如シ

被告小太郎カ上告趣意書及ヒ擴張書ノ要旨ハ第一原判決理由中ニ斷罪ノ資料ニ供セラレタルモノヲ掲之(前略)其他ノ書類物件ニ徴セハ被告四名ハ左ノ事實アリタルノ證據明確ナリトス「トアルモ其他ノ書類物件トハ如何ナルモノナルヤ知ルヘカラス是レ證據ノ明示ナキ違法ノ判決ナリ若シ其他ノ書類物件トハ原判決書ニ指示シタル各書類ノ外ナル一切ノモノナリトスレハ其書類中ニハ現行犯ニ非スシテ警察官ノ作りタル訊問調書等ノ在ルアリテ證據ト爲スヘカラサルニ之ヲ證據ト爲シタルハ違法ナリト云フニ在ルモ○原判文中ニ押収セル甲第二三四號並ニ七號證其他ノ書類物件ニ徴セハ云々トアリテ押収シテ公廷ニ現在スル書類物件ヲ指稱シタルモノタルヤ明確ニシテ證據ヲ明示セスト云フヲ得ス」第二原判文中「當院ノ囑託ニヨリ取調タル證人大塚半三郎ノ調書云々トアルモ右ハ如何ナル所ニ囑託シテ如何ナルモノヲ取調タルヤ明確ナラス斯ノ如キ不明ノ事實ヲ認メテ犯罪アリトセラレタルハ違法ナリト云フニ在ルモ○原控訴院ニ於テ辯護士ノ請求ニ係ル證人ノ訊問ヲ許可シ臨町區裁判所ニ囑託シ大塚半三郎ヲ取調タルモノニシテ其調書ヲ證據ニ供シタルモノナレハ毫モ不明ノ點アルニ非ス」第三原判文第二第三第四ニ「偽造官印押用其他總テ前項第一ニ掲クル如キ手續ニ徴ヒ云々トアルモ第一ノ事實中如何ナル點カ第二以下ノ事實ト手續ヲ同クセルヤ單ニ第一ニ掲クル手續トノミニテハ其事實ヲ知ル能ハス即チ理由ノ不備ナリト云フニ在ルモ○第一ノ手續トハ虛無ノ地所ヲ抵當ト

數人共犯ノ法律ノ適用○豫審手續○民事原告人○官印偽造ノ所爲

七

爲シ偽造ノ官印ヲ使用シ官吏ノ公證シタル文書ヲ偽造スル等ノ手續ヲ指稱シタルモノニシテ
 判文ヲ通讀スレハ其理由明瞭ニシテ不備ノ點ナシ第四上告第一ニ論シタル如ク其他ノ書類物
 件ニテハ數多ノ物件中共何々ヲ以テ證據トセラレシヤ分明ナラサルハ勿論若又原院ニ於テ示
 サレタル書類物件ハ總テ之ヲ證據トスルノ意ナラハ其證據品ハ總テ相當ノ處分ヲ爲サハルヘ
 ガラス然ルニ何等ノ判決ヲ爲サハルハ違法ナリト云フニ在ルモ○前段ハ上告第一ニ對スル説
 明ニ依リ了解スヘシ後段ハ原判文ニ押収スル云々偽造證書ハ沒収シ其他ノ物件及ヒ書類ハ各
 差出人ニ還付スレトアリテ押収ノ書類物件ニ付相當ノ判決ヲ爲シタリ第五原判文ニ押収スル甲
 第二三四號同七號證ノ偽造證書ハ沒収スレトアレトモ元來押収品中甲第二三四號證ナル書類ナ
 シ又有之トスレハ原院ニ於テ被告ニ示シ辯解ヲ爲サシメサルモノニシテ要スルニ違法ノ判決
 ナリト云フニ在ルモ○甲第二三四號證ハ被告等カ偽造シタル公證文書ニシテ押収目錄ニ記載
 スル所ナリ而シテ押収ノ證據物一切ヲ示シ被告等ニ辯解ヲ爲サシメタル事實ハ公判始末書ニ
 明記スル所ナリ第六原院ノ認メタル事實ニ依レハ判決ニ適用シタル右法條ノ外ニ刑法第四百
 條ヲ適用スヘキニ其適用ナキハ不法ナリト云フニ在ルモ○原判決ハ數人共犯ハ事實ヲ認メ刑
 法ハ各正條ヲ適用シ各自ニ其刑ヲ科シタルモノナレハ更ニ數人共犯ノ總則タル第四百四條ヲ適
 用スルハ要セザルナリ第七原判決ニ刑事訴訟法第二百六十一條ニ則リ主文ノ如ケ判決スレトア
 ルモ同條ハ第一項ト第二項トノ區別アルニ單ニ二百六十一條トノミニテハ其何項ヲ適用セラレ
 シモノナレヤ分明ナラス法律ヲ明示セサル違法アリト云フニ在ルモ○原判文ニ被告ノ控訴ハ

判旨第六點

其理由アリ因テ刑事訴訟法第二百六十一條ニ則リ主文ノ如ク判決スレトアリテ原判決ヲ取消シ
 更ニ判決ヲ爲スノ理由明白ナレハ故サラニ同條第二項ト記載スルノ必要ナシ第八原判文中「廣
 三郎カ第三四云々各刑事訴訟法第二百三十六條云々押収ノ甲第二三四號同七號證タル偽造ノ
 證書ハ四十三條第四十四條ニ從ヒ沒収シ」トアルモ同法同條ハ沒収ノ處分ニ適用スヘキ法條ニ
 非ス然ルニ之ヲ適用シタルハ不法ナリト云フニ在ルモ○沒収ノ言渡ヲ爲スニハ刑法第四百三
 條等ヲ適用スヘキモノナレハ原判文ニ同第四十三條第四十四條ニ從ヒ沒収ストアルハ刑法ヲ
 適用シタルモノニシテ其上文ニ刑事訴訟法ノ條ヲ掲載シアルニ因リ更ニ刑法第四百三條ト記
 載スヘキヲ誤テ同ノ字ヲ書シタルハ文字ノ誤記ニ係ルモノナレハ一讀瞭然タリ文字ノ誤記ヲ
 以テ破毀ノ理由ト爲スヲ得サルモノトス第九本件ニ付豫審判事ハ檢事ヨリ何等ノ起訴ナキニ
 豫審ニ着手セシノミナラス其終結ニ及ンテ檢事ノ意見ヲ求メスシテ獨斷ニ有罪ト決定セリ斯
 ル不法ノ豫審調書ヲ證據トシタルハ不法ナリト云フニ在ルモ○本件各被告人ニ對スル檢事ノ
 豫審請求書及豫審終結ニ付檢事ノ意見書ハ訴訟記録中ニ現在スル所ニシテ毫モ違法ノ點ナシ
 第十原院ニ於テ示サレタル證據物件中被告小太郎カ藤本重吉宛發シタル書信ノ如キ其他豫審
 延ニ於テ指示セラレサル書類物件數多アリ是等ノ證據物件ハ豫審延ニテ一々被告ニ示シ辯解
 ヲ爲サシメサルヘカラス然ルニ豫審判事ハ其手續ヲ爲サシメテ終結決定ヲ爲シタルハ不法ナ
 リト云フニ在ルモ○證據物件ヲ被告人ニ示シ辯解ヲ爲サシムルハ公判上必要ノ手續ナルモ豫
 審ニ於テハ是等ノ手續ヲ爲スヘキハ規定ナキヲ以テ豫審判事カ證據物件ヲ示サハルヲ違法ト

判旨第十點

數人共犯ノ法律ノ適用○豫審手續○民事原告人○官印偽造ノ所爲

云フコトヲ得ス。第十一本案ハ豫審終結決定ニ依リ公訴ヲ受理シタルモノナリ而シテ第一乃至第四ノ犯罪ハ豫審決定ニ依レハ各個別異ニシテ被告小太郎ハ單ニ第三ノ所爲即チ金五百圓ノ贓物ノミニ對スル犯罪アリトセラレタリ然ルニ原院判決ハ被告小太郎ニ於テ第一乃至第四ニ通シテ犯罪アリシトシタルハ豫審終結決定ヲ無視セシノミナラス檢察ヨリ何等ノ起訴ナキニ事實ヲ變更シテ斯ル判決ヲ爲シタルハ不法ナリト云フニ在ルモ○豫審終結決定書ニ依レハ被告小太郎ハ藤本重吉等ト共謀シ本件第一乃至第四ノ罪ヲ犯シタルモノニシテ單ニ第三ノ一罪ノミト爲シタルニ非サルハ決定書ニ徴シ明瞭ナリ。第十二原院文中ニ「被告重吉ノ姪タル被告茂三郎ニ加功センコトヲ謀ル所云々」トアルモ重吉ト茂三郎トハ叔父甥ノ親屬タリ然ルニ其甥タル茂三郎ヲ指シテ姪ト爲シ即チ男子ヲ女子ト爲シタルハ不法ナリト云フニ在ルモ○姪トハ自己ノ兄弟ノ子ヲ指稱スルモノニシテ其男女ノ區別アルニ非ス故ニ重吉ノ姪茂三郎トアルハ相當ナリ。第十三原院文中ニ「右文書ハ金員ヲ騙取スルニ依リ偽造行使シタルモノニ付同第三百九十條ニ照シ文書偽造行使ノ所爲ヲ重トシ云々」トアリテ右文書ハ官文書ナルヤ將々私文書ナルヤ知ルヘカラス即チ理由ヲ明示セサル違法ナリト云フニ在ルモ○上文ニ「官吏ノ公證シタル文書ヲ偽造行使シタル點ハ云々」トアリテ其下文ニ「右文書ハ云々」トアルハ上ノ官吏ノ公證シタル文書ヲ指シタルヤ明瞭ナリ

被告重吉カ上告ノ要旨ハ被告小太郎カ第一論旨ト同一ナルヲ以テ別ニ説明ヲ與ヘス。其擴張書ノ要旨原院カ證人大塚文内ノ調書ヲ採テ斷罪ノ證據ト爲シタルハ不當ナリ被告重吉ハ本件ノ

犯罪ニ關係シタル者ニ非ス單ニ第一ノ所爲ニ付三木源吉元木小太郎ニ頼マレ使テ爲シタルニ過キス然ルニ主謀者ノ如ク判決セラレタルハ不當ナリ被告重吉ノ姪ニ茂三郎ト云フ者ナシ被告ニ對シ官印文書偽造ヲ以テ處斷セラレタルハ不當ナリ何トナレハ假リニ情ヲ知ルトスルモ官印官文書ヲ偽造セサルモノナレハナリト云フニ在ルモ○總テ裁判官ノ職權ニ屬スル證據ノ取捨事實ノ認定ヲ非難スルニ過キスシテ上告違法ノ理由ナキモノトス

被告高太郎カ上告ノ要旨第一ハ被告小太郎カ上告第一ト同一ナリ。第二ハ小太郎カ第五ト同一第三ハ小太郎カ第三ト同一ナルヲ以テ別ニ説明ヲ與ヘス。其擴張書第一原判決ニ大塚半三郎同文内ノ豫審調書ヲ證據トセシハ違法ナリ抑半三郎ハ第一審第二回公判開廷ノ際私訴ヲ提起セシニヨリ證人ノ權能消滅セリ爾後該私訴ヲ取下ケタリト雖モ其證人タルノ資格回復セサル論ヲ俟タス然ルニ證人ノ調書トシテ採用シタルハ法律ニ違背セシモノナリト云フニ在ルモ○大塚半三郎ハ豫審開廷ノ當時未タ民事原告人ト爲リタルモノニ非サレハ其證人タルノ資格アルハ論ヲ俟タス其後公判ノ際私訴ヲ提起シタルモノ之ヲ以前ニ遡リ證人ノ資格消滅シタルモノト云フコトヲ得ス故ニ其豫審調書ヲ證據ニ採用シタルハ相當ナリ。第二原院カ囑託證人調書ヲ證據トセシハ違法ナリ證人半三郎ハ第一審公廷ニ於テ本件ニ關スル金錢貸附帳簿ハ一切無之ト斷言セシニモ拘ハラヌ原院ノ囑託ニ依リ取調ヲ爲シタル際帳簿携帶出廷セシハ其虛構ノモノタルヤ明白ナルニ其陳述ヲ採用シタルハ法律ニ違反セリ。第三前項ニ掲ケル證言ノ虛偽ナルコト及上告人ノ關係ナキ旨ヲ證明スル爲メ證人ヲ請求セシニ之ヲ排斥シ民事上直接利害ノ關係

ヲ有シ且前述ノ如キ前後撞着セル大塚半三郎ノ證言ヲ採用シタルハ不法ナリト云フニ在ルモ
 ○要スルニ裁判官ノ職權ニ屬スル證據取捨ノ當否ヲ非難スルニ過キスシテ上告ノ理由ナシ第
 四訴訟費用ノ言渡ニ付刑事訴訟法ノ法條ヲ示サス且同第二百一條第一項ヲ分明ニセスシテ言
 渡シタルハ違法ナリト云フニ在ルモ○訴訟費用ノ言渡ニ付刑事訴訟法ノ條項ヲ舉示スルノ必
 要ナキモノトス第五ハ小太郎カ上告第八ト同一ナルヲ以テ別ニ説明ヲ與ヘス
 被告茂三郎カ上告ノ要旨ハ被告小太郎カ上告第一ト同一ナルヲ以テ別ニ説明ヲ與ヘス其擴張
 書ハ本件ニ付被告ハ單ニ平尾繁吉ト詐稱シタル所爲アルニ止マリ其他犯罪ニ加功シタルコト
 ナク又金圓ノ分配ヲ受ケタルコトナシト陳述スルモ○總テ事實ノ認定ヲ非難スルニ過キスシ
 テ上告ノ理由ナシ

高木辯護士カ辯明書ノ要旨ハ自己ノ犯罪事件ニ付爲シタル陳述ハ固ヨリ證言タルノ効アルモ
 ノニ非ス故ニ上告人宮高太郎カ豫審ニ於テ本件ノ證人トシテ供述シタル調書ハ何等ノ證據ナ
 シトス然ルニ之ヲ斷案ノ資料ニ採用シタルハ違法ナリト云フニ在ルモ○被告宮高太郎ハ豫審
 ニ於テ初メ證人トシテ訊問ヲ爲シ其後犯罪發覺セシニ因リ被告人ト爲シタルモノナレハ其調
 書ヲ證人ノ證言トシテ採用シタルニ非ス故ニ判文上被告高太郎カ前ニ證人トナリテ訊問ヲ受
 クル豫審調書ト記載シアリテ之ヲ證人ト認メタルニ非サルヤ明瞭ナリ

判例第二十

高木三宅阿辯護士カ擴張書ノ要旨ハ本件ニ付原院カ刑法第二百六條ヲ適用セザリシハ法律ノ
 理由ヲ欠キタル裁判ナリト云フニ在リ○因テ之ヲ審案スルニ本件ハ偽造官印使用ト公證文書

偽造ト詐欺取財トハ三罪アルヲ以テ詐欺取財ト公證文書偽造トハ刑法第三百九十條ニ重キ照
 シ一ハ重キニ從ヒ又公證文書偽造ト偽造官印使用トハ同第二百六條ニ照シ一ハ重キニ從ヒ處
 斷スハ外而シテ被告高太郎カ除カ外被告三名ハ數個ハ偽造印使用ハ所爲アルヲ以テ仍ホ刑法
 第三百條ニ照シ一ハ重キニ從フヘキモノトス又刑法第二百六條ニ官印ヲ偽造シ又ハ盜用シタル
 者ト記載シ偽印使用ハ明文ナキモ個ハ偽造中ニ包含シタルモノナルコト下文ハ偽造官印ハ各
 本條ニ照シトアルヲ以テ明瞭ナレハ本件ハ如キハ同條ヲ適用セサルヘカラサルモノナルニ原
 判文ハ單ニ第三百條ヲ適用シ第二百六條ヲ適用セザリシハ擬律ノ錯誤ナルモノニシテ本論旨ハ
 正當ノ理由アルモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十七條ニ從ヒ原判決ヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ左ノ
 言渡ヲ爲スモノナリ

元木小太郎
 藤本重吉
 宮高太郎
 加藤茂三郎

被告四名ハ金員ヲ騙取スルニ因リ官吏ノ公證シタル文書ヲ偽造行使シタル者ナレハ刑法第三
 百九十條二項ヲ適用シ重キ公證文書偽造ノ罪ニ從ヒ又公證文書ヲ偽造スルニ因リ偽造官印ヲ
 使用シタル者ナレハ同第二百六條ニ照シ重キ偽造印使用ノ罪ニ從ヒ被告高太郎ハ同第九十

數人共犯ノ法律ノ適用○豫審手續○民事原告人○官印偽造ノ所爲

五條ニ依リ處斷シ而シテ被告小太郎重吉茂三郎ハ數個ノ偽印使用罪アルヲ以テ仍ホ同第百條ニ照シ被告小太郎重吉ハ第三ノ偽印使用罪ヲ重シト爲シ被告茂三郎ハ第一ノ偽印使用罪ヲ重シト爲シ各同第百九十五條ニ依リ處斷スヘキモノトス其他ノ疑律ハ總テ原判決ノ通りタルヘシ

明治二十八年十月一日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事應當融立會宣告ス

○詐欺取財ノ件

明治二十八年第一〇〇二號
明治二十八年十月一日宣告

○判決要旨

闕席判決ヲ受ケタル者ニシテ刑ノ執行ヲ通レタルトキハ逮捕ノ令狀ヲ以テ其期滿免除ヲ中斷ス

(參照) 期滿免除ハ刑ノ執行ヲ通レタル日ヨリ起算ス若シ捕ニ就キ再ヒ逃走シタルトキハ其逃走ノ日ヨリ起算シ闕席判決ニ係ルトキハ其宣告ノ日ヨリ起算ス(刑法第六十一條)

刑ノ執行ヲ通レタル者ニ對シ逮捕ヲ命シタルトキハ最終ノ令狀ヲ出シタル日ヨリ期滿免除ヲ起算ス(同法第六十二條)

第一審 神戸地方裁判所 第二審 大阪控訴院
被告人 山口直三郎 辯護人 小出御太郎

右詐欺取財被告事件ニ付明治二十八年七月十九日大阪控訴院ニ於テ審理ノ末原判決ヲ取消シ更ニ被告ヲ重禁錮四年罰金四十圓監視一年ニ處シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シ原院檢事長林誠一ハ答辯書ヲ差出シタルニ依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ辯護士小出御太郎檢事岩田武儀ノ辯明ヲ聽キ判決スルコト左ノ如シ

上告趣意ノ要旨ハ本件ノ行爲アリシ當時ハ被告ハ住友支店ニ雇ハレ會計事務ヲ擔任シ金錢ノ出納ヲ掌リ手形小切手振出ノ權限ヲモ附與セラレ居タルコトハ一件記録ニ徴シ明白ナリ又住友支店ニ於テ當時第一國立銀行神戸支店ニ預ケ金ヲ爲シ一定ノ印影ヲ押捺シタル小切手ヲ以テ預ケ金ヲ引出ス方法ヲ定メ置タルコトモ記録ニ徴シ明白ナリ然レハ被告カ合式ノ小切手ヲ以テ預ケ金ノ請求ヲ爲シタル場合ニハ其目的ノ如何ニ拘ラス銀行ハ合法ノ支拂ヲ爲シタルモノニシテ被害者ノ地位ニ立ツヘキ者ニアラス現ニ住友支店ハ總テ自己ヲ被害者ナリト認メ揚帶ノ告訴ヲ爲シ私訴ヲモ提起シ居レリ右ノ事實ナレハ原院ハ被告カ第一國立銀行ヨリ取出タル二萬圓ニ付テモ住友支店ニ現在セシ一千百餘圓ト共ニ揚帶罪ヲ以テ論スヘキニ事茲ニ出テスシテ二萬圓ノ分ニ對シテハ第一國立銀行ヲ詐欺シタルモノトナシ詐欺取財ヲ以テ論シタルハ不當ナリト云フニ在レトモ

○原院ノ認定シタル事實ニ依レハ被告ハ擅ニ住友支店名義ノ振出切手ヲ作製シ之ヲ正當ナル切手ノ如クニ第一國立銀行支店爲替兼金庫係片岡新助ヲ欺キ金

四ヲ騙取シタルモノナレハ原院カ詐欺取財ヲ以テ處斷シタルハ相當ナリ辯護士ノ擴張第一ハ
 刑法第六十一條ニ期滿免除ハ云云關席判決ニ係ル時ハ其宣告ノ日ヨリ起算ス下アリ判決言渡
 ノ日ヨリ同法第五十九條ニ規定スル年限ヲ經過シタルニ於テハ其判決確定シ已ニ期滿免除ヲ
 得タルモノナレハ其關席判決ヲ受タル者ヨリ故障ノ申立ヲ爲スモ之ヲ受理スヘキモノニアラ
 サルナリ然ルニ本件ハ明治二十年一月中神戸地方裁判所ニ於テ關席判決ヲ受ケタルモノナレ
 ハ同二十七年一月中ニテ已ニ期滿免除トナリ居ルモノナリ而シテ故障申立ハ同年五月中ニ爲
 シタルモノナルニ付原院ハ故障棄却ノ判決ヲナシ同時ニ被告ヲ放免スヘキ旨渡ヲ爲スヘキニ
 事茲ニ出テサルハ不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○刑法第六十二條ニ依レハ刑ハ執行ヲ適
 レタル者ニ對シ逮捕ヲ命シタル時ハ期滿免除ヲ中斷スルモノトス而シテ刑ハ言渡ハ對審タル
 下關席タルトハ間ハス執行ヲ目的トスルモノナレハ關席判決ヲ受タル者ト雖トモ其期滿免除
 ハ逮捕ノ命令ニ依リテ中斷ス本件ニ付テハ明治二十一年一月二十日ニ關席判決アリテ滿七ケ
 年ヲ經過スルモノ同二十六年十月五日檢事ヨリ被告ニ對シ逮捕狀發付シアレハ期滿免除ハ中斷
 シアルモノナリ故ニ原院カ故障申立ヲ棄却セス本案ニ判決ヲ與ヘタルハ相當ナリ其第二ハ證
 入四八條長秋ノ豫審調書ヲ閱スルニ民事原告人タル住友吉左衛門ト親屬其他身分上ノ關係ヲ
 問フタル事跡ナシ然ルニ之ヲ證人ノ證言トシテ斷罪ノ證據トナシタルハ不法ナリト云フニ在
 レトモ○參考入服部獎ノ豫審調書ニ民事原告人トナルヤ否ノ問ニ對シ民事原告人トナル旨ノ
 答アリ又證人四八條長秋ノ豫審調書ニハ民事原告人服部獎トハ親屬其他ノ身分上緣故ナキヤ

ト問ヒ決シテ無キ旨ヲ答ヘタリ然ラハ豫審判事ハ證人ニ對シ民事原告人トノ身分上ノ關係ヲ
 訊問シタル上證人トシテ供述セシメタルモノナレハ違法ノ罪ナク隨テ原院カ右證人ノ調書ヲ
 證言トシテ斷罪ノ資料ニ供シタルハ違法ニアラス要スルニ上告ハ一モ其理由ナシトス
 右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本按上告ハ之ヲ棄却ス
 明治二十八年十月一日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

○贓物故買ノ件

明治二十八年第一一四號
明治二十八年十月一日宣告

○判決要旨

檢事差支アリテ事件ノ取扱ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テ其事件猶豫スヘカ
 ラサル事情アルトキハ判事ニ檢事ノ代理ヲ命スルコトヲ得而シテ檢事差支ア
 リヤ否ハ檢事内部ノ關係タルニ過キス復タ事件猶豫スヘカラサルヤ否ハ所長
 監督判事又ハ判事ノ意見ニ一任スヘキモノトス從テ一件記録ニ依リ代理合法
 ノ事實ナシトテ之ヲ以テ不當ノ起訴トシ公訴不受理ノ判決ヲ爲スハ其當ヲ得
 ス

(參照) 若一人ノ檢事若クハ數人ノ檢事悉ク差支アリテ或ル事件ヲ取扱フコトヲ得サルトキハ裁判所長又ハ區裁判所ニ於テ判事若クハ監督判事ハ其事件猶豫スヘカラサルニ於テハ判事ニ檢事ノ代理ヲ命シ其事件ヲ取扱ハシムルコトヲ得(裁判所構成法第六條第四項)

公訴不受理ノ判決ニ對シ受理審判ノ申立ヲ爲スハ被告人ノ不利益ニ歸スル論旨ナルヲ以テ上告ノ理由トナスヲ得ス

第一審 神戸地方裁判所豊岡支部 第二審 大阪控訴院

被告人 杉岡富次郎

明治二十八年九月七日右富次郎ニ對スル贓物故買被告事件公訴私訴ノ控訴ヲ審理シタル末公訴私訴ニ對スル原判決ハ之ヲ取消ス本件公訴ハ之ヲ受理セス私訴ハ之ヲ却下ス押収ノガラ即乾燥澱物五百目ハ被告富次郎ニ還付ス私訴ニ關スル裁判費用ハ民事原告人ノ負擔トスト旨渡タル判決ヲ不當トシ原院檢事長林誠一ハ上告ヲ爲シ被告富次郎モ附帶上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理スル處

檢事上告趣意ハ本案訴訟記録ヲ查閱スルニ檢事代理判事濱本庫吉ノ名ヲ以テ起訴シアルモ檢事差支ノ爲メ所長或ハ監督判事ニ於テ檢事代理ヲ濱本庫吉ニ命シタル事蹟ノ見ルヘキモノナク且被告ハ起訴ノ前日迄隠人トシテ訊問ヲ受ケ居リ逃走等ノ恐レアルモノトモ見ヘス隨テ事件猶豫スヘカラサルノ狀況ハ一トシテ徵スヘキモノナク加フルニ原裁判所檢事増田潤ヨリ當院檢事長ニ差出シタル丁號局員勸怠報告書ニ作レハ同檢事同日出勤シ居ルコトモ明ナルヲ

以テ差支アルモノト見做シ難シ又裁判所構成法第六條末項ハ事緊急ノ場合ニ限ルノ特例ニシテ故ナク代理スルモ代理ノ効果アラサルモノトス若シ之ヲ濫行スレハ判事檢事ノ職域ヲ紊乱スルニ至ル況ンヤ濱本庫吉ハ公判ニ陪席シタルオヤ故ニ之ヲ有効ナラシムルニハ記録中檢事差支アリテ判事ニ代理ヲ命シタルノ事蹟ノ見ル可キモノアラサル可ラサルニ本案ハ然ラサルヲ以テ適式ノ起訴ト速斷スルヲ得ス而シテ適式ト否トハ重大ノ關係アルヲ以テ止ムナク起訴ニ基キ不適式ノ起訴トシテ意見ヲ述ベタルニ判事モ意見ヲ採テ公訴不受理ノ判決ヲ爲シタリ然レトモ萬一記録外ニ適式ノ手續ヲ履行シアルモ期シ難キヲ以テ一面口號ノ通り原檢事ニ問合ヲ爲シタルニハ號ノ通り回答アリ此ニ始メテ適式ノ起訴タリシヲ確メ得タルニ付テハ檢事ノ意見及公訴不受理ノ判決ハ不當ヲ免レサルモノトス因テ本案判決ハ不當ニ法則ヲ適用シタルモノニ付破毀ノ上相當裁判所ニ移サレンコトヲ望ムト云フニアリ被告附帶上告ノ趣意ハ檢事上告ノ趣意ハ相當ナルヲ以テ原判決ヲ破毀セラレンコトヲ望ムト云フニアリ○因テ裁判所構成法ヲ閱スルニ其第六條末項ニ若一人ハ檢事若クハ數人ノ檢事悉ク差支アリテ或ル事件ヲ取扱フコトヲ得サルトキハ裁判所長又ハ區裁判所ニ於テ判事若クハ監督判事ハ其事件猶豫スヘカラサルニ於テハ判事ニ檢事ノ代理ヲ命シ其事件ヲ取扱ハシムルコトヲ得ト記載シアリ而シテ其檢事ハ差支有無ハ檢事内部ノ關係ナレハ他ヨリ窺ヒ知ルヲ得サルモハニシテ又其事件ヲ猶豫スヘカラサルモノト認ムルト否ハ獨リ其所長又ハ判事若クハ監督判事ノ意見ニ一任シタルモノナルヲ以テ原院ニ於テ一件記録中果シテ合法ノ理由ニ因リシ事實ハ視ルヘキモノナシ

民事原告人○収入役ノ監守盜○微憑

トテ本件ヲ不當ノ起訴ニ基カモハトシ第一審判決ヲ取消シ公訴不受理ハ判決ヲ爲シタルハ失當ニシテ檢事ハ上告ハ畢竟由アルモハトス然レトモ公訴不受理ハ判決ニ對シ之ヲ受理審判セラルヘキモハト論争スルハ被告ハ人ノ利益ニ歸スヘキ論旨ナルヲ以テ被告ハヨリ上告ハ原由ト爲スヲ得サルモハナレハ被告ハ附帶上告論旨ハ相立タズ因テ檢事ノ上告ニ付刑事訴訟法第二百八十六條ニ被告ハ附帶上告ニ付同法第二百八十五條ニ從ヒ判決スル左ノ如シ

檢事ノ上告ニ付原判決ヲ破毀シ之ヲ名古屋控訴院ニ移ス

被告ハ附帶上告ハ之ヲ棄却ス

明治二十八年十月一日大審院第二刑事部公庭ニ於テ檢事應當融立會宣告ス

○監守盜ノ件

明治二十八年第七五七號
明治二十八年十月三日宣告

○判決要旨

民事原告人ト雖モ私訴ノ申立以前ニ於テ證人トシテ供述シタルトキハ其證言ハ有効ナリトス(判旨第二點)

法律命令ニ依リ町村長ノ處理ニ屬スヘキ金員ト雖モ凡ソ町村ノ收支ニ係ルモ

ノハ總テ收入役ニ於テ監守ノ責任ヲ有ス而シテ貧民救助金ノ如キハ當然收入役ノ職務上監守スヘキモノナレハ之ヲ竊取シタル所爲ハ監守盜ヲ以テ論ス(判旨第五點)

微憑ニ制限ナシ(判旨第九點)

第一審 德島地方裁判所 第二審 廣島控訴院

被告人 吉田茂治郎 辯護人 高木益太郎

右茂治郎カ監守盜被告事件ニ付明治二十八年五月二十七日廣島控訴院ニ於テ德島地方裁判所檢事カ公訴ノ判決ニ對シ民事原告人福永友太郎カ私訴ノ判決ニ對スル控訴事件本院ノ移送ニ因リ審理シタル末公訴ニ付テハ德島地方裁判所ノ判決ヲ取消シ更ニ被告ヲ輕懲役七年ニ處ス蓋押ニ係ル帶一筋其他ノ物件ハ各差出人ニ還付シ公訴々訟費用ハ被告ニ於テ其全部ヲ負擔スヘシト言渡シ又私訴ニ付テハ同裁判所ノ判決ヲ取消シ被告ハ民事原告人ニ對シ金六百七十圓四十一錢九厘ヲ辨償ス可シ私訴々訟費用ハ總テ被告ノ負擔トスト言渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ

上告趣旨ノ第一點ハ原院ニ於テ證據物件ノ取寄及ヒ證人ノ喚問ヲ請求シタルニ之ヲ採用セスシテ取調ヲ爲サリシハ被告利益ノ爲メ設ケタル規定ニ違フモノナリト云フニ在レトモ○證

民事原告人○収入役ノ監守盜○微憑

據物件ノ取寄及ヒ證人ノ喚問ノ如キハ其必要アルヤ否ヤヲ判別シテ其申請ヲ許否スルハ原承
審官ノ職權ニ在ルモノナレハ之ヲ許可セザリシヲ以テ違法ト爲スコトヲ得ス

判旨第二點

同第二點ハ原院カ民事原告人福永友太郎ノ供述ヲ以テ證言ノ効アルモノトシテ斷罪ノ資料ニ
供シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○豫審ニ於テ福永友太郎ヲ證人トシテ訊問シタルハ明
治二十七年七月五日以前ニシテ同人カ私訴ノ請求ヲ爲シタルハ同年八月二十八日ナレハ乃チ
證人トシテ訊問シタルハ未タ民事原告人トナラサル以前ニ在ルヲ以テ原院カ證言ノ効アルモ
ハト爲シ同人ハ豫審調書ヲ採テ以テ斷罪ノ資料ニ供シタルハ決シテ違法ニアラス

第一擴張書ノ第一點ハ原院文ニ同村内ニ於テ右金圓ヲ隱匿シ云々人ヲシテ己ヲ松樹ニ縛セシ
メ云々トアルノミニシテ其金圓ヲ隱匿シタル場所及ヒ被告ヲ縛シタル者ノ人名ヲ明示セサル
ハ違法ナリト云フニ在レトモ○右金員ヲ隱匿シタル場所及ヒ被告ヲ縛シタル者ノ氏名ノ如キ
ハ犯罪ノ構成ニ關セサル事實ナルヲ以テ固ヨリ之ヲ明示スルコトヲ要セス而ルヲ況ヤ金員隱
匿ノ場所ノ如キハ同村内ニ於テ云々ト明示シアルニ於テテ乎故ニ此論旨ハ到底採ルニ足ラサ
ルモノトス

同第二點ハ原院文ニ民事原告人ニ於テハ原判決ヲ取消シ被告人ハ民事原告人ノ請求スル損害
金六百七十圓四十一錢九厘ヲ賠償ス可シトノ判決ヲ求ムル申立ヲ爲シ云々トアレトモ被告ハ
竊モ右等ノ申立ヲ爲シタル事實ナク被告ニ於テ斯ノ如キ請求ヲ爲ス理由ナシ是皆判官ノ推測
ヨリ出テタル理由ナルニ之ヲ以テ斷罪ノ資料ニ供シタルハ不當ナリト云ヒ又豫審終結ノ決定

第一二審ノ判決及ヒ其各檢事ノ辯論各其意見ヲ異ニスルヲ觀ルモ證據ノ不充分ナルコト明白
ナルニ推測ヲ以テ有罪ノ判決ヲ與ヘタルハ不當ナリト云フニ在レトモ○右前段ノ論旨ハ原判
文ヲ查閱スルニ民事原告人ニ於テ原判決ヲ取消シ而シテ被告ヨリ損害金六百七十圓四十一錢
九厘ヲ賠償ス可シトノ判決ヲ受ケタリト申立テタリトノ趣旨ニシテ被告ヨリ右ノ申立ヲ爲シ
タリトノ趣旨ニアラサルコトハ一讀瞭然ニシテ畢竟此論旨ハ被告ノ誤解ニ外ナラサルモノト
ス又後段ノ論旨ハ承審官ノ職權ニ存スル事實ノ認定ヲ非難スルモノナレハ固ヨリ上告ノ理由
トナルヘキモノニアラス

判旨第五點

同第三點ハ國ノ行政ニ係ル國稅縣稅及ヒ貧民救助金ノ如キハ總テ町村長ノ保管ニ係ルモノナ
レハ取入役ニ於テハ町村稅ヲ除クノ外右等ノ金員ヲ保管シ看守スヘキ責任ナク便宜上村長ヨ
リ一時委託ヲ受ケタルモノナレハ之ヲ費消シ又ハ竊取スルモ刑法第二百八十九條ヲ以テ處罰
スヘキモノニアラスト云フニ在レトモ○凡ソ町村ハ收支ニ係ルモノハ法律命令等ニ依リ町村
長ノ處理スル事項ニ屬スル金員ト雖モ總テ取入役ニ於テ監守ノ責任アルモノナレハ乃チ貧民
救助金ハ如キモ亦取入役ノ職務上監守スヘキモノナルコト勿論ナリ故ニ原院カ刑法第二百八
十九條ヲ適用シテ處斷シタルハ決シテ違法ニアラサルナリ

同第四點ハ委託金費消罪ニ付費消ノ事實理由ヲ示サ、ルハ不法ナリト云フニ在レトモ○原判
文ヲ查閱スルニ委託ノ金圓ヲ費消シタル所爲ハ同法第三百九十五條末段云々ニ該當シトアリ
テ刑法第三百九十五條末段ノ罪ヲ構成スルニハ費消ノ事實アル事ヲ要セサル者ナレバ費消ノ

事實理由ヲ付セサルモ致テ不法ト爲スコトヲ得ス

第二擴張書ノ第一點ハ證人中尾霜吉板東長太郎ノ豫審調書ヲ閱スルニ豫審判事ニ於テ刑事訴訟法第百二十三條ニ記載シタル者ナルヤ否ヤヲ訊問セサル不法ノ調書ナルニ原院力之ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○右兩名ノ豫審調書ヲ查閱スルニ茲ニ於テ判事ハ刑事訴訟法第百二十三條ヲ讀聞カセ監守盜被告人吉田茂治耶ト該條ニ記載スル所ノ關係アルヤ否ヤヲ問ヒタルニ毫モ關係ナキ旨答ハタルヲ以テ云々ト明記シアルニ付決シテ本論旨ノ如キ違法ノ點アルコトナシ

同第二點ハ證人中尾霜吉板東長太郎及ヒ被告ノ第二回第三回ノ豫審調書ニ書記其他立會人ナキノミナラス調印モナシ且豫審判事ノ臨檢調書モ亦同様ニシテ無効ナルニ原院力之ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○右證人等ノ各豫審調書ヲ查閱スルニ書記須磨友吉又ハ服部春吉ノ署名捺印アリテ乃チ書記ノ立會タルコト明瞭ニシテ其他ニ立會人ヲ要ス可キモノニアラサレハ毫モ違法ノ點ナク其調書ノ有効ナルコト勿論ナレハ原院力之ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルハ固ヨリ當然ナリトス又臨檢調書ヲ查閱スルニ同シク書記須磨友吉ノ署名捺印アリ且被告ノ居宅ニ臨ミ物件ヲ搜索スル場合ニ當テハ被告不在ナルニ付同居ノ母クラチ立會ハセタルコト該調書ニ明記スル所ナレハ是亦違法ノ點ナキノミナラス假ニ此臨檢調書ハ違法ニシテ無効ナリト爲スモ原院ハ之ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルコトナキヲ以テ原判決ヲ不法ナリト爲スコトヲ得サルナリ故ニ此論旨モ亦相立タス

判旨第九點

辯護士高木益太郎カ辯明論旨ノ第一點ハ本件ノ盜難景況書及ヒ盜難景況書ノ如キハ刑事訴訟法第九十條ニ所謂證據ト云フ可キモノニ非ス然ルニ原院力之ヲ斷罪ノ證據ト爲シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○右同條ニハ被告人ハ自白云々其他諸般ハ微恐ハ判事ハ判斷ニ任ストアリテ何等ノ制限ヲモ設ケサルハ規定ナレハ法律上無効トナル可キモノヲ除クハ外ハ總テ盜難景況書若クハ盜難景況書ノ類ハ微恐中ニ包含シタルモノト解セサル可カチス故ニ原院力是等ノ書類ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルハ不法ニアラサルナリ

同第二點ハ本件ノ豫審終結決定ハ未タ被告ニ適法ナル送達アリタルモノニアラス然ルニ原院力公判ヲ開キ有罪ノ判定ヲ爲シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○右豫審終結決定書ハ何故ニ適法ナル送達ナシト爲スカ毫モ其理由ヲ説明セサルニ付之ヲ知ルニ由ナシ又假ニ適法ナル送達ナシトスルモ既ニ公判ニ付セラレ豫審終結ノ決定確定シタルモノナレハ是等ノ事ヲ以テ上告ノ理由ト爲スコトヲ得ス

同第三點ハ本案ハ第一審ニ於テ無罪ノ宣告アリタル事件ニシテ檢事ハ之ヲ重罪トシテ主タル控訴ヲ爲シタルモノナレハ此上訴ヲ受理シタル原院ハ刑事訴訟法第二百六十四條ニ基キ更ニ重罪事件トシテ裁判スヘキ旨ノ決定ヲ爲シ受命判事ヲシテ其事件ノ報告ヲ爲サシメサル可カラス然ルニ此法式ヲ踐マスシテ輕懲役七年ニ處スト宣告シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○右同條ヲ案スルニ控訴院ニ於テ地方裁判所カ輕罪ナリト判決シタル事件ヲ重罪ナリトスルトキ云々トアルニ付即チ地方裁判所カ輕罪ナリト判決シタル事件ヲ重罪ナリト爲ス場合ヲ規

定シタルモノニシテ本案ノ如ク地方裁判所カ無罪ナリト判決シタル事件ヲ重罪ナリト爲ス場
合ヲ規定シタルモノニ非ス故ニ本案ハ縱令檢事ニ於テ重罪ナリトノ主タル控訴ヲ爲スモ刑事
訴訟法第二百六十四條ノ規定ニ該當セサルモノナレハ原院ニ於テ同條ノ法式ヲ履行セザリシ
ヲ以テ不法ナリト爲コトヲ得ス

同第四點ハ原判文ニ「村長以下同役場員一同退場シタル隙ニ乘シ明治二十七年五月九日午後六
時頃同縣同郡大字七條村ニ在ル同役場宿直室備付ノ鐵製金庫ノ鎖鑰ヲ開キ其中ニ仕舞アリタ
ル云々金四圓三十六錢三厘ヲ竊ニ取出シ」トアルニ依レハ右所爲ハ竊盜罪ヲ以テ論ス可キモノ
ノ如ク又其中間ニ同時ニ前同様金庫ニ仕舞アリタル村民ノ申合ニ因リ特ニ其管理ヲ村長ニ委
託シ被告ニ於テ村長ノ委託ヲ受ケ保管セル云々トアルニ依レハ委託物毀消罪ヲ以テ論ス可キ
モノ、如シ是即チ事實ノ理由齟齬セリト云フニ在レトモ○原判文ヲ查閱スルニ「被告ハ監守金
ヲ竊取スルト同時ニ豫テ特別ニ村長ノ委託ヲ受ケテ自己カ保管スル所ノ役場備付ノ金庫ノ中
ニ仕舞アリタル軍人待遇費金等ヲ竊ニ取出シ而シテ恰モ他人ニ竊取セラレタルカ如キ體ヲ經
ヒ置キ云々シタリ」トノ事實ヲ認メタルニ過キスシテ即チ刑法第三百九十五條末段ニ該當スル
事實ヲ明示シタルノミ決シテ竊盜罪ヲ以テ論ス可キモノ、如キ事實理由ノ齟齬アルコトナシ
私訴ノ上告趣旨ハ公訴ノ上告趣旨ヲ適用スト云フニ在レトモ○既ニ說明シタル如ク公訴ノ上
告趣旨適法ノ理由ナキヲ以テ隨テ私訴ノ上告モ亦相立タサルモノトス
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本案公訴及ヒ私訴ノ上告ハ之ヲ棄却ス

但私訴々訟費用ハ上告人ノ負擔トス

明治二十八年十月三日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立合宣告ス

○竊盜及建物毀壞ノ件

明治二十八年第七八九號
明治二十八年十月三日宣告

○判決要旨(明治二十八年第八一六號倉橋政二
詐欺取財ノ件参照第一卷四八頁登載)

司法警察官ハ非現行犯ノ場合ニ於テ訊問調書ヲ作成スルノ權能ナシ從テ其調
書ヲ證據ニ供シタル判決ハ不法ナリ

第一審 長野地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告入 上野爲吉 辯護人 高木益太郎

右竊盜及建造物毀壞被告事件ノ控訴ニ付明治二十八年五月三十一日東京控訴院ニ於テ長野地
方裁判所ノ判決ヲ取消シ被告爲吉ヲ重禁錮十月ニ處ス押收ノ釘外壹點ハ差出人ニ還付ス公訴
裁判費用ハ被告入ノ負擔トスト旨渡シタル判決ニ服セス被告ハ上告ヲ爲シ原判決全部ノ破毀
ヲ要求セリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ

司法警察官ノ作リタル非現行犯ノ訊問調書

被告人ノ辯護士高木益太郎上告趣意辯明書第三ノ要ハ原院カ宮本權藏ノ手續上申書ヲ有罪ノ證據ニ供シタルハ不法ナリ何トナレハ元來本件ハ非現行犯事件ナルヲ以テ司法警察官ニ於テ假豫審處分ヲ爲ス能ハサル事ハ論ヲ竣タズ然ルニ宮本權藏ノ手續上申書ヲ見ルニ明治二十八年一月十五日ヨリ同二十日迄ノ間ニ豊丘村上野爲吉ニ對シ金圓貸與ハ或ハ金圓受取致候事有之ヲ御聞ニ付左ニ上申仕候云々依テ手續上申候也明治二十八年二月七日宮本權藏印須坂警察署長警部奥田職輔殿「トアリテ之ニ奥田警部ノ認印及須坂警察署ノ印ヲ押捺シアルヲ以テ見レハ右文書ノ名目ハ手續上申書ナルモ其司法警察官ノ訊問ニ對スル關係人ノ答辯ヲ記載シタル調査タルニ外ナラス果シテ然ラハ司法警察官カ非現行犯事件ニ付宮本權藏ヲ訊問シタルハ違法ノ處分ナルヲ以テ其書類モ無効ノモノナルニ原院カ採テ以テ有罪ノ證據トナシタルハ不法ノ裁判ナリト云フニアリ

○依テ右書類ヲ査閱スルニ手續上申書ト題シ須坂警察署長警部奥田職輔ニ宛テアルモ其文中ニ上野爲吉ニ對シ金圓貸與ハ或ハ金圓受取致候事有之哉御訊問ニ付左ニ上申仕候トアリ尤モ訊ハ一字ハ削除スル旨欄外ニ記載シアルヲ以テ今訊ハ字ハ存セサルモ尙ホ現在ハ文詞ニ據テ見ルモ該書而ハ名目及外形上ノ體裁如何ニ拘ハラズ其實司法警察官ハ訊問ニ對スル答辯ヲ記載シタル書面ニ外ナラス又本案竊盜事件カ非現行犯ナルコトハ一件記録ニ徴シ明カナルハ司法警察官カ此場合宮本權藏ヲ訊問シタルハ不法ハ處分ニシテ此不法ハ處分ニ基キ作成セラルタル書類ハ無効ナルハ勿論ナリ然ルニ此無効ハ書類ヲ採リ斷罪ハ資料ニ供シタルハ不法ニシテ原院決ハ上告論旨ハ如ク破毀ハ原由アルモハトス既ニ此點ニ於テ原

判決全部ヲ破毀スヘキモノト認ムルヲ以テ他ノ上告論點ニ對シテハ特ニ説明スルノ要ナシ
右ノ理由ナルニ付刑事訴訟法第二百八十六條ニ從ヒ原院決全部ヲ破毀シ更ニ審判セシムル爲メ本件ヲ宮城控訴院ニ移ス

明治二十八年十月三日大審院第一刑事部公延ニ於テ檢事安居修藏立會宣告ス

○貨幣偽造行使ノ件

明治二十八年第七九六號
明治二十八年十月三日宣旨

○判決要旨

司法警察官ハ非現行犯ノ場合ニ於テ訊問調査ヲ作成スルノ權能ナシ從テ其調査ヲ證據ニ供シタル判決ハ不法ナリ

第一審 大分地方裁判所 第二審 長崎控訴院

被告人 都甲辰吾 辯護人 高木益太郎
松田登市

右貨幣偽造行使被告事件ニ付明治二十八年五月二十三日長崎控訴院ニ於テ被告ノ控訴ヲ審理ノ末第一審裁判所カ被告同名ヲ各重懲役九年ニ處スト旨渡シタル判決ヲ認可シ被告ノ控訴ヲ

司法警察官ノ作リタル非現行犯ノ訊問調査

棄却シタリ被告兩名ハ右判決ニ對シ上告ヲ爲シ原判決ノ破毀ヲ要求シ原院檢察事長大島貞敏ハ上告理由ナキ旨ノ答辯書ヲ差出セリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ
被告兩名辯護士高木益太郎上告趣意辯明書ノ第一ハ本件第一審判決證據列記ノ部ニ司法警察官ノ作リタル問答書ニ微シ證據充分ナリトアリ依テ該問答書ヲ縮視スルニ日出警察署警部小川勇治カ同警察署ニ於テ都甲辰吾等ヲ被告人トシ都甲スエ等ヲ關係人ナリトシテ本案貨幣偽造事件ノ始末ヲ問答シタル上同人等ニ署名捺印ヲナシメタル訊問調書ナルコトハ右文書自體ニ依リ明瞭ナリ然ルニ元來本件ハ非現行犯事件ナルヲ以テ司法警察官カ右等ノ訊問ヲ爲シ其調書ヲ作成シタルハ越權違法ノ措置ナルノミナラス假リニ現行犯ナリトスルモ二名以上ノ立會人ナカリシヲ以テ右文書ハ到底無効ノモノタルヲ免カレス是故ニ本件ノ第一審判決ハ無効ノ書類ヲ採テ斷罪ノ證據トナシタル違法アルニ原院カ右判決ヲ認可シテ被告ノ控訴ヲ棄却シタルハ不法ナリト云フニ在リ
○依テ審案スルニ本件被告事件ハ事實ハ巡查高橋五郎治ハ探偵ニ依リ發覺シタル處ハモ、ニシテ本件ハ非現行犯事件タルコトハ一件記録ニ微シ明瞭ナリ而シテ非現行犯ノ場合ニ於テ司法警察官カ被告人又ハ關係人等ノ訊問ヲ爲シ其調書ヲ作成スルハ違法ハ處分ニシテ其文書ハ素ヨリ無効ハモ、ハナルニ第一審裁判所ニ於テ本件ニ付司法警察官カ作製シタル被告人及ヒ都甲スエ等ノ問答書ナルモノヲ採テ斷罪ノ證據ニ供シタルハ違法ハ外此ニシテ原院ハ右違法ハ外此ヲ取捕シ更ニ判決ヲ爲サハハカチ不然ハハ原外此爰ニ

出テ右違法ハ判決ヲ認可シ被告ハ控訴ヲ棄却シタルハ不法ノ判決タルヲ免カレスシテ上告論旨前段ハ其理由アルモ、ハトス既ニ此點ニ付破毀スヘキモノト認ムル上ハ其他ノ論旨ニ對シ一々説明スルヲ要セス

右ノ理由ニ付刑事訴訟法第二百八十六條ニ從ヒ原判決ヲ破毀シ更ニ審判ヲ爲サシムル爲メ本件ヲ廣島控訴院ヘ移スモノナリ

明治二十八年十月三日大審院第一刑事部公延ニ於テ檢察事岩野新平立會宣告ス

○官私印偽造使用詐欺取財等ノ件

明治二十八年第九八四號
明治二十八年十月三日宣告

○判決要旨

私印偽造行使罪ヲ斷スルニ刑法第二百十條ヲ適用シ同法第二百八條ヲ適用セサル判決ハ擬律錯誤ノ裁判ナリ(判旨第七點)

(參照) 他人ノ私印ヲ偽造シテ使用シタル者ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス若シ他人ノ印影ヲ盜用シタル者ハ一等ヲ減ス(刑法第二百八條)
賣買貸借贈遺交換其他權利義務ニ關スル證書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者

私印偽造罪ノ擬律○不利益ノ變更ヲ許サル法則ノ意義

ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其餘ノ私書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ一年以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス(刑法第二條)

原判決ヲ變更シテ被告人ノ不利益ト爲スヲ許サストノ法則ハ判事ノ職權ヲ以テ裁判ヲ爲シ得ヘキ公訴費用等ノ場合ニ適用スヘキモノニアラス(判旨第九點)

(參照) 被告人辯護人又ハ法律上代理人ノミ控訴ヲ爲シタルトキハ原判決ヲ變更シテ被告人ノ不利益ト爲スコトヲ許サス(刑事訴訟法第二百六十五條第一項)

第一審 靜岡地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 河合兼吉 柴川香作 辯護人 熊倉操

右兼吉外二名ニ對スル官私印偽造使用公私文書偽造行使私印盜用詐欺取財委託金費消被告事件ニ付キ明治二十八年七月八日東京控訴院ニ於テ被告等ノ控訴ヲ受理シ審理ノ末原判決ハ之ヲ取消ス被告兼吉ヲ重懲役十年ニ處ス被告香作ヲ重禁錮三年ニ處シ罰金三十圓ヲ附加シ監視一年ニ付ス被告作次ヲ重禁錮一年六月ニ處シ罰金十五圓ヲ附加シ監視十月ニ付ス押収ニ係ル帳簿證書々面類印形ハ總テ各差出人ニ還付ス公訴裁判費用ノ内第一乃至第三ノ點ニ關スル金十八圓六十錢ハ被告三名ニ於テ柴川初太郎ト共ニ第四第五ノ點ニ關スル金十四圓ハ被告兼吉ニ於テ關本金次郎柴川初太郎ト共ニ第六ノ點ニ關スル金五圓十錢ハ被告兼吉香作ニ於テ柴川初太郎ト共ニ第七乃至第十三ノ點ニ關スル金十六圓七十錢ハ被告兼吉香作ニ於テ大石半兵衛

ト共ニ第十四ノ點ニ關スル金三圓四十錢ハ被告兼吉ニ於テ大石半兵衛關本金次郎ト共ニ第十五ノ點ニ關スル金五圓七十錢ハ被告兼吉ニ於テ關本金次郎ト共ニ連帶負担シ第十六第十七ノ點ニ關スル金三圓二十錢ハ被告兼吉一名ノ負担トスト言渡シタル判決ニ服セス被告等ヨリ上告ヲ爲シタルニ依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理スル左ノ如シ
被告兼吉上告趣意ノ要旨ハ被告ハ本件官印偽造ハ公文書偽造行使ニ關與セス唯金主ヘ口入レセシニ過キスト云フニ在リテ○漫リニ原承審官ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ニ對シ不服ヲ唱フルニ過キスシテ上告適法ノ理由トナラス

被告兼吉辯護人熊倉操上告趣旨擴張第一點ハ原判決理由中上告人ノ所爲第十一第十二第十三ノ所爲ニ對シ證人瀧彌吉ノ證言ヲ證據トセラレタルモ上告人ノ一件書類中ヲ調査スルニ證人瀧彌吉ハ何等ノ取調ヲ受ケタルコトナク又何等ノ證言ヲ爲シタルコトナシ之ヲ以テ斷罪ノ證據ト爲シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○一件記録中明治二十七年四月二日附ノ同人調査及同日附ノ宣誓書モ附屬シアレハ本論旨ハ謂ハレナシ同第二點ハ原院ハ大石半兵衛第一審裁判ニ服從シ裁判確定シタルモノニ對シ控訴院ニ於テ他ノ相被告人カ控訴シタリトテ其費用マテ大石半兵衛ニマテ負擔スヘント判決シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○本論旨ハ被告兼吉ニ關係セサル事項ニ依據シタルモノナレハ上告ノ理由ト爲スヲ得ス

被告香作上告趣意第一ノ要領ハ數罪俱發ト云フヘカラス而シテ被告ハ本件ニ於テハ私印盜用即官印偽造罪公證文書偽造罪委託金費消罪等ニハ毫モ關與セサルナリ然ルニ原判決ノ理由ニ

ハ他人ノ罪ト混同シテ數罪俱發ト爲シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ〇原判決ノ認ムル所ニ依レハ原判決中列記ノ各所爲中第一乃至第三第七第八第九等ハ總テ被告吾作ハ兼吉等ト共謀シテ爲シタル犯罪ナレハ被告吾作ノ犯罪モ既ニ數多アルコト明カナレハ原判決力之ヲ數罪俱發トシテ之ヲ處分シタルハ固ヨリ當然ニシテ本論旨ハ必竟スルニ原院ノ下シタル事實ノ認定ニ對シ不服ヲ唱フルニ過サルヲ以テ上告適法ノ理由トナラス其第二ノ要ハ數罪俱發ノ場合ニ於テハ輕罪ナルトキハ其所犯情狀最モ重キモノニ從テ處斷スヘキ規定ナルカ故ニ其情狀最モ重キモノヲ明示シテ間擬セサル可カラス然ルニ單ニ一ノ重キ第一私印偽造罪ニ從ヒ吾作ヲ重禁錮三年云々ト判決セラレタルハ不法ナリト云フニ在レトモ〇既ニ論旨ニモ摘示セルカ如ク原判決ハ一ノ重キ第一私印偽造罪ニ從ヒ云々トアリテ第一所爲中丈右衛門ノ實印ヲ偽造シタル犯罪ヲ最モ重シトシテ處斷シタルコト明カナレハ本論旨ノ如キ不法ノ點ナシ

右ノ外被告吾作ハ上告趣意書(上告趣意書ノ誤乎)ト題スル書面中綴々陳述スル處アルモ其要ハ原判決中地所々有權登記及地所抵當登記請求方久保田安吉ヲシテ地主磯部丈右衛門ノ代人トナシタリトアルモ實際ハ大石中兵衛其代人ナリ原判決第二理由中ニ示シタル犯罪ハ勘四郎ノ居室ニ於テセシ旨ナレトモ果シテ然ラハ勘四郎ハ既ニ承諾セシモノト推定シタルナリ故ニ騙取云々理由ナシ又勘四郎ノ實印ヲ偽造押捺云々トアルモ實際偽造セシニアラスト云フニアリテ〇徒ラニ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ非難スルカ然ラサレハ原判決ノ認定セサル事實ヲ探テ誤リニ不服ヲ唱フルニ過キサレハ總テ上告適法ノ理由トナラス

判旨第七點

被告吾作上告趣意擴張聲明書ノ第一點乃至第三點ハ右ト同一ノ趣旨ヲ繰述スルニ過キス其第四點ハ原判決第七理由中庵原郡蒲原町蒲原中平山仁平ノ實印ヲ偽造シトアレトモ庵原郡ニハ蒲原町蒲原中ト稱スル大字村名等ハ一切ナシト云フニ在リテ〇原判決ハ法律ニ違背シタル裁判ナルコトヲ理由トスルモノニアラサレハ本論旨モ上告適法ノ理由トナラス其第五點ハ原院ニ於テ判決シタル主文ニ第一乃至第十五ノ私印偽造使用ノ各所爲ハ共ニ刑法第二百十條第一項第二百十二條ニ當テタレトモ私印偽造行使力該條ニ適當ストハ違法ナリト云フニ在リ〇依テ原判決ハ查閱スルニ其法律理由中第一乃至第十五私印偽造使用ハ各所爲ハ共ニ刑法第二百十條第一項第二百十二條ニ云々トアリテ同法第二百八條第一項第二百十二條ニ間擬スヘキモノナルコト明カナレハ本論旨ハ上告適法ノ理由アリトス

被告吾作上告趣意ハ被告私印私書偽造詐欺取財ノ罪アルヲ以テ重禁錮一年六月監視十月罰金十五圓ニ處セラレタルモ其犯罪ニ加功セサリシ旨申立ヲ爲シタルニ何等ノ理由ヲ與ヘス判決セラレタルハ不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ〇既ニ有罪ノ判決ヲ爲シタル以上ハ特ニ其中立ニ對シ理由ヲ附スヘキモノニアラサレハ本論旨ハ上告適法ノ理由ナシ

被告吾作治上告趣意擴張第一點ハ東京控訴院ハ自分等被告事件ノ中第一乃至第三ノ公訴費用金十八圓六十錢ハ被告河合兼吉柴川初太郎柴川吾作矢野作治ノ四名ニ於テ負擔スヘシト判決シタルモ第一審裁判所ニ於テハ前四名ノ外大石中兵衛ヲ加ヘ五名ニテ負擔スヘシトアリテ被告カ控訴シタル爲メ不利益ヲ醸シタルハ刑事訴訟法第二百六十五條ニ違背シタル不法ノ裁判ナ

判旨第九點

リト云フニ在リ○依テ案スルニ刑事訴訟法第二百五十條ニ明示スルカ如ク控訴ハ元ト本案ノ判決及ビ第八十七條ニ規定シタル本案前ノ判決ニ對シテ爲スヘキモノナレハ同法第二百六十五條ノ規定モ亦其判決ニ對スル制限ナレハ公訴費用ノ如キ裁判官ノ職權ヲ以テ裁判ヲ爲シ得ヘキ協合ニ適用スヘキモノニアラス故ニ原院カ公訴裁判費用ニ付音渡シタル裁判ニ對シ刑事訴訟法第二百六十五條ニ基キ論難スル本論旨ハ上告適法ノ理由ト爲スニ足ラス其第二點第三點ハ被告音作ノ上告趣意書ト題スル書面ニ記載スル處ト同一ナレハ更ニ辯明ヲ與ヘス其第四點ハ被告音作上告趣意擴張辯明書第五點ト同一ニシテ其上告適法ノ理由アルコトハ同點ニ對スル辯明ヲ以テ了知スヘシ

右ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條第二百八十七條ノ規定ニ從ヒ判決スル左ノ如シ

被告兼音ノ上告ハ之ヲ棄却ス

被告音作作治ニ對スル原判決中擬律ノ部分ヲ破毀シ更ニ判決スル左ノ如シ

柴川 音作
矢野 作治

原院カ認メタル事實ニ依リ之ヲ法律ニ照ラヌニ第一乃至第十五ノ私印偽造使用ノ各所爲ハ共ニ刑法第二百八條第一項第二百十二條ニ當ル其他ハ原判決通り

明治二十八年十月三日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○私書偽造行使等公訴私訴ノ件

明治二十八年第五九三號
明治二十八年十月四日宣告

○判決要旨

公訴ノ提起ハ適法ノ書面ニ基クテ要ス

共犯者ノ一人ニ對シ提起シタル公訴ヲ以テ直チニ全跡ノ共犯者ニ及ホスコト
ヲ得ス

被告人ハ公訴ノ主體ナリ

第一審 大阪地方裁判所 第二審 大阪控訴院

公訴被上告人 橋本榮次郎 私訴上告人 原田與三郎

私訴被上告人 吉見作五郎 田中芳五郎

右橋本榮次郎カ私書偽造行使及ヒ詐欺取財被告事件ノ公訴私訴ニ付キ明治二十八年四月十三日大阪控訴院ニ於テ被告榮次郎ニ對スル本案公訴ハ之ヲ受理セス與三郎ノ控訴ハ之ヲ棄却スト音渡シタル處公訴ノ判決ニ對シテハ同院檢事長林誠一ヨリ私訴ノ判決ニ對シテハ民事原告人原田與三郎ヨリ各上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ立會檢事安居修藏ノ意見ヲ聽キ判決スルコト左ノ如シ

檢事長上告趣意ハ原院カ公訴不受理ノ判決ヲ爲シタル理由ハ本件ニ關シ豫審判事ニ於テ濫ニ

公訴ノ提起○共犯人ニ對スル公訴提起○公訴ノ主體

檢事ノ起訴ニ因リ松浦林之吉外一名カ被告事件ヲ取調中被告橋本榮次郎モ亦其共犯者ナルコト發見シタルニ付豫審判事ヨリ其旨ヲ檢事ニ對シテ通知シタルモ檢事ハ唯其旨承了セシニ止マリ一件記録中別段起訴セシコトヲ認ムヘキ形跡ナキヲ以テ豫審判事カ本件ニ關スル手續ハ總テ無効ニ屬スト云フニ在リテ該判決ハ事實理由ノ齟齬及ヒ法律ニ違背シタルモノトス何トナレハ本件ニ付檢事ヨリ合法ノ起訴狀ヲ以テ公訴ヲ提起シタルニ非ストスルモ固ヨリ起訴ヲ爲サトルノ意ニ非スシテ共犯者ノ場合ニ於テハ故サラニ起訴狀ノ提出ヲ要セストノ主意ニ過キス抑モ公訴ノ提起ニ付テハ法律上別ニ形式ヲ要セス唯其公訴提起ノ意ヲ受訴判事ニ承認セシムルヲ以テ足レリトス而シテ本件ハ豫審判事ニ於テ被告榮次郎ヲ林之吉外一名ノ共犯者ト認メ之ヲ檢事ニ通知シ檢事ハ已ニ事件ニ對シ起訴シアレハ審理上一事實ノ發見ニ止マルモノト認メ之ヲ承了シ次テ發付セル令狀ノ執行ヲ命シ豫審取調ノ結了ヲ告クルヤ其決定ニ付キ意見ヲ付シ決定確定ノ後公判ヲ求メ引續キ公延ニ於テ犯罪ノ事實ヲ證明シ刑ノ適用ヲ請求シタルモノナレハ檢事ニ於テ公訴提起ノ實行ヲ爲シタルコト明白ナリ然ルニ原院ハ強テ檢事ノ起訴ヲキモト認メタルハ所謂法理ヲ誤リタル結果ナリ又本案ノ豫審決定ハ不完全ナル起訴ニ成立シタルモノト假定スルモ檢事ハ正當ノ起訴ト承認シタル未其決定既ニ確定シタルモノナレハ公判判決ノ確定シタルトキハ同シク法律眼中完全無欠ノモノニシテ假令多少ノ瑕瑾アルモ之カ爲メ此決定ヲ讎スコトヲ得サルハ刑事訴訟法第七十五條第一項ノ法意ヨリ推考スルモ明白ナリ然ルニ原院ハ此確定シタル豫審決定ヲ無視シ違ニ公訴不受理ノ旨渡ヲ爲シタルハ

ナリト云フニ在リ又上告趣意擴張書ヲ以テ福岡與衛門ニ對スル本院判決ヲ不當ナリトシ之カ理由ヲ詳述シタル未該斷例ノ更正ヲ求ムト云ヒ且法理ヨリ論スルモ事實ヨリ觀ルモ一定ノ人ヲ指定セサルナ理由トシ公訴提起ノ効ナシトシ公訴不受理ノ判決ヲ爲シタルハ不當ナル旨結論セリ○依テ案スルニ公訴ハ單ニ意思ハミテ以テ提起シタルモノトスルヲ得スシテ必ス適法ハ書面アルヲ要スルモノナルハ公訴ハ性質上争ハ可ラサル道理ナリ又共犯者アル場合ト雖モ一々其人ヲ指定スルニ非サレハ其内ハ一人ニ對シテハ起シタル公訴ヲ以テ直チニ之ヲ其他ハ人ニ及ボスヲ得ス何トナレハ公訴ハ犯罪ヲ證明シ刑ヲ適用スルヲ目的トスルカ故ニ被告ハ即チ主體ニシテ主體アルニ非サレハ公訴ハ成立チ得ヘキ理ナキヲ以テナリ又豫審終結ハ決定確定シタリトスルモ該決定ハ單ニ有罪トシテ公判ニ移スト云フニ過キサルヲ以テ若シ其公判廷ニ於テ適法ノ起訴ナカリシコトヲ發見スルニ於テハ公訴不受理ノ旨渡ヲ爲スハ當然ニシテ此場合ニ於テハ毫モ豫審終結ノ決定ニ羈束セラレヘキモノニ非サルハ猶ホ有罪ナリトノ決定アリタル場合ニ於テ無罪ノ旨渡ヲ爲スヲ得ルカ如シ其他檢事カ豫審終結ニ對シ意見ヲ述ヘ若クハ公判廷ニ於テ犯罪ノ事實ヲ證明シタリト云フカ如キハ右ニ謂フ如ク適法ノ起訴狀ヲ要スルモノナル上ハ起訴ノ効力上何等ノ價直ナキモノトス又本院ノ判決例ヲ不當ナリトスル理由及ヒ其更正ノ請求ハ本件ノ上告理由トスルヲ得サルヲ以テ爰ニ之カ辯明ヲ與ヘス

私訴上告人ハ定期内上告趣意書ヲ差出サス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ公訴私訴共ニ之ヲ棄却ス私

訴上告費用ハ私訴上告人ノ負擔トス
明治二十八年十月四日大審院第二刑事部公延ニ於テ檢事安居修藏立會宣告ス

〇私書偽造行使官文書偽造等ノ件

明治二十八年八月五八號
明治二十八年十月四日宣告

〇判決要旨

私書偽造罪ヲ斷スルニ當リ其物體タル文書ノ性質ヲ明ニセサル判決ハ裁判ニ理由ヲ付セザル不法ナルモノトス(判旨第一點)

(參照) 賣買貸借贈遺交換其他權利義務ニ關スル證書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス(其餘ノ私書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス(刑法第二條))

關席判決ハ故障ニ依リ不服ヲ申立ルヲ以テ一般ノ原則トス從テ故障ヲ爲サスシテ直チニ上告ヲ爲スヲ許サス但シ控訴ノ場合ハ此限ニアラス(判旨第二點)

(參照) 關席判決ヲ受ケタル者ハ故障ノ期間内故障ヲ爲サスシテ直チニ控訴ヲ爲スコト

ヲ得(刑事訴訟法第二條第二項)

第一審 大阪地方裁判所

第二審 大阪控訴院

公訴上告人

辯護人

私訴上告人

辯護人

杉本元平

鳩山和夫

榎原義則

高木益太郎

右元平カ私書偽造行使官文書官印偽造詐欺取財被告事件ノ公訴私訴ニ付明治二十八年六月十一日大阪控訴院ニ於テ公訴ニ付テハ原判決ヲ取消シ更ニ被告元平ヲ重禁錮一年罰金十五圓監禁六月ニ處ス云々私訴ニ付テハ本件控訴ハ之ヲ棄却スト言渡シタル判決ニ對シ公訴ニ付テハ被告元平ヨリ私訴ニ付テハ原院檢事ヨリ各上告ヲ爲シ尙ホ辯護士ヨリ上告趣意辯明書及ヒ當院檢事ヨリ上告趣意擴張書ヲ呈出セリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

辯護士鳩山和夫同高木益太郎上告趣意辯明書第一審ハ刑法第二百十條第一項ノ犯罪ハ賣買貸借贈遺交換其他權利義務ニ關スル證書ヲ偽造シタルコトヲ要ス然ルニ本件ノ判決理由中ニハ「明治二十五年一月中場所及方法ハ不明ナルモ中八郎ヨリ大阪控訴院書記課宛虛名ナル能美郡安宅町々長岡村義一ノ與書アル明治二十四年十二月二十六日付豫納金下渡願書及ヒ中八郎ヨリ大阪控訴院書記課宛明治二十五年一月十三日付ノ上申書ヲ偽造シトノミアリテ其上申書ニハ如何ナル事柄ヲ記載シアルヤ否モ其事實ヲ説明セサルニヨリ果シテ刑法第二百十條第一項ニ該當スヘキ文書ナルヤ否ヤ明確ナラサルノミナラス願書屆書等ノ偽造ハ概テ同條第二項ニ

私書偽造罪ノ物體〇關席判決ノ上告

判旨第一點

問難スルモノナルヲ以テ原院カ右文書ノ性質ヲ判示セス輒ク刑法第二百十條第一項ヲ適用シタルハ理由チ欠キタル裁判ナリト云フニ在リ
 ○依テ案スルニ私書偽造ノ犯罪ニシテ權利義務ニ關スル證書ニ係ルモノハ、刑法第二百十條第一項ニ依リ其餘ノ私書ニ係ルモノハ同條第二項ニ依リ之カ處分ヲ異ニスヘキモノナルカ故ニ其偽造シタリトスル所ハ私書ハ果シテ權利義務ニ關スル證書ナルヤ否ヤ之カ性質ヲ明ニスルハ裁判上實ニ必要ノ事ナリトス然ルニ原院文ハ前掲ハ如ク單ニ上申書トアルハミニシテ則チ權利義務ニ關スルモノナルヤ否ヤノ事實ヲ示サス或ハ豫納金願書ノ次ニ記載シタルヲ以テ該願書ニ關係セル書類ナリトスルモ關係書類ハ盡ク同一ノ効力アル事項ヲ記載セルモノト斷定スルヲ得ス故ニ原判決ハ裁判ニ必要ナル理由チ欠キタル瑕瑾アリト謂ハサルヲ得ス則チ公訴ニ對スル原判決ハ此點ニ付破毀ヲ免レサルヲ以テ其他ノ公訴上告論旨ニ對シテ一々說明ヲ與フルノ要ナシ

判旨第二點

檢事ノ上告論旨ハ原院ハ國ヲ代表スル檢事カ既定ノ坐席ニ在テ被告人杉本元平カ控訴豫納金ヲ騙取シタル私訴ニ付賠償ノ辯論ヲ爲スニ當リ普通控訴人ノ爲メ設ケタル一定ノ坐席ニ出頭セザルトノ理由ヲ以テ欠席判決ヲ爲シ控訴ヲ棄却シタルハ不法ナリト云フニ在リ
 ○依テ案スルニ刑事訴訟法ノ規定ニ依レハ兩席判決ニ對シテハ故障ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ルハ原則トス唯控訴ノ場合ニ在テハ同法第二百五十二條ニ於テ特ニ例外ノ規定アルカ故ニ此場合ニ限リ故障ヲ爲サスシテ直チニ控訴ヲ爲スコトヲ得ルニ過キス而シテ本件ハ通常ノ兩席判決ニ對スル上告ニ係ルヲ以テ即チ一般ノ規定ニ從ヒ故障ヲ爲サヘキモノナルカ故ニ直チニ上告

ヲ爲サチ得サルモノトス而シテ上告狀ニ據述スル論旨及ヒ當院檢事ノ擴張論旨ハ原院カ兩席判決ヲ爲シタルヲ以テ不當ナリトスルニ在レモ既ニ兩席判決タル以上ハ右ニ謂フ如ク直チニ上告スルヲ得サルモノナルカ故ニ進ンテ之カ當否ヲ判定スルニ由ナキモノトス
 右ノ理由ナルヲ以テ公訴ニ付テハ刑事訴訟法第二百八十六條ニ從ヒ原判決ヲ破毀シ本件ヲ廣島控訴院ニ移ス私訴ニ付テハ同法第二百八十五條ニ從ヒ其上告ヲ棄却ス
 私訴費用ハ私訴上告人ノ負擔トス

明治二十八年十月四日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事廳當廳立會宣告ス

○私印私書偽造詐欺取財ノ件

明治二十八年第一〇〇六號
 明治二十八年十月四日宣告

○判決要旨

文書ノ每葉ニ契印ヲ爲スヘキ法則(刑事訴訟法第二十條)ハ其文書ヲ成作スル官吏ノ契印ヲ要ストノ意義ニシテ訊問ヲ受ケタル被告人等ノ契印ヲ要ストノ意義ニアラス(判旨第二點)

(參照) 官吏ノ作ル可キ書類ハ其附屬官署公署ノ印ヲ用ヒ年月日及ヒ場所ヲ記載シテ署名捺印シ每葉ニ契印ス可シ若シ官署公署ノ印ヲ用ユルコト能ハサル場合ニ於テハ其事契印者○鑑定人ノ調書ナキ鑑定書

契印者○鑑定人ノ調書ナキ鑑定書

四十四

由チ記載スヘシ此規定ニ背キタルトキハ其書類ノ効ナル可シ(刑事訴訟法第一項)

鑑定人ノ調書ナキ鑑定書ハ無効ニアラス(判旨第三點)

第一審 神戸地方裁判所洲本支部 第二審 大阪控訴院

被告人 岡田 要 辯護人 小島忠里

右岡田要カ私印私書偽造詐欺取財被告事件ニ付明治二十八年七月十一日大阪控訴院ニ於テ神戸地方裁判所洲本支部ノ判決ニ對スル檢察ノ控訴ヲ審判シ原判決ヲ取消シ更ニ被告要ヲ重禁錮八月ニ處シ罰金八圓ヲ加附シ監視六月ニ付ス偽造ノ改印届書印鑑證明願書其代理委任狀借用證書其贈本登記委任狀ヲ沒收ス其他押収書類ハ差出人ニ還付ス公訴裁判費用ハ被告ノ負担トスト言渡シタル第二審ノ判決ニ服セス被告人ハ上告ヲ爲シタルニ因リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ被告辯護士小島忠里ノ辯論立會檢察事應當融ノ意見ヲ聽キ判決ヲ爲スコト左ノ如シ

上告ノ要旨ハ第一豫審判事カ證人ヲ訊問スルニ先ツ刑事訴訟法第三百三十三條ニ記載シタル者ナリヤ否ヤヲ問フヘキハ同第二百一十一條ニ定メタル必要ノ手續ナリ本件ノ證人廣田德平外五名ノ豫審調書ヲ觀ルニ豫審判事ハ證人ニ對シ單ニ其氏名年齢等ヲ問ヒタルノミニテ第二百二十三條ニ記載ノ者ナルヤ否ヤノ要件ヲ訊問セス直チニ宣誓ヲ命ジ證人トシテ取調ヲ爲シタルハ違法ノ甚シキモノト云ハサルヲ得ス如此違法ノ調書ハ當然無効タルモノナルニ原院力之ヲ採テ斷罪ノ證據ニ供シタルハ不法ナリト云フニ在ルモ○本件各證人ノ豫審調書ヲ査閱スルニ豫

判旨第二點

審判事ハ證人ノ氏名年齢等ヲ訊問シタル後茲ニ於テ刑事訴訟法第二百二十三條第二百二十四條ニ照查スルニ概觸セサルニ依リ證人ハ宣誓ヲ爲シタリト記載シアリテ其同第二百一十一條ノ式ヲ履行シ訊問ヲ爲シタルモノタルヤ明瞭ナレハ違法ノ點アルニ非スシテ其調書ヲ證據ニ供用シタルハ相當ナリ○第二本件ノ證據ト爲シタル各豫審調書ハ其紙尾ニ證人參考人及被告人等ノ署名捺印アルニ止マリ總テ每葉ノ契印ナキヲ以テ證人參考人被告人等ハ其契印ナキ部分ハ之ヲ認知シタルモノナルヤ否ヤヲ知ルニ由ナシ然ルニ其調書ヲ採用シタルハ不法ナリト云フニ在ルモ○刑事訴訟法第二十條ニ規定シタル每葉ハ契印ハ其文書ヲ作リタル官吏ニ於テ契印ヲ爲スヘキモノニシテ其取調ヲ受ケタル證人參考人被告人等ハ契印ヲ要スルモノハニ非ス本件ノ各調書ハ總テ書記ノ契印アリテ一モ違法ト認ムヘキモノナシ○第三本件鑑定人三宅甚平ニ對シ豫審判事カ刑事訴訟法第二百一十一條ノ規定ヲ履行シタル記録ヲ存セス唯其鑑定書ト宣誓書トヲ存スルニ止マルヲ以テ左ノ要件ヲ確知スルニ由ナシ一三宅甚平ハ豫審判事ノ面前ニ出廷シタルヤ否ヤ二出廷シタル者ハ果シテ眞ノ三宅甚平ナルヤ否ヤ三三宅甚平ハ第二百二十三條ニ記載シタル者ニ非サルヤ否ヤ四宣誓書ハ鑑定前ニ成立シタルヤ否ヤ五鑑定書ハ如何ナル場所ニ於テ成立シタルヤ否ヤ等是ナリ故ニ該鑑定書ハ違法ノモノナルニ之ヲ斷罪ノ證據ニ供シタルハ不法ナリト云フニ在ルモ○鑑定ニ付テハ鑑定人調書ヲ作ルハシトハ規定ナキニ因リ其調書ナキハ違法ト云フコトヲ得ス而シテ三宅甚平ノ鑑定書ニ神戸地方裁判所洲本支部豫審廷ニ於テ鑑定スト記載シアルニ依レハ甚平カ豫審判事ノ面前ニ出廷シ正當ノ式ニ從ヒ鑑定ヲ爲シタ

判旨第三點

契印者○鑑定人ノ調書ナキ鑑定書

四十五

ルモノナルヤ明瞭ナリ又甚平カ刑事訴訟法第二百二十三條ニ記載シタル者ニ非サルヲ以テ式ニ依リ宣誓ヲ爲シタルハ正式ノ宣誓書アルニ徴シ明瞭ナリ本件鑑定書ハ毫モ違法ノ點ナキモノナレハ之ヲ證據ニ採用シタルハ相當ナリ第四刑法第二百十條ノ權利義務ニ關スル證書トハ其證書ノ謄本ヲモ包含スルモノニ非ス然ルニ原院カ本件借用證書ノ謄本ヲ行使シタル所爲ニ對シ同條ヲ適用シタルハ擬律錯誤ノ判決ナリト云フニ在ルモ○原判文ニ借用證書其謄本偽造行使ノ一罪ハ刑法第二百十條一項第二百十二條ニトアリテ借用證書及ヒ其謄本ヲ偽造シタル所爲ヲ一罪ト爲シタルモノニシテ單ニ謄本ヲ作りタルノミノ所爲ニ對シ同條ヲ適用シタルニ非サレハ擬律ノ錯誤アルニ非ス依テ上告論旨ハ總テ相立タサルモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治二十八年十月四日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事廳當廳立會宣告ス

○官文書變造行使詐欺取財ノ件

明治二十八年第一〇〇八號
明治二十八年十月四日

○判決要旨(明治二十八年第八八二號小野寺傳三郎詐欺取財ノ件參照第二卷一九頁登記)

文書ノ偽造ハ詐欺取財ノ手段タルニ過キストスルモ法律ハ仍ホ二罪ノ成立ヲ

認ム而シテ其罪ノ輕重ヲ比照シ重キニ從テ處斷スルハ刑法第三百九十條第二項ノ精神ナリ(判旨第一點)

(參照) 因テ官私ノ文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シタル者ハ偽造ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス(刑法第三項百九十九條二項)

登記簿ト記載シタル證書ハ刑法第二百四條ニ所謂ル官吏ノ公證シタル文書ナリトス(判旨第三點)

(參照) 公債證書地券其他官吏ノ公證シタル文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス若シ無記名ノ公債證書ニ係ル時ハ一等ヲ加フ(刑法第二) 第一審 高知地方裁判所 第二審 大阪控訴院

被告人 横山惣右衛門

明治二十八年七月四日大阪控訴院ニ於テ右惣右衛門ニ對スル官文書變造行使詐欺取財被告事件ノ控訴ヲ審理シ原判決ヲ取消シ更ニ被告惣右衛門ヲ輕懲役七年ニ處ス但前發ノ竊盜罪重禁錮十五日ト通算執行ス抑収ノ證書類ハ各差出人ニ還付ス公訴裁判費用ハ被告ノ負擔トスト言渡タル判決ヲ不當トシ被告ハ上告ヲ爲シ原院檢事長林誠一ハ附帶上告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理スル處

被告上告趣意書第一ハ原院ニ於テハ被告ニ官文書偽造ノ罪アルモノト判決シタルトモ被告ハ

偽造文書ヲ詐欺取財ノ手段ニ供シタル所爲○登記簿ノ證書

判旨第一點

官文書ヲ偽造スルノ意思ナク假シ意思アリタリトスルモ右ハ全ク詐欺取財ノ手段タルニ過キサルモノナリ況ンヤ判文ニ認メタル公證初葉ノ紙ヲ取外シ他ノ紙ヲ綴込ミタルコトハ被告ノ所爲ニアラスシテ其次第一審第二審ノ公証ニ於テ陳述シタル如クナルニ於テオヤ然ルニ之ヲ文書ノ變造トスルハ猶ホ可ナリ偽造シタルモノト判決シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○設令詐欺取財ハ手段ニ出タルモノハナルモ現ニ文書ヲ偽造シタルトキハ其罪ハ輕重ヲ比較シ重キニ從テ處斷スヘキコトハ刑法第三百九十九條第二項ハ規定スル所ナリ又判文ニ明示スル事實ニ依レハ被告ハ詐計ヲ以テ地所書入質ノ登記ヲ受ケ其文書第二葉以下ノ紙ヲ取外シ獨リ初葉冒頭ニ登記番號并登記簿ノ記載及官印押捺ノアル所ノ紙一枚ノミヲ存シ之ニ他ノ紙ヲ綴換ヘ以テ新ニ地所書入ノ記入ヲ爲シ且他人ノ印影ヲ盜用シ以テ一ノ地所書入證書ヲ作成シタルモノナルヲ以テ其證書ハ偽造ノモノト爲スヘクシテ變造ト云フヘカラス何トナレハ其證書ハ舊證書中幾部ノ變更ニ止マラスシテ全ク新規ノ地所書入證書ト看做スヘキヲ以テナリ其他ノ論旨ハ總テ事實ノ認定ヲ批難スルニ過キサルヲ以テ共ニ上告ノ原由ナキモノトス『第二ハ原判文ハ理由ニ離斷アルモノナリト云フニ在レトモ○之ヲ指示セサルヲ以テ説明スルニ由ナシ』檢事附帶上告趣意第一ハ登記法取扱規則第二十條第三十條第三十六條等ヲ引援シ登記官吏ニ於テ登記出願人ヨリ差出シタル所ノ原證書ニ登記簿ノ記載ヲ爲シテ下付スルハ其登記ノ結了シタルコトヲ示シ且後日登記原簿ト照合スルトキノ便ニ供スル爲メノミナレハ之ヲ以テ登記簿ノ事實ヲ公證スル文書ト爲スヘカラス然ルニ原院於テ之ヲ公證文書ト爲シタルハ則擬律範

判旨第二點

誤ナルノミナラス其登記ハ如何ナル手續ヨリ出來タル記載ナルヲ明示セサルハ理由不備ナリト云フニ在レトモ○刑法第二百四條ノ官吏ノ公證シタル文書トハ地所書入登記ハ場合ニ在テハ其登記原簿ハミナラス登記簿ノ記載アル原證書ヲ併セテ總稱シタルモノトス何トナレハ原證書モ登記官吏ノ證明ニ依リ登記簿タルコトヲ公證セラレタルモノナレハナリ又原判文ハ本案公證文書偽造ノ罪ヲ判決スルニ必要ナル事實ハ總テ詳記シアリテ理由不備ノ廉アルコトナシ『第二登記簿ノ記載アル文書ハ假リニ之ヲ公證文書ナリトスルモ登記法取扱規則ニ依レハ一物件ニ付一箇番號ヲ付スルモノナリ而シテ本件モ最初三筆ノ地所ニ付キ三番號ヲ付シタルモノニシテ後被告ノ所爲ニ依リ他ノ筆數ヲ増加シタルモ其登記ノ効力ハ單ニ最初ノ三筆ニ止マルモノト云ハサルヲ得ス然ルニ原院ニ於テ右ノ事實ヲ認メタルニモ拘ラス尙ホ之ヲ公證文書偽造ト爲シタルハ擬律錯誤ナリト云フニ在レトモ○右三箇番號ノ公證中ニ他ノ地所ヲ記入シタルトキハ其公證ノ効力ハ形式上證書全體ノ筆數ニ及フヘキモノナルヲ以テ其證書ヲ偽造シタルモノハ尙ホ之ヲ公證文書ノ偽造ト爲サトルヘカラス『第三ハ尙ホ一步ヲ譲リ三筆登記簿ノ事實及文章等ニ變更ナクモ之ニ紙數ヲ増シ他ノ地所ヲ書加ヘタルハ即其書冊全體ニ變更ヲ生シタルモノトストスルモ未タ以テ其證書全體ノ性質ヲ變シタルモノニアラス且已ニ有効登記簿ノ記載アルヲ利用シテ之ニ筆數ヲ増加シタルモノニ過キサレハ其所爲變造ニシテ偽造ニアラス然ルニ原院於テ之ヲ偽造ト爲シタルハ擬律錯誤ナリト云フニ在レトモ○原院カ認メタル事實ニ依レハ本件ハ公文書ノ偽造ニシテ變造ニアラサルコトハ被告上告趣意書第一中段説

明ノ如クナルヲ以テ重テ既明チ付セス『第四ハ總々陳辯スル所アルモ結局原判決ハ立會檢事附帶ノ控訴ニ對シテ判決ヲ爲シタルモノニアラサルカ如ク又判決シタルモノノ如クニシテ理由ニ關斷アルノミナラス詐欺取財ノ點ニ付テハ未タ豫審終結ノ決定ヲ經サルモノナルニ之ニ對シ有罪ノ判決ヲ爲シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○檢事附帶ノ控訴ニ對シテ判決ヲ與ヘタルコトハ判文ニ依テ明瞭ナリ又詐欺取財罪ニ關スル後段論旨ニ付キ一件記録ヲ檢スルニ豫審終結決定ノ爲メ同判事ヨリ檢事ニ宛タル意見請求書ニ「官文書變造外一罪云々」ト記載シアリ而シテ其外一罪トアルハ則詐欺取財罪ヲ指シタルモノナルコトハ檢事起訴狀ノ票題ニ「官文書變造詐欺取財」ト記載シタルニ依ルモ自ラ明カナルノミナラス同決定書ニモ「前署新ニ金五十圓ヲ渡サシメ之ヲ騙取シタル證據充分ナリ云々」ト詐欺取財ノ事實ヲ掲ケアル等ニ依レハ原院於テ右豫審終結決定書ハ詐欺取財罪ヲ包括シテ記載シタルモノニシテ其法律適用ノ部ニ之カ正條ノ記載ナキハ偶々以テ誤脱シタルモノナリトノ理由ヲ付シ檢事ノ附帶控訴ヲ棄却シタルハ相當トス『第五ハ偽造變造ノ證書等ハ假造貨幣ト同シク法律ニ於テ世上ニ存在ヲ許サル物件ナレハ何人ノ所有ヲ問ハズ沒收スヘキモノナルコトハ刑法第四十三條第四十四條ノ明記スル所ナリ然ルニ原院ハ外附加刑ニ屬スル物件ノ沒收ト同視シ被告人ノ不利益ニ變更スヘカヲサルノ理由ニ基キ之ヲ還付ノ言渡ヲ爲シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○沒收ハ附加刑タルコトハ刑法第十條ニ規定スル所ナレハ物件ノ性質如何ニ拘ラズ裁判上之カ沒收ノ言渡ヲ爲スハ附加刑ヲ科スルモノト云ハサルハカラス而シテ附加刑ヲ科スルハ被告人ノ不利益ナ

判例第七點

ハコト論ヲ待タサルヲ以テ原院ハ被告人ノ不利益ニ變更スヘカヲサルハ理由ニ基キ本件偽造證書ハ沒收ノ言渡ヲ爲シテ還付ノ言渡ヲ爲シタルハ相當ナリ』以上被告人ノ上告及檢事ノ附帶上告ハ總テ不成立因テ刑訴法第二百八十五條ニ從ヒ判決スルコト左ノ如シ

明治二十八年十月四日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事應當融立會宣告ス

○誣告ノ件

明治二十八年第一〇三一號
明治二十八年十月四日

○判決要旨

誣告罪ハ單ニ誣告ヲ爲シタル事實ノミチ以テ成立ス而シテ檢事之ヲ信シ起訴ノ手續ヲ爲シタルヤ否ハ問フ所ニアラス

(參照) 不實ノ事ヲ以テ人ヲ誣告シタル者ハ第二百二十條ニ記載シタル偽證ノ例ニ照シテ處斷ス(刑法第三百五十五條)

第一審 秋田地方裁判所大曲支部 第二審 宮城控訴院

被告人 高橋由藏

辯護人

岡崎正也
關幸太郎

誣告罪ノ成立

明治二十八年七月十三日宮城控訴院ニ於テ右由蔵ニ對スル誣告被告事件ノ控訴ヲ受理シ原判決ヲ取消ス被告由蔵ヲ重禁錮六月ニ處シ罰金六圓ヲ附加ス公訴裁判費用ハ其全部ヲ被告ニ科ス押収ノ書類ハ各差出人ニ還付スト言渡タル判決ヲ不當トシ被告ハ上告ヲ爲シ原院檢察長犬塚盛鏡ハ答辯書ヲ差出シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理スル處上告趣意書第一ハ原院ニ於テハ其判文ニ石五郎ヨリ民事延ニ字三郎ヲ相手取り出訴スルヤ字三郎其義務ヲ免カレントシテ右證書ヲ差入レタル覺ヘナキ旨ノ抗辯ヲ爲シ遂ニ第一審裁判所ニ於テ勝訴ノ判決ヲ受ケタリ依テ石五郎ヨリ該判決ノ覆審ヲ求メ秋田地方裁判所ニ繫屬中由蔵ハ勝敗ノ決如何ヲ恐レ云々石五郎ヲ被告トシ云々ト掲記シ即前段ニ於テハ字三郎カ民事訴訟ノ當事者ナルカ如何後段ニ依レハ由蔵ヲ以テ其當事者ト爲シタルモノト如シ是等必要ノ事實ニ理由ノ齟齬ヲ生シタルハ全ク誤判ニシテ失當ノ判決ナリト云フニ在レトモ○原判文ヲ檢スルニ事實ノ理由前後一貫モ齟齬スル所ナシ即チ其前段ハ被告由蔵父字三郎カ石五郎ヨリ民事訴訟延ニ出訴セラレタル事實ヲ記シ後段ハ右字三郎ノ敗訴セントシテ恐レ被告カ石五郎ヲ刑事被告トシテ告訴シタル事實ヲ記シタルモノナリ決シテ上告論旨ノ如キ不法アルモノニアラス○第二ハ凡誣告罪ヲ構成センニハ他人ヲ陷害セントノ惡意ヲ以テ當該官吏ニ告訴又ハ告發ヲ爲シタル事實ヲ具備スルヲ要ス若シ告訴告發ヲ爲スモ受理セラレザリシトキハ告訴告發ヲ爲サリシト同一ナリ然ルニ原院ハ是等必要事實ノ理由ヲ明示セスシテ單ニ法律上ノ用語ヲ以テ石五郎ノ偽造シタルモノ云々誣告シタリト掲記シタルハ理由不備ノ判決ナリト云フニ

在レトモ○原判文ヲ檢スルニ被告ニ於テ石五郎ヲ誣罪ニ陷レント欲シテ不實ノ罪ヲ誣告シタル事實ハ充分ニ詳記シアリ而シテ又判文ノ末段ニ云々輕罪ヲ犯シタルモノトシテ誣告シタリト記載シアリテ外事實ノ記載ナキニ於テハ當時其告訴ハ受理セラレ即其誣告ハ既ニ之ヲ遂ケタルノ事實ナルコト判文上自ラ明カナルヲ以テ一モ理由ノ不備スル點ナシトス○上告趣意擴張ノ要領ハ被告カ石五郎ヲ陷害スルノ意思ニアラサルコトハ告訴調書ニ明カナルニ尙ホ之ヲ惡意アリタルモノト爲シタルハ不法ナリ又原判文ニハ刑法第二百八條第二百十條ニ該當スヘキ輕罪ヲ犯シタルモノトシテ誣告シタリトアレトモ被告ハ該兩條ヲ併セテ告訴シタルモノニアラサルコトモ同調書ニ明カナレハ原判決ハ理由ニ錯誤アルモノナリト云フニ在レトモ○右前段ハ全ク事實ノ認定ヲ批難スルニ過キサルモノナリ後段ニ付該調書ヲ檢スルニ告訴ノ旨趣ハ全ク私印私書偽造行使ノ二罪ニ在リタルコト明瞭ナルヲ以テ原判決ハ不法ニアラス○辯護士岡崎正也上告趣意擴張書第一ノ要旨ハ原院ニ於テ則讀ヲ爲サハル所ノ藤井石五郎外數名ノ豫審調書ヲ採テ證據ト爲シタルハ不法ナリ尤モ右書類ノ則讀ヲ省畧スルコトニ付被告人等ニ異議アルヤ否ヲ問ヒタルコトノ事蹟アルモ是等ヲ以テ證據取調ノ手續ヲ盡シタルモノト云フヲ得スト云フニ在レトモ○書類ノ則讀ヲ爲スハ畢竟記載ノ事柄ヲ承知セシムルニ在ルモノナレハ已ニ之ヲ熟知シテ更ニ聞知スルコトヲ要セサル場合ニ於テハ其者等ノ申立ニ依リ之カ則讀ヲ省畧シテ直ニ之ニ對スル辯解ヲ爲サシムルモ敢テ違法ト云フヲ得ス從テ原判決ハ取調ヲ爲サハル書類ヲ採テ證據ト爲シタルノ嫌アルコトナシ○同第二ハ原院ニ於テハ檢察ハ被告事件ノ證據

據充分ナリト申立タルノミニシテ被告事件ノ事實ニ付キ公訴ノ申立ヲ爲サトリシハ不法ナリ
 從テ原判決モ訴訟手續ヲ盡サトリシ違法ヲ免カレト云フニ在レトモ○本件ハ第一審ニ於テ
 犯罪ノ證據充分ナラストシテ無罪ノ旨渡チ爲シタルモノニ對シ檢察官ヨリ之ヲ不當トシテ控訴
 シタルモノナレハ原院公判廷ニ於テ同職檢察官カ本件ハ犯罪ノ證據充分ナルニ第一審力之ヲ充
 分ナラストシテ無罪ノ旨渡チ爲シタルハ不當ナル旨陳辯シタルハ則控訴ノ主旨ヲ陳辯シタル
 モノニシテ毫モ手續上違法アルコトナシ同第三ハ原院文ニ前掲借用證書並ニ之ニ押捺セル印
 影ハ共ニ石五那ノ偽造シタルモノナリト不實ノ事ヲ據ヘ証告シタリトアルノミニシテ其證書
 ナ石五那カ行使シタリト被告カ申立タルヤ否ヤノ事實ヲ明示セサルハ理由不備ナリト云フニ
 在レトモ○該證書ニ基キ石五那ヨリ字三郎ニ係リ出訴シテ返金ノ請求ヲ爲シタル顛末ハ判文
 前段ニ明示スル所ナレハ後段ニ其證書ハ偽造シタルモノナリト証告シタル事實ヲ記載スレハ
 則偽造行使ノ罪ヲ証告シタルノ事實ナルコト自ラ明瞭ナルヲ以テ原院判決ハ理由不備アル所ナ
 シ同辯護士關幸太郎上告越意擴張書第一ノ要旨ハ原院文ハ被告カ石五那ヲ証告シタリトコ
 トノミヲ判示シ其証告ニ依テ檢察官起訴シタルヤ否ヤ又証告ノ爲メ石五那ハ推問ヲ受ケタル
 ヤ否ヤ又ハ刑ニ處セラレタルヤ否ヤ是等訴訟ノ進行如何ニ依リ或ハ自首シテ免罪ト爲リ或ハ
 反坐ノ刑ヲ受クヘキ場合ヲ生スル等結果ニ大差アルニモ拘ラス原院カ右等ノ事實ヲ明示セサ
 ルハ理由不備ナリト云フニ在レトモ○証告ハ罪ナルハハ其証告ヲ爲シタルハミニシテ直ニ
 犯罪ヲ構成スヘキモノニシテ檢察官カ之ニ依テ起訴シタルト否ハ毫モ關係スル所ナシ即檢察官ハ

起訴如何ハ本案外決ニ必要ノ事實ニ付キ又本件ニ付被告ハ自首シタルコトナキヲ以テ自首
 ニ關スル事實即証告セラレタル者已ニ推問ヲ受ケタルヤ否ヤノ事實ヲ明示スルノ必要モアル
 コトナシ又刑法第二百一十一條以下ノ場合即証告セラレタル者已ニ刑ニ處セラレタルトキハ
 証告者ノ受クヘキ反坐ノ刑ニ差等アルヲ以テ是等ノ場合ニ在テハ必スヤ其結果ノ如何ヲ明示
 セサルヘカラサルコト勿論ナリト雖トモ其未タ判決ヲ受ケス又ハ無罪ノ判決ヲ受ケタル場合
 等ニ於テハ証告事件ノ判決ヲ爲スニ付キ其結果ヲ明示スルノ必要ナシ而シテ本案ハ前掲反坐
 ノ場合ニアラサルコトハ判文法律ノ理由ニ依ルモ自ラ明瞭ナルヲ以テ原院判決ハ理由不備ノ不
 法アルコトナシ第二ハ原院判決書ニ伊藤吉之助ノ陳述ニ係ル檢察官ノ聽取書ナルモノヲ列記シア
 ルモ是等ハ法律ニ依リ作製セラレタル調書ト等シキ効力ヲ有スルモノニアラサルヲ以テ探テ
 斷罪ノ證據ト爲シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○檢察官ノ聽取書ナルモノヲ閱スルニ單ニ
 聞知シタル事實ヲ記載シタルニ止マルヲ以テ固ヨリ違法ノ書類ニアラス苟モ違法ノ證據ニア
 ラサル上ハ之ヲ取捨スルハ事實裁判官ノ職權ナルヲ以テ他ヨリ其効力ノ厚薄ヲ論シ取捨ノ當
 否ヲ爭フヲ得サルモノトス以上上告論旨ハ總テ不相立因テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ
 判決スルコト左ノ如シ
 本件上告ハ之ヲ棄却ス
 明治二十八年十月四日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢察官適當融立會宣告ス

○窃盜監視規則違犯等ノ件

明治二十八年第八四〇號
明治二十八年十月七日宣告

○判決要旨

理由ノ齟齬トハ判決ノ理由互ニ相抵牾スルヲ云フ認定ノ事實調書ノ記事ニ添ハサルハ理由ノ齟齬ニアラス

(参照) 裁判ハ左ノ場合ニ於テ常ニ法律ニ違背シタルモノトス(刑事訴訟法第二百六十九條)

裁判ニ理由ヲ付セス又ハ其理由ノ齟齬アルトキ(同法同條第九號)

第一審 東京地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 服部大禧 辯護士 佐久間長四郎
石川松太郎

右大禧外一名ニ對スル竊盜監視規則違犯盜贓故買及牙保被告事件ニ明治二十八年六月十日東京控訴院ニ於テ東京地方裁判所カ犯罪ノ證據充分ナリト認メ被告大禧ヲ重禁錮六年十月監視二年ニ被告松次郎ヲ重禁錮二年罰金二十圓監視十月ニ處シ犯罪ノ用ニ供シタル物件ハ之ヲ沒收シ現在ノ盜贓ハ個下ノ儘各被害者ニ其他ハ各所有者ニ還付スト言渡シタル判決ニ服セス爲シタル被告等ノ控訴ヲ受理シ審理ノ末被告ノ控訴ハ之ヲ棄却スト言渡シタル判決ニ服セス被告ヨリ上告ヲ爲シタルニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條ノ定式ヲ履行シ審理スル左ノ如シ被告大禧越意第一ノ要ハ第一二審共罪ヲ犯罪ノ用ニ供セシモノト認定セラレタレトモ被告之

ヲ用井タルコトナシ然ルニ右罪ヲ沒收セラレシハ違法ナリト云フニ在リテ○原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ニ反シ事實ヲ認定シテ其不法ヲ論難スルニ過キサレハ上告適法ノ理由トナラス其第二ハ被告ハ徳谷仙次郎ト共ニ罪ヲ犯セシコト明カナリ依テ刑法第三百六十九條ヲ適用シナカラ同第四百四條ヲ適用セサルハ違法ナリト云フニ在レトモ○刑法第四百四條ノ如キ總則ニ屬スル法條ヲ明示セサルモ之ヲ不法トシテ原判決ヲ破毀スルノ理由ト爲スニ足ラス被告大禧上告辯明書ノ第一ノ要旨ハ上告越意第一ニ同シキヲ以テ更ニ辯明セス其第二ハ原院判ハ被告及仙次郎共第八ノ犯罪ヲ木刑ト爲シ判決相成リタリ而シテ第十九ノ犯罪ニハ刑法第八十五條ヲ適用シ木刑ニ一等ヲ減セラレシニモ拘ハラヌ仙次郎ト被告ト同一ノ刑期ニ處セラ審官レタルハ不當ナリト云フニ在レトモ○刑法ノ規定セル範圍ニ於テ相當ノ刑期ヲ定ムルハ原承ノ職權ニ屬スルヲ以テ本論旨ハ上告ノ理由トナラス被告松次郎上告越意ハ要スルニ原院ノ事實認定ハ架空ナリト云フニ過キスシテ○徒ラニ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ論難スルニ過キスシテ上告ノ理由トナラス被告松次郎辯護人佐久間長四郎上告越意擴張第一點ハ原院ノ判決中證憑明示ノ部ニ加藤幸太郎ノ盜難届奥好義ノ盜難告訴狀ヲ採テ心證ニ供シタルモ其ノ證憑ハ被告ニ示シ辯解ヲ求メタルコトナシ即チ刑事訴訟法第九十八條ニ背ク不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○原院公判始末書ヲ査閱スルニ裁判長曰被告アサ松次郎及ヒ辯護人等ニ於テ本件ニ付證據トナル處ノ記録ハ總テ則讀セシメサルモ意見ナキヤ被告アサ松次郎及ヒ辯護人異議ナシトアリテ充分辯解

ノ機會ヲ與ヘアルヲ以テ原判決ハ本論旨ノ如キ不法アルコトナシ其第二點ハ原院判決第四ニ「被告松次郎ハ明治二十七年六月十八日水谷卯吉カ被告宅ニ於テ服部大禧カ竊盜シタル洋服二重回シ等桑澤賢藏ヘ賣却スルニ當リ其盜贓タルノ情ヲ知リナカラ賣買ノ周旋ヲ爲シタリトアルモ一件記録ニ依レハ水谷卯吉ノ豫審調書ニ此品ハ竹町十二番地石川松次郎宅ヘ持込同家ニ於テ他人ニ賣渡シタリ云々右他人ニ賣却スルニ當リ石川松次郎ハ別ニ何ニモ周旋ヲ爲サ、リシ云々」トアツテ即チ被告松次郎カ其賣買ヲ周旋シタルコトナシ然ルニ原院カ右賣買ヲ周旋シタル如ク認メタルハ理由ニ離斷アル不法ノ判決ナリト云ヒ其第三點ハ原院判決第六ニ被告松次郎ハ云々竊取シタル物品ノ内反物三十反ヲ其盜贓タルヲ知リナカラ代金十五圓ニテ買受ケタリトアルモ被告カ原院公廷ニ於テ陳述中「反物二十七反ハ買受ケ升タ」トアリ是チ其賣渡シタル水谷卯吉ノ豫審調書ニ參照スルニ果シテ三十反ヲ被告ニ賣却シタリトノ陳述ナシ然ルニ原院カ三十反ヲ賣買シタリト認メタルハ理由ニ離斷アル不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○破毀ハ理由トナルヘキ離斷ハ一個ノ判決中ニ認メタル所彼是相抵觸スル場合ヲ云フモノニシテ本論旨ノ如キ判決ニ認メタル處ト調書ニアル處ト異ナル場合ヲ云フモノニアラス本論旨ノ如キハ必竟スルニ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ非難スルモノニシテ上告適法ノ理由トナラス右ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第二百八十五條ノ規定ニ從ヒ判決スル左ノ如シ

本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治二十八年十月七日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○官職詐稱詐欺取財ノ件

明治二十八年第九四六號
明治二十八年十月七日宣告

○判決要旨

判決ハ特典ノ爲メニ其効ヲ失ハス從テ前犯重罪ノ判決ヲ受ケタル後特典ニ依リ輕罪ノ刑ニ減セラル、モ後犯重罪ニ係ルトキハ仍ホ重罪ノ再犯加重ヲ以テ論ス

第一審 東京地方裁判所

第二審 東京控訴院

被告人

高松兼一郎

辯護人

鈴木充英
元兼秀

右官職詐稱詐欺取財被告事件ノ控訴ニ明治二十八年七月十三日東京控訴院ニ於テ審理ノ末原判決ハ之レヲ取消ス本院檢事ノ付帶控訴ニ因リ被告兼一郎ヲ重懲役九年ニ處ス被告兼一郎ノ控訴ハ棄却ス但押收品中犯罪供用ノ警部制服制帽制劍及朋占ハ官ニ沒収シ美濃紙界紙及風呂敷ハ相被告タリシ西澤順次郎ニ紙幣様ニ封セシ古新聞紙包ハ増田甚平ニ洋服襟外一點ハ被告兼一郎及順次郎正雄ニ還付スト言渡シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

上告ノ要旨ハ原院ハ詐欺取財ノ事實ヲ認メナカラ竊盜犯ヲ以テ處罰シ持兇器ノ所爲ニ非サル事實ヲ認メナカラ持兇器竊盜犯ヲ以テ處罰シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○原院ハ詐欺取財及ヒ不持兇器竊盜ノ事實ヲ認メタルコトナク反テ持兇器竊盜ノ事實ヲ認メタルモノナレ

ハ刑法第三百七十條ヲ適用シ處斷シタルハ相當ニシテ毫モ不法ノ廉アルコトナシ
 上告擴張辯明ノ要旨第一點ハ被告ハ前ニ官文書偽造罪ニ依リ輕懲役六年ニ處セラレタルモ特
 典ヲ以テ重禁錮四年ニ輕減セラレタリ左レハ本刑ハ重禁錮即チ輕罪ノ刑ナルニ原院カ重罪再
 犯トシテ處分シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○前判決ハ特典減刑ハ爲メニ其効チ失フモ
 ハニアラス故ニ原院カ被告ヲ以テ前ニ重罪ハ刑ニ處セラレ再ヒ重罪輕罪ヲ犯シタルモノトシ
 一等チ加重シタルハ相當ニシテ決シテ不法ニ非ス
 其第二ハ原院ハ本件ヲ重罪トシ豫審等ヲ求メス特ニ法律ノ許シタル抗告等ノ手續ヲモ爲サ
 ルハ不法ナリト云フニ在レトモ○原院カ本件ヲ重罪事件トシテ取調フルノ決定ヲ爲シ受命判
 事ヲシテ取調ヲ爲サシメタル事蹟ハ其公判始末書及ヒ受命判事ノ報告書ニ照シテ明瞭ナリ左
 レハ其審理手續ニ報復アリト論スルコトヲ得ス抗告云々ノ論旨ハ意義明瞭ナラサルヲ以テ辯明
 ナルニ由ナシ
 其第三點ハ原判決ニ被告カ當公廷ニ於ケル供述ノ幾部ニ徴シ充分ナリトアルモ被告ハ本件ニ
 關係ナキコトヲ申立タルニ過キス然ルニ之ヲ有罪ノ證據ト爲シタルハ不法ナリト云フニ在リ
 テ○法律上原承審官ノ職權ニ屬スル證據ノ取捨ヲ非難スルニ過キス上告適法ノ理由ナシ
 其第四點ハ證人ノ喚問ヲ請求シタルニ原院ハ之ヲ採用セス審理ヲ盡サス認定ヲ以テ有罪ノ判
 決ヲ下シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○證人喚問ノ必要不必要ヲ判シ其請求ヲ許否スルハ
 原承審官ノ職權ニ屬スルヲ以テ他ヨリ云々容喙スルコトヲ得ス乃チ本論旨モ亦上告適法ノ理

由ト爲ラス

其第五點ハ原院ハ第一審カ證據物件ヲモ調ヘス被告ニ辯解ヲ爲サシメサル不法ノ裁判ナリト
 シ認定シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○原院ハ第一審廷ニ於ケル被告等ノ供述ノ幾部ヲ
 證據ニ供シタルモ第一審判決ヲ證據ニ採用シタルコトナシ而シテ第一審ニ於テ證據物件ヲ被
 告等ニ示シ辯解ヲ爲サシメタルコトハ其公判始末書ニ徴シ明瞭ナリ旁々以テ本論旨モ亦相立
 タス

其第六點ハ記録中反對ノ事蹟アルニ持兇器竊盜トシタルハ審理ヲ盡サハル不法ノ裁判ナリト
 云フニ在リテ○要スルニ事實認定ノ非難ニ過キサレハ上告適法ノ理由ト爲ラス
 上告趣意追加ノ要旨ハ原判決ニ被告ハ呼子笛ヲ携ヘトアリ此呼子笛ハ被告ニ取ツテハ第一
 犯證ナルニ沒収ニ係ル證據物件中此呼子笛ナク且原院カ此呼子笛ニ付取調ヲ爲サスシテ裁判
 ナ言渡シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○呼子笛ハ當初ヨリ押収ニ係ラス隨テ原院ハ之ヲ
 證據ニ供セサルヲ以テ其取調ヲ爲サハリシハ決シテ不法ニ非ス
 辯護士鈴木充美四元兼秀カ上告趣意追加ノ要旨第一點ハ本件増田甚平ハ誤信アルニセヨ正當
 ニ紙幣ノ調査ヲ受クルカ爲メ任意之ヲ被告等ニ交付シ被告等カ其金圓ヲ受取リタルハ甚平ノ
 承諾ニ基クモノナレハ假令甚平カ其竊ヲ立去リタル隙ニ乘シ正雄ノ革靴ニ差入レ紙幣襪ニ封
 セシ他ノ古新聞紙包ヲ甚平ニ交付シタリトテ竊盜罪ヲ構成スル理由ナシ其金圓ト他ノ物件ト
 交換シタル所爲ハ犯罪ノ手段ニシテ純然タル詐欺取財ナルニ原判決之ヲ持兇器竊盜トシタル

ハ不法ナリト云フニ在レトモ ○ 原判決ニハ前尋甚平ニ對シ近來偽造紙幣行使犯ヲ捕縛シ訊問セシニ該偽造紙幣ハ當家ヨリ領取セシ旨陳述シタルニ因リ豫審判事ノ囑託ニ依リ家宅搜索ノ爲メ當家ニ臨檢セリ因テ現在ノ紙幣ハ悉皆本官等ノ面前ニ示スヘシト命セリ是ニ於テ甚平ハ全ク被告等カ制服制帽ヲ着ケ制劍ヲ佩ヒ距紙或ハ呼子笛ヲ携フルヲ以テ真正ノ警察官ナリト信シ現在紙幣三百四十二圓ヲ提出シテ其調査ニ供セシ處被告等ハ一應調査様ノ事ヲ爲シ更ニ甚平ニ對シ右金額ハ封印ノ上預ケ置クヘキ旨ヲ告ケ甚平カ其封緘ニ要スヘキ糊ヲ持來ル爲メ其封ヲ立去リタル隙ニ乘シ竊ニ右紙幣ヲ正雄所持ノ革袍ニ差入レ故ラニ豫テ用意ノ紙幣様ニ封セシ古新聞紙包ニ封印ヲ施シ之ヲ甚平ニ交付シ遂ニ紙幣三百四十二圓ヲ竊取セリトアリテ甚平ハ調査ヲ受クル爲メ紙幣ヲ被告等ノ面前ニ差出シタルニ止マリ之ヲ被告等ニ交付シタルニ非ス被告等亦其交付ヲ受ケタルニ非スシテ甚平ノ不在ニ乘シ他物ト交換シテ犯跡ヲ蔽ヒ以テ之カ竊取ヲ遂ケタル事實ナレハ原院カ竊盜罪トシテ處斷シタルハ相當ニシテ擬律錯誤ノ判決ニ非ス

其第二點ハ被告ニ對シ持兇器竊盜ヲ以テ罰セラレタルハ失當ノ判決ナリ何トナレハ被告ハ服飾徽章借用ノ罪ナキニ拘ハラズ猶持兇器竊盜犯トセラレタルハナリ假ニ他ノ被告ト同行シタルモノナレハ刑法第四百四條ニ依リ各被告ヲ正犯トシテ處分スヘキモノトセン乎同條ヲ適用セサルヘカラス然ルニ原判決之ヲ適用セサルハ法律ノ理由ヲ明示セサルモノト云フヘシ加之本件ハ詐欺取財ニシテ竊盜罪ニ非サルヲ以テ之ヲ持兇器竊盜トシ且官職詐稱ノ罪ヲ分離シテ處罰セラレタルハ失當ナリト云フニ在レトモ ○ 本件ノ竊盜ハ被告等共謀シ一體ト爲リテ犯シタルモノナレハ其共犯中ノ一名警部用ノ制劍即チ兇器ヲ携帯スルニ於テハ他モ亦持兇器竊盜ノ罪責ヲ免カルトコトヲ得サルナリ而シテ原判決右共謀ノ事實ヲ認メ被告ニ對シ持兇器竊盜ノ本刑ヲ科シタル上ハ別ニ第四百四條ノ如キ總則ヲ適用セサルモ致テ不法ニ非ス又官職詐稱ノ罪別ニ成立スルヲ以テ原院カ數罪俱發トシテ處分シタルハ相當ニシテ以上ノ論旨ハ一モ上告適法ノ理由ナシ

四元辯護士カ上告趣意再追加ノ要旨ハ原判決擬律ノ部ニ同第百條ニ從ヒ犯情重キ持兇器竊盜罪ヲ以テ論シ云々トアリ之ニ依テ見レハ原判決ハ刑法第百條第三項ヲ適用シタルモノニシテ擬律ノ錯誤アルモノト云ハサルヲ得ス若シ第三項ニ依ラスシテ第一項ニ依リタルモノトセハ犯情重キ云々ノ判文ハ何等ノ効力ナキニ至ルヘシト云フニ在レトモ ○ 原判決ハ刑法第百條第三項ヲ適用スル旨ヲ明言シタルニ非ス單ニ第百條ニ從ヒ云々ト云フニ過キサレハ其犯情重キトハ即チ犯罪重キトノ謂ニシテ別ニ意義ヲ有セサルモノト解釋ス可シ因テ本論旨モ亦相立タス右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ則リ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治二十八年十月七日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事安居修藏立會宣告ス

○官印盗用詐欺取財等ノ件

明治二十八年第九七六號
明治二十八年十月七日宣告

○判決要旨

訴訟費用負擔ノ言渡ハ刑ノ言渡ニアラサルヲ以テ特ニ法律ノ理由ヲ明示スルノ要ナシ

(參照) 被告人有罪ト爲リタルトキハ裁判所ノ職權ヲ以テ公訴ニ關スル訴訟費用ノ全部又ハ一分ヲ負擔スヘキ言渡ヲ爲ス可シ(刑事訴訟法第二百一條)

第一審 前橋地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 濫澤類次郎 辯護人 高木益太郎

右官印盗用公文書偽造私書私印偽造詐欺取財被告事件ニ付明治二十八年七月五日東京控訴院ニ於テ被告ノ控訴並ニ原院檢事ノ附帶控訴ヲ審理ノ末第一審判決ヲ取消シ更ニ被告ヲ輕懲役七年ニ處スト言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シ原判決ノ破毀ヲ要求シ原院檢事長ハ答辯書ヲ差出サス

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ

上告ノ趣旨ハ元來被告カ官印盗用其他ノ罪ヲ犯シタリト認ムヘキ有力ナル證據モ存在セサルノミナラス原判決カ證據トシテ採用シタル證人栗原大三郎高橋安五郎ノ豫審調査ハ執レモ證人調書タル効力ナキ無効ノモノナルニ原院カ採テ以テ有罪ノ證據ニ供シタルハ不法ノ裁判

ナリト云フニ在レトモ○前段ハ原院ノ職權ニ存スル探證ノ當否ヲ批難スルニ止マリ後段ハ其無効タルヘキノ個所並ニ事由ヲ論疎セサレハ右論旨ハ共ニ適法上告ノ理由ナシ

上告趣意擴張證書ノ第一原判決第一ヨリ第五ノ犯罪事實ニ對シ栗原大三郎高橋安五郎カ豫審ニ於ケル人證ヲ指示シタルニ過キス然レトモ此證書タルハ僅カニ官印盗用ノ事實ヲ證スル外何等ノ證言アルモノニ非ス即チ被告カ犯シタリトスル官私文書私印偽造詐欺取財ノ數罪ニ對スル證憑ハ絶テ舉示セスシテ以テ處斷シタル背法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○諸般ノ證憑ニ心證ヲ取リ事實ノ認定ヲ爲スハ原承審官ノ職權ニ存スルモノナレハ證憑ノ判斷ニ對シ他ヨリ容喙スルヲ得サルモノトス○第二證憑物件ハ被告人ニ示シテ辯解ヲナサシム可シトハ法律ノ命スル處ニシテ假令被告人カ異議ナシト云フモ證憑ノ取調ヘテ省畧スルコトヲ得ス矧ンヤ罪體タル證書類ヲモ明示辯解セシメサルノ不法アルニ於テヤ然ルニ原院ハ何等ノ證憑ヲ取調ヘサルモノナルヲ以テ法律ニ違背セル不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○原公判始末書ヲ查閱スルニ「裁判長ハ押收ニ係ル證書類及ヒ登記簿本ヲ示シ一々之レカ辯解ヲナサシメ被告ハ一々之レニ對シテ辯解ヲ爲シタリトアリテ原院カ被告ニ證據物件ヲ示シ之カ辯解ヲ爲サシメタルコト明瞭ナレハ右論旨ハ謂レナキ上告ナリトス」第三原院判決第一第二第四第五ノ所爲中何レモ官印盗用ノ事實アリトセラレシモ同判決中何レモ同村長印及同村役場印ヲ盗用シトノミアリテ盗用ノ方法手段其年月日及ヒ場所等ヲ明示セサルハ理由不備ノ裁判ナリト云フニアレトモ○官印ハ盜捺ノミヲ以テ犯罪ヲ構成スヘキモノニアラス之ヲ使用シテ始メテ完成スヘキモ

ノナレハ原判文中盜捺ノ點ニ付其方法手段年月日等ニ於テ明示ノ欠クル處アリトスルモ其使用ノ點ニ於テ之ヲ明載シアレハ決シテ不法ノ判決ト云フヲ得ス即チ原判文中第一ノ年月日ハ明治二十五年十一月七日第二ハ明治二十六年二月二十五日第四ハ明治二十六年十二月二十二日第五ハ明治二十七年二月一日タルヲ掲ケ而シテ第一第二ノ場所ハ太田區裁判所ニシテ第四第五ハ太田區裁判所ノ木崎出張所タルコトヲ明載シ從テ其方法手段ニ於テモ叙述シアレハ原判決ハ毫モ不法ノ點アルコトナシ第四原院ハ裁判費用ノ言渡ニ付刑事訴訟法第二百一條ノミチ適用シ刑法第四十五條ノ法律ヲ明示セサルハ不法ナリト云フニアレトモ○裁判費用ハ刑ハ言渡シニアラサルヲ以テ法律ハ明示ナキモ不法ト云フヲ得サレハ右論旨ハ上告ノ理由ト爲ラハ第五原判文第二ノ事實中群馬縣新井郡世良田村大字米岡村云々及ヒ北川長太郎ヲ保證人トナシ云々トアルモ一件記録中斯ル字ノ地所及ヒ人名アルコトナシ又第三ノ事實中群馬縣新井郡世良田村大字世良田村二千三番字稻荷東二畝六歩外十三筆云々及ヒ保證人トシテ猶沼半平ナル虛空ノ人名ヲ記載シ云々トアルモ斯ル反別及ヒ人名ヲ記シタル借用證書ハ一件記録ニ之レアラサルナリ畢竟スルニ原院ハ曾テ一件記録ニアラサル事實ヲ認定シタルモノニシテ即チ法則ニ違背シタル不法ノ裁判ナリト云フニアレトモ○右論旨ハ要スルニ原院ノ職權内ニ屬スル事實ノ認定ヲ批難スルニ外ナラス而シテ原判文中北瓜長太郎ナルモノアルモ北川長太郎ナルモノナシ右ハ被告ノ誤讀ニ係ルモノナルヘシ

辯護士高木益太郎ノ上告趣意辯明書ノ第一ハ原院ニ於テ村長印盜用ト村役場印盜用トナシ二罪

ト認メ各法條ヲ適用シタルハ不法ナリ何トナレハ右ノ場合ニ於テ村役場ノ印ト其村々長ノ印トハ合シテ一體トナルモノナレハ之ヲ同時ニ同一ノ文書へ盜用シタル所爲ハ乃チ一個ノ公印盜用罪ヲ構成スルニ過キス然ルニ原院カ之ヲ數罪俱發トナシタルハ其正鶴ヲ失ヒタル裁判ナリト云フニアレトモ○村長印ト村役場印トハ其性質ヲ異ニシ別種ノモノナレハ其シ之ヲ同時ニ同一ノ文書へ盜用シタル場合ト雖トモ各個獨立シテ犯罪ヲ構成スヘキモノトス故ニ原院カ之ヲ二罪ニ間擬シタルハ不法ニアラス第二原院カ公印盜用罪成立ノ場所ヲ列示セサルハ必要ナル理由ノ明示ヲ欠キタル裁判ナリト云フニアレトモ○右ハ上告趣意第三ノ說明ニ依リ了解スヘシ

右ノ理由ナルニ付刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス
 明治二十八年十月七日大審院第一刑事部公延ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○詐欺取財ノ件 明治二十八年十月七日〇一六號

○判決要旨

宣誓ノ方式ヲ闕如シ且證人タルノ資格刑事訴訟法第二百二十三條ヲ訊問セサル
調書ハ法律上其効力ヲ有セス

(參照) 豫審判事ハ證人ヲシテ良心ニ從ヒ眞實ヲ述ヘ何事ヲモ默秘セス又何事ヲモ附加
セサル旨ヲ宣誓セシム可シ裁判所書記ハ證人ニ宣誓書ヲ讀聞カセ之ニ署名捺印セシム
若シ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其旨ヲ附記ス可シ(刑事訴訟法第百二十二條)

左ニ記載シタル者ハ證人ト爲ルコトヲ許サス但宣誓ヲ爲サシメスシテ事實參考ノ爲メ
其供述ヲ聽クコトヲ得第一民事原告人第二民事原告人及ヒ被告人ノ親屬但姻族ニ付テ
ハ婚姻ノ解除シタルトキト雖モ亦同シ第三民事原告人及ヒ被告人ノ後見人又ハ此等ノ
後見ヲ受クル者第四民事原告人及ヒ被告人ノ雇人又ハ同居人(同法第百二十三條)

第一審 長野地方裁判所 第二審 東京控訴院
被告人 西澤濱之助 辯護人 田澤鎮太郎

右濱之助カ詐欺取財被告事件ニ付明治二十八年七月三十日東京控訴院ニ於テ長野地方裁判所
カ被告ヲ重禁錮壹年六月ニ處シ罰金拾五圓ヲ附加シ監視十月ニ付スト言渡シタル判決ニ對ス
ル被告ノ控訴ヲ審理ノ末控訴ヲ棄却シタル判決ニ服セス被告ヨリ上告ヲ爲シタルニ依リ本院

ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判スル左ノ如シ

被告辯護士田澤鎮太郎上告趣意擴張書第二點ノ要旨ハ原判決ノ採用セシ證據中證人高橋元重
花田儀助等ハ各被告人ニ對シ刑事訴訟法第二百二十三條ニ觸觸ノ關係ナキヲ認メ宣誓セシメシ
者ノ如クナレハ其調書ニ濱之助被告事件ニ關スルコトヲ明記セサルヲ以テ該證人ハ果シテ當
被告事件ニ付適法ナル證人ノ資格アル者ナルヤ否明了ナラス然ルニ原裁判所カ該證人ヲ採リ
テ斷即ノ資料ニ供シタルハ不法ナリト云フニアリ○依テ一件記錄ニ就テ之ヲ案スルニ第一審
ハ相被告タリシ石川祐寛事祐太郎カ詐欺取財犯罪アリト起訴セラレタルハ明治二十七年八月
三十日ニシテ被害者タル高橋元重カ右祐寛詐欺取財被告事件ノ證人トシテ始メテ豫審廷ハ取
調ヲ受ケタルハ其年十一月五日ナルコトハ其宣誓書及ヒ調書ニ依リ明カナリ而シテ上告人濱
之助カ祐寛ハ共犯人トシテ起訴セラレタルハ明治二十七年十一月六日ニシテ茲ニ本件詐欺取
財ハ被告ハ祐寛濱之助ハ兩人トナリ爾後其月十四日及十二月十八日ハ兩回高橋元重ハ再ヒ本
件ハ證人トシテ豫審廷ニ於テ陳述ヲ爲シタルコトモ亦之カ各調書ニ依リ明カナルモ此兩回共
更ニ上告人濱之助ニ對スル刑事訴訟法第二百二十三條ハ關係ヲ取調ヘ宣誓セシメタルコトハ記
載ナク且ツ其宣誓書ハ存セサルニ依リテ觀レハ上告論旨ハ如ク元重ハ上告人ニ對シ證人タル
ハ資格アリヤ否ヤ未知ル可ラサルハミナラス上告人ニ對スル陳述前宣誓シタル形跡タモナ
キニ原院カ其判決書證據ハ部ニ被告濱之助ニ對スル證人高橋元重ハ豫審調書ト揭ケ同人ニ對
シ證書ハ効アルモノトシテ之ヲ斷罪ノ證據ニ供セシハ不法ハ裁判ナリトス又上告人ハ證人花

岡儀助モ上告人ニ對スル證人ノ資格不分明ナルカ如ク論スルモ儀助カ證人トシテ豫審廷ノ取調ヲ受ケシハ明治二十七年十一月九日ニシテ其宣誓書及調書ニモ明カニ「石川祐寛外一名詐欺取財被告事件ニ付云々」ト記載シアリテ上告人ト刑事訴訟法第二百三條ノ關係ナキコトヲ確メ宣誓セシメタル上證言セシメタルコト明白ナレハ此ノ後段ハ上告ノ理由ナシ前段説明ノ點ニ於テ原判決破毀ノ原由アリト認ムルヲ以テ他ノ上告論旨ニ對シ一々説明ヲ下スノ要ナシ右ノ理由ナルニ付刑事訴訟法第二百八十六條ニ從ヒ原判決全部ヲ破毀シ更ニ審判セシムル爲メ本件ヲ名古屋控訴院ニ移ス

明治二十八年十月七日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○郵便物窃盜ノ件

明治二十八年第一一六一號
明治二十八年十月七日宣告

○判決要旨

郵便條例ニ所謂郵便物隠蔽ノ所爲ニハ竊取ノ意義ヲ包含セス從テ之ヲ開封シ封中ノ印形又ハ貯金拂戻證書ヲ隠蔽スルモ別ニ竊盜罪ヲ構成セス

(參照) 己レニ屬セサル郵便物ヲ開封シ或ハ毀損汚穢シ或ハ私用賣却抑留隠匿抛棄シ若

クハ之ヲ受取人ニアラサル者ニ交付シ及其情ヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若クハ牙保ヲ爲シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス郵便事務ヲ奉スル者自ラ犯シタルトキハ官吏俯人約定人ヲ論セス本刑ニ一等ヲ加フ

(明治十五年第五十九號布告)
郵便條例第二百三十九條

第一審 宇都宮地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 池田初太郎

右郵便物竊盜被告事件ニ付明治二十八年九月六日東京控訴院ニ於テ被告ノ控訴並ニ原院檢事ノ附帶控訴ヲ審理ノ末第一審判決ヲ取消シ更ニ被告ヲ重禁錮十月罰金拾圓ニ處シタル判決ニ對シ原院檢事長野村維章ハ上告ヲ爲シ原判決ノ破毀ヲ要求シ對手人被告池田初太郎ハ答辯書ヲ差出サス

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ

上告趣旨ノ第一ハ原院カ本件ノ事實ニ對シ單ニ郵便條例第二百三十四條第一二項ノミヲ適用シ刑法第三百六十六條第三百七十六條ヲ適用セサルハ不法ナリ何トナレハ被上告人カ郵便物ヲ開封シ隠蔽シタル所爲ハ郵便條例ノ制裁ニ屬シ其封中ノ物件ヲ竊取シタル所爲ハ刑法ノ制裁ニ屬スヘシ原院ハ其開封隠蔽ヲ認メ且ツ該郵便物ノ封中ニハ印形又ハ貯金拂戻證書ノアリシコトモ認メタリ左レハ是等物件ハ明ラカニ被上告人カ占有シタル行爲ヲモ亦認メタルモノト云ハサルヲ得ス果シテ然ラハ竊盜罪ヲモ構成シタルハ明瞭ナルニ單ニ郵便條例ノミヲ適用

處斷シタルハ即チ擬律ノ錯誤ナリト云フニ在レトモ○原判文ヲ査閱スルニ原院ハ郵便物ヲ開封シ封中ノ印形又ハ貯金拂戻證書ヲ隠蔽シタル事實ヲ認メタルモハニシテ之ヲ竊取シタリトハ事實ヲ認メタルニアラス隠蔽ト云ヒ竊取ト云ヒ其間自カラ區分ハアルアレハ原院カ認定シタル隠蔽ハ事實ニ對シ郵便條例ハミテ適用シ刑法第三百六十六條第三百七十六條ヲ適用セザリシハ相當ノ處分ニシテ擬律錯誤ノ判決ト云フヲ得ス○第二ハ原判文末段詐欺取財ノ點ハ無罪ナリトノ判決ハ既ニ確定シアルヲ以テ之ヲ處罰スヘシトノ同檢事ノ主張モ亦其理由ナキモノトストアリ然レトモ此ノ無罪ノ旨渡カ確定セサル所以ノモノハ被上告人カ第一審ノ判決ニ對スル明治二十八年六月五日付控訴申立書ニ依リ明確ニシテ其中立書ニ刑事被告事件ニ付明治廿八年五月三十一日宇都宮地方裁判所刑事部ニテ旨渡サレタル判決ニ服スル能ハサルニ付控訴申立候也トアリテ第一審判決ノ全部ニ對スル控訴ナレハ其旨渡モ全然確定セサルナリ況ヤ被上告人ハ素ヨリ本件ノ如キ犯罪行為ナシト主張スルモノナレハ該詐欺取財ノ點ニ於テ被告事件罪トナラストシ無罪ノ旨渡シテ受ケタルモ其行為ハ認メラレタル判決ナレハ此點ニ對シテモ勿論控訴セシモノナルニ於テチヤ然ルニ原院カ該無罪ノ判決ハ既ニ確定シアルヲ以テ云々其理由ナキモノトストアリテ判決シ刑法第三百九十四條第三百九十四條ヲ適用セザリシハ刑事訴訟法第三百六十四條第十二該當スル擬律ノ錯誤ナリト云フニアレトモ○原公判始末書ヲ査閱スルニ裁判長ハ被告人ニ左ノ訊問ヲ爲シタリ問宇都宮地方裁判所ノ裁判ハ全部不服ニテ控訴セシヤ答有罪ノ裁判セラレタルカ不服ニ付控訴シマシタトアリテ被上告人カ第一審ノ判決中無

罪ノ旨渡シテ受ケタル詐欺取財ノ點ニ付控訴ヲ爲シタルニアラサルコトハ明晰ナルノミナラズ被告タルモノハ無罪ヲ主張スル權利アルモ無罪ノ判決ニ對シ控訴ヲ爲スヲ得ヘキモノニアラサレハ原判決ニ於テ詐欺取財ノ點ハ無罪ナリトノ判決既ニ確定シアルヲ以テ云々檢事ノ主張モ亦其理由ナキモノトストアリテ旨渡シタルハ相當ノ判決ニシテ毫モ不法ノ點アルコトナシ第三ハ原院公判ノ際本職カ附帶控訴ノ數點中第一審判決ノ刑期ハ輕キニ失スルヲ以テ重ク處罰アラントトテ求ムト訴追セシニ原院ハ此點ニ對シ何等ノ判決ヲ爲サトリシハ請求ヲ受ケタル事件ニ付判決ヲ爲サトリシハ違法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○原判文ヲ閱スルニ原院檢事ノ附帶控訴ト被告ノ控訴トヲ共ニ理由アルモノトシ第一審ノ判決ヲ取消シタルモノナリ既ニ附帶控訴ノ或ル點ヲ以テ理由アルモノトシ第一審判決ヲ取消シタル上ハ其他ノ點ニ付採用セサル處ノモノアリト雖トモ其點ニ對シ更ニ控訴棄却ノ判決ヲ與フヘキモノニ非ス何トナレハ主張ノ點ニシテ多岐ニ涉ルモ控訴ハ一ニシテニナラサレハナリ然ルカ故ニ右論旨ハ適法上告ノ理由ナシ

右ノ理由ニ付刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス
明治二十八年十月七日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事廳當廳立會宣告ス

○詐欺取財ノ件

明治二十八年第一〇二九號
明治二十八年十月八日官告

○判決要旨

證人ノ資格アル者ヲ參考人トシテ訊問シタル調書ハ證人ノ調書タル効力ナキニ止マリ法律上無効ノ調書ニアラス而シテ其取捨ハ裁判所ノ職權ニ屬ス(判旨第一點)
判決書ニ證人氏名ノ誤記アルモ上告ノ理由トナスヲ得ス(判旨第四點)

第一審 秋田地方裁判所酒田支部 第二審 宮城控訴院
被告人 太田政八 辯護人 高木益太郎

右詐欺取財被告事件ニ付明治二十八年六月二十七日宮城控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ服セ
ス被告ハ上告ヲ爲シ原控訴院檢察長犬塚盛雄ハ答辯書ヲ差出シタルニ依リ刑事訴訟法第二百
八十三條ノ定式ヲ履行シ辯護士高木益太郎ノ辯論檢察應當融ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
上告趣意第一點ハ原院カ證人ノ資格アル伊藤善藏佐藤五郎治ヲ參考人トシテ取調ヘタル豫審
調書ヲ斷罪ノ證據ト爲シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○證人ハ資格アル者ヲ參考人トシ
テ訊問シタル調書ハ證人ノ調書タル効力ナキハミニテ固ヨリ法律上無効ノ調書ニアラサレハ
原院カ之ヲ採用シタルハ證據取捨ノ職權ニ屬スルヲ以テ違法ニアラス○第二點ハ長谷部莊次郎
ノ實弟渡邊九十九ヨリ被告ニ對シテ民事ノ訴訟ヲ提起シ其進行中ニテ中止シテ告訴ヲ爲スニ
至リタルモノナレハ莊次郎ハ民事原告人ノ親屬ニシテ證人ノ資格ナキニ同人ヲ證人トシテ訊

判旨第一點

問シタル豫審調書ヲ斷罪ノ證據ト爲シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○原判決ニ認メタル
事實ナレハ被告ニ於テ莊次郎一人ヲ欺罔シテ其名義ノ證書ヲ騙取シタルモノナルヲ以テ本件
ニ付テハ莊次郎ノ外他ニ民事原告人ト爲ルモノアルヘキ答ナシ而シテ莊次郎ハ私訴ヲ提起セ
サルヲ以テ同人ハ證人ノ資格アルモノトス○第三點ハ原判決ニ說明シタル如キ事實ナレハ被告
ノ所爲ハ詐欺取財ノ要件ヲ具備セス又實際被告ハ詐欺取財ノ罪ヲ犯シタルニアラス莊次郎カ
他ヨリ不正ノ強制執行ヲ受クルノ恐アルヲ以テ之ヲ豫防スル爲メ同人ヨリ承諾上本件ノ證書
ヲ被告ニ差入レタル事實ナリ然ルニ原院カ適法ノ理由ヲ明示セスシテ被告ニ詐欺取財ノ罪ヲ
科シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○原判決ニハ被告カ欺罔シテ證書ヲ莊次郎ヨリ騙取シ
タル事實ヲ明瞭ニ說明シアルニ依リ事實ノ理由ヲ示サレ違法アルコトナシ又詐欺取財ノ罪
ヲ犯シタルニアラストノ論旨ハ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ批難スルモノナレハ以テ上
告ノ理由ト爲スヲ得ス上告趣意擴張書第一點ハ證人長谷川莊次郎ノ豫審調書及ヒ與泉恒吉ト
伊藤善藏長谷川莊次郎トノ間ニ金員貸借公正證書正本ナルモノハ未タ曾テ被告ニ示サレタル
コトナキニ原判決ニ之ヲ證據トシテ採用シ又事實ノ理由中ニモ長谷川莊次郎ニ對シテ云々トア
リ要スルニ是レ等ノ無關係ナル調書及ヒ書類ヲ斷罪ノ資料ニ供シタル原判決ハ違法ナリト云
フニ在リ○依テ訴訟記録ヲ査閱スルニ原判決事實理由ハ部及ヒ證據列舉ハ部ニ長谷川莊次郎
トアルハ長谷部莊次郎ハ誤記ナルコト外然カシテ原院カ採用シタル一切ハ證據ニ付證據
調ハ手續ヲ盡シタルコトハ公判始末書ニ依リ明瞭ナルヲ以テ原判決ハ違法ニアラス○第二點ハ

判旨第四點

證人ノ資格アル者ヲ參考人トシテ訊問シタル調書○氏名誤記ノ判決書

原判決ニ「詐欺取財ノ本刑ニ一等ヲ加ヘ重禁錮二年ニ處シ罰金三十圓監視一年ヲ附加シ云々」トアリ然ルニ詐欺取財ノ本刑ニ一等ヲ加フレハ二月十五日以上五年以下ノ重禁錮罰金五圓以上五十圓以下監視六月以上二年以下ノ範圍内ニ於テ相當ノ刑ヲ言渡スコトヲ明示スヘキ筈ナルニ其明示ヲ欠キタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○原判決ハ上告論旨ニ所謂刑ノ範圍内ニ於テ前掲重禁錮罰金及ヒ監視ノ刑ヲ科シタルコトハ原判決ニ説明シタル法律ノ理由ニ依リ明瞭ナルヲ以テ上告論旨ハ其理由ナシ第三點ハ上告趣意第三點ノ論旨ヲ敷衍シタルニ過キヌシテ新ナル理由ナキヲ以テ説明ヲ要セス追加辯明書ノ趣意ハ原院ニ於テハ判決ノ主文ヲ言渡シタルノミニテ判決ノ理由ヲ言渡サトル違法アリト云フニ在レトモ○公判始末書ニ處レハ判決ノ全部ヲ言渡シタルモノト認メ得ヘキヲ以テ上告論旨ハ其理由ナシ辯護士高木益太郎ノ辯明ハ欺罔取財ヲ構成スルニハ現在ノ事實ヲ隱蔽シ又ハ變更シ若クハ虚偽ノ事實ヲ以テ人ヲ錯誤ニ陷ラシムルヲ要スルコト疑ヲ容レサル所ナリ本件ニ付テハ原院判決ニモ認メアル如ク被告莊治郎ノ爲メ強制執行ヲ無効ニ歸セシメンカ爲メ假裝ノ動産賣買ヲ爲シタルモノニシテ所有主莊治郎ニ於テ承諾上一點ノ闕クル所ナク單ニ被告カ該動産ノ賣戻ヲ履行セサルノ一點アレトモ是ハ固ヨリ民事上ノ問題ニシテ要スルニ事實ヲ隱蔽シ又ハ變更シ若クハ虚偽ノ事實ヲ以テ莊治郎ヲシテ錯誤ニ陷ラシメタルノ形跡アルコトナシ然ルニ原院カ此事實ヲ認メナカラ有罪ノ判決ヲ下シタルハ不法ナリト云フニ在リテ○結局被告ノ上告趣意第三點ト同一ナルヲ以テ重キテ説明ヲ要セス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス
 明治二十八年十月八日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事廳當廳立會宣告ス

○恐喝取財及窃盜ノ件 明治二十八年第一〇八八號
 明治二十八年十月八日宣告

○判決要旨

刑法第三百七十七條第二項ニ所謂他人共ニ犯シタル者トハ唯リ實行ノ正犯者ノミヲ意味スルニアラス總テノ共犯者即チ教唆者從犯者ノ全體ヲ包括スル意義ナリトス(判旨第三點)
 一案件ニシテ數罪アルトキハ各罪ニ付其證據ヲ區分スルノ要ナシ(判旨第五點)
 親屬タル身分上ノ關係ヲ有スル者竊盜ノ所爲ヲ犯スモ其罪ヲ問ハス從テ之ト共ニ犯シタル他人ノ所爲ヲ以テ共犯ナリト論スルヲ得ス(判旨第七點)
 (參照) 祖父母父母夫妻子孫及ヒ其配偶者同居ノ兄弟姉妹互ニ其財産ヲ竊取シタル者ハ竊盜ヲ以テ論スル限ニアス若シ他人共ニ犯シテ財物ヲ分チタル者ハ竊盜ヲ以テ論ス(刑律第十七條)

第一審 仙臺地方裁判所 第二審 宮城控訴院
 親屬相盜ノ他人共犯ノ數罪事件ノ證據

被告人 鷺尾文次郎

平田直右衛門

明治二十八年七月三日宮城控訴院ニ於テ文次郎直右衛門外一名ニ對スル恐喝取財及竊盜被告事件ノ控訴ヲ審理シ(前略)被告文次郎直右衛門ノ控訴ニ付キ原判決ヲ取消ス被告文次郎直右衛門ヲ各重禁錮四月ニ處シ罰金七圓ヲ附加シ監視六月ニ付ス送押ノ金五圓五十錢ノ借用證書及支米一切ハ各被害者ヘ其他ノ押収物件ハ各差出人ニ還付ス公判裁判費用ハ文次郎直右衛門ニ於テ(中略)ト共ニ連帶負担スヘシト旨渡タル判決ヲ不當トシ被告文次郎直右衛門ハ上告ヲ爲シ原院檢察長犬塚盛藏ハ答辯書ヲ差出シタリ因テ刑事訴訟於第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理スル處

文次郎上告趣意第一ハ被告ハ安細半藏ニ對シテ恐喝シタルコトナキハ一件記録ニ依テ明白ナルニ原院カ被告ニ對シ有罪ノ判決ヲ爲シタルハ不當ナリト云フニ在レトモ〇徒ラニ事實ノ認定ヲ批難スルニ過キサルヲ以テ上告ノ原由トナラス第二ハ被告ハ半藏ニ對シ竊盜ノ教唆ヲ爲シタルコトナシ假リニ半藏ハ竊盜シタリトスルモ被告ハ半藏ヨリ其物品ノ分配ヲ受ケタルコトナシト云フニ在レトモ〇被告カ半藏ニ對シテ其父秀藏所有ノ米ヲ竊取セシコトヲ教唆シ半藏ハ其教唆ヲ受ケテ直右衛門ト共ニ秀藏ノ米ヲ持出シ之ヲ文次郎ニ交付シタルコトハ判文ニ明示スル所ナルヲ以テ本論旨モ事實ノ認定ヲ批難スルニ外ナラス同後段ノ論旨ハ半藏ノ所爲罪トナササルヲ以テ見レハ被告ニ教唆罪アルヘキ理由ナシト云フニ在レトモ〇刑法第三百七十

七條第二項ニ他人共ニ犯シ云々トアリ其共ニ犯シタル者トハ獨リ實行正犯人ハミテ云フニアラスシテ總テハ共犯者即教唆者從犯者ヲ包括シテ總稱シタルモノナルヲ以テ共ニ犯シテ財ヲ分チタル上ハ身分上ノ關係アル他ハ正犯者カ無罪ナルニ拘ラズ其關係ヲ有セサル共犯者ハ尙ホ有罪ハ判決ヲ受ケサルヘカラサルハ法律上當然ハコトニス直右衛門上告趣意第一ハ原院ハ被告ニ於テ半藏ヲ恐喝シタリト認定シタレトモ果シテ被告兩人ノ何レノ者カ恐喝シタル乎又如何ナル手段ヲ以テ之ヲ行ヒタル乎ナ明示セサルハ理由ヲ缺キタル不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ〇恐喝ノ手段ハ判文ニ詳記スル所ナリ又判文ニ(前略)證書類ヲ竊取セント共謀シ共ニ半藏ニ對シ云々ト明記シアリテ被告兩人ニ於テ共ニ其事ヲ行フタル事實ノ明示アルヲ以テ竊モ理由ニ不備スル所ナシ第二ハ文次郎上告趣意第二後段ト其趣旨同一ナルヲ以テ別ニ說明セズ右兩名辯護士上告趣意擴張書第一ハ參考人佐々木サタノ申立ハ原判文第一ノ恐喝取財事件ニ關スル供述ノミニシテ其第二即竊盜事件ニ關シ毫モ供述シタルコトナシ然ルニ原院カ同人ノ陳述ヲ第一及第二ノ事件ニ關スル有罪ノ證據ニ掲ケタルハ證據法則ニ違反シタル不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ〇一案件、中數罪アル場合ニ於テモ其數罪ニ付キ各其證據ヲ區分シテ掲記スルハ必要ナキハミナラズ本件第一第二ハ犯罪ハ共ニ相關係アル事實ナルコトハ判文ニ明示スル如クナレハ第一恐喝取財ハ事實ニ付テハ陳述ハ第二竊盜ハ事實ニ付テハ犯罪ハ證據ト爲シ得ルヲ以テ原院カ之カ區分ヲ爲サシテ一様ニ列記シタルハ則二罪ニ通シテ採用シタルハト認ムヘキニ付キ本論旨ハ不相立第二本件第一審裁判ノ事實認定ニ依レハ上告人直右衛

門ハ只親族相盜ノ實行者タリシニ止マリ其竊盜ニ係ル財物ヲ分チタルモノハ文次郎ニシテ直右衛門ニアラサルコトヲ確認セリ然ルニ原院ノ右判決ニ對スル被告ノ控訴ニ基キ直右衛門モ猶ホ其利益ヲ占メタルモノト判定シ第一審裁判ノ認定ヲ廢棄變更シタルハ判決ヲ不利益ニ變更シタル違法アルモノナリト云フニ在レトモ○第一審判文ニ示ス所ハ被告兩人ハ秀藏所有ノ米ヲ竊取センコトヲ共謀シ半藏ヲ教唆シテ之ニ同意セシメタル上半藏直右衛門二人ニテ秀藏方ヨリ其米ヲ竊取シテ文次郎方ニ持運ヒ送ニ豫謀ノ如ク其事ヲ遂ケタルモノト爲スニ在レハ則其贓品ハ被告兩名ノ利益ニ歸セシメタルモノト認メタルモノナルヲ以テ第二審判決ト毫モ其主旨異ナラス故ニ原判決ハ上告論旨ノ如キ不法アルコトナシ第三ハ刑法第三百七十七條第一項ノ不罰罪ナル所以ハ立法者ニ於テ我國ノ如キ古來家族主義ノ行ハル、社會ニ於テ最近ノ親族間ニアリテハ理論上ハ暫ク措キ實際上財產ノ所有權ハ果ノ何レニ在ルカヲ定ムル能ハス親ノ物ハ子ノ物ト云ヘル俚諺アル如キ事情アルヲ參酌シタルモノナルニ付親族相盜ムハ犯罪ノ不成立ニシテ刑ノ全免ニテラス是故右等ノ關係アルモノト他人ト共ニ同法第三百六十六條ノ行爲アルモノ同法第三百六十九條ノ加重ヲナスヘキモノニアラス然ルニ原院カ本件ニ付之ニ反スル擬律ヲ爲シ一等ヲ加重シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリト云フニ在リ○依テ審究スルニ刑法第三百六十九條ニ二人以上共ニ(中略)ハ罪ヲ犯シタル者云々トアルハ犯罪者ハ數二人以上ナルヲ云フモハナルコトハ其文詞上自ラ明カニシテ犯罪者ニアラサル者ヲ以テ其數ニ加算スルヲ得ナルコト固ヨリ論ヲ待タズ而シテ同法第三百七十七條初項前段ハ身分ハ關係アル者ハ竊

判旨第七點

盜ヲ以テ論スルハ假令在ラスト同後段ニ明記シアリ已ニ竊盜ヲ以テ論セサル上ハ其者ヲ以テ犯罪者ト云フハカヲナルコトモ亦自ラ明カナレハ原院ニ於テ本件半藏ハ身分上ハ關係ヲ以テ無罪ナルハ事實ヲ認メタルニモ拘ラズ尙ホ同人ヲ算入シテ二人以上ト爲シタルハ失當ニシテ本上告論旨ハ理由アルモノト依テ此論旨ニ付キ刑事訴訟法第二百八十七條ニ從ヒ原判決ヲ破毀シ本院ニ於テ直ニ判決スルコト左ノ如シ

鷺尾文次

平田直右衛門

原院カ認メタル事實ニ依リ其第一所爲ニ付刑法第三百九十九條初項第三百九十四條第四百四條ヲ第二所爲ニ付同第三百六十六條第三百七十六條第三百七十七條第二項第四百四條ヲ尙ホ文次郎カ第二所爲ニ付キ第五百五條直右衛門ハ第九十二條ヲ且ツ兩名ニ對シ第百條末項ヲ適用シ第一ノ罪ニ從ヒ各重禁錮四月附加罰金七圓監視六月ニ處ス他ハ原判決ノ通

明治二十八年十月八日大審院第二刑事部公庭ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

○私印盗用詐欺取財等ノ件

明治二十八年第一一三二號
明治二十八年十月八日宣告

○判決要旨

公延ニ於テ裁判言渡ノ後被告人拘束ノ事實アルコトヲ發見シ直ニ其拘束ヲ解
キ更ニ式ニ基キ裁判言渡ヲ爲シタル所措ハ違法ニアラス

第一審 東京地方裁判所 第二審 宮城控訴院

被告人 若林豊之助 辯護人 高木益太郎

右私印盗用私書偽造行使詐欺取財被告事件ニ付明治二十八年八月十二日宮城控訴院ニ於テ審
理ノ末被告ノ控訴檢察ノ控訴ハ各之ヲ棄却スト言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シ原
院檢察正木昇之助ハ答辯書ヲ差出シタルニ依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ檢
事岩田武儀辯護士高木益太郎ノ辯明ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

上告趣意ハ原判決ハ刑法第二條刑事訴訟法第七十七條以下數條ニ違背スル失當ノ裁判ナリ
ト云フニアレトモ○其違法ナリトスルノ點ヲ辯述セス漫然原判決ヲ批難スルモノナレハ上告
ハ其理由ナシトス擴張要旨第一ハ原判決ハ本件ハ株式賣買上ノ交互計算ヨリ生シタル結果タ
ルコトヲ認メナカテ被告ヨリ請求シタル證人小保松五郎外二名ノ喚問ヲ許容セス且其異議ノ
申立ヲ却下シタルハ違法ナリト云フニアレトモ○證人喚問ノ請求ヲ許容スルハ原承審官ノ職
權ニ屬スル證據ノ取捨ニ外ナラサルヲ以テ其請求ヲ許サザリシトテ之ヲ違法ナリト謂フヲ得

ス第二ハ大審院ノ判決書附本ノ下付ヲ請求シタルモ終ニ其下付ナク隨テ被告ハ該判決ノ主文
破毀ノ要點上告ノ相手方又ハ上告裁判所檢察ヨリ附帶上告ヲ爲シタルヤ否等ヲ知ルニ由ナク
以テ原院ニ於テ十分ナル辯解ヲ爲スノ餘地ナク其儘閉廷シ不利益ノ判決ヲ與ヘタルハ不法ナ
リト云フニアレトモ○被告カ原院ニ於テ相當ノ手續ヲ以テ審理ヲ受タルコトハ公判始末書ニ
依リテ知ルヲ得ヘク從テ辯護權ノ行使ヲ妨ケラレサリシコト明カナレハ假リニ附本ノ下付ヲ
受クサリシトスルモ原判決ニ對スル上告ノ理由トナラス第三ハ第一審裁判所ニ於テ公判閉廷
ノ節被告ノ身體ヲ拘束シタル儘裁判ヲ與ヘタルノ違法アルニ原院ニ於テ被告ノ控訴ヲ棄却シ
タルハ不法ナリト云ヒ辯護士ノ辯明第一ハ判決ハ裁判所ニ於テ口頭審理ニ基キ其裁判權ヲ行
フ裁判所ノ意思ノ發表ナリ故ニ判決ハ必ス公開ノ法廷ニ於テ言渡スコトヲ要シ此言渡ヲ爲サ
レハ乃チ判決ナシト云フヘシ左スレハ言渡ニ關スル違法ハ則チ裁判ノ瑕瑾ニシテ之ヲ上訴
ノ理由トナスコトヲ得ヘシ而シテ第一審裁判所ニ於テハ被告ノ身體ヲ拘束シタル儘有罪ノ裁判
ヲ言渡シ已ニ上訴期間等ノ告知ヲ爲シタル後チ更ニ訴訟關係人ヲ列席セシメ再ヒ第一審ノ裁
判ヲ言渡シタルノ違法アリ抑終局判決ノ言渡ハ一度言渡シ了リタル以上ハ其後言渡ノ事蹟ヲ
發見スルモ其裁判所ハ言渡ヲ了ルト同時ニ訴訟關係ヲ離脱スルモノナルヲ以テ再ヒ判決ヲ言
渡スコトヲ得サルハ勿論ナリ依テ本件ノ第一審裁判所ノ舉措ハ不法ナリトス然ルニ原院方控
訴ヲ棄却シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○第一審公判始末書ニ依レハ裁判長言渡ヲ終ル
ニ際シ被告ハ申立ニ依リ拘束シアルコトヲ知リ直チニ其拘束ヲ解カシメ更ニ辯護人及民事原

告人ヲ列席セシメ、改メテ判決言渡シタル事實ニシテ、被告ハ尙ホ公廷ニ在リテ裁判所ハ未ダ訴訟關係ヲ離脱シタル場合ニアラス故ニ拘束ヲ解キ更ニ言渡ヲ爲シタルハ違法ナリトセス然ラハ第一審ハ言渡ハ正當ニシテ第二審ニ於テ此點ニ於テ第一審判決ヲ取消サス控訴ヲ棄却シタルハ相當ナリトス。被告ノ擴張第四ハ訴訟關係人申請モ請求セス又々裁判所ノ職權ヲ以テ召喚シタルニモアラス且民事原告人ノ雇人タル川村新次部ノ證言ヲ採用シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ。同人カ民事原告人ノ雇人ニアラサルコトハ第一審公判始末書ニ依リテ明カナリ又々公判廷ニ於テ證人トシテ陳述セシメタル上ハ其證人トナル迄ノ手續如何ハ證人ノ資格ニ影響ナキモノナレハ本論旨ハ上告ノ理由トナラス。第五ハ本件ハ空相擄取引ナル附帯犯罪アルコトハ告訴人并ニ被告ノ申立ニ依リテ明カナルニ之ヲ審判セサルハ不法ナリト云フニ在レトモ。畢竟本論旨ハ被告ノ不利益ニ歸スルヲ以テ上告ノ理由ナシ第六ハ本件ハ株式直取引ノ結果ニシテ被告ハ人ヲ詐罔又ハ恐喝シタルニアラス又久吉ハ私訴ヲ提起シタルニ原院力之ニ判決ヲ與ヘス若シ久吉ニ於テ私訴ヲ願下ケタリトスレハ即チ久吉ニ損害ナキコト明カナリ然ラハ被告ノ所爲ハ詐欺取財ニアラス然ルナ有罪ノ判決ヲ下シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ。○本件公訴ニ附帯セル私訴ハ事件カ東京控訴院ニ繫屬シアル際取下ケトナリタレハ原院カ私訴判決ヲ下サトルハ當然ナリ又被告カ久吉ヲ欺罔シ騙取セントシテ遂ケサリシ事實ハ原院ノ認定スル所ナレハ其事實ノ認定ヲ論難スルモ上告適法ノ理由ナシ第七ハ豫審判事カ家宅捜索ノ際差押タル物件ハ豫審中被告ニ示シ辯解セシメタルコトナク違法ノ處分ナレハ豫審調書

ハ不法ノモノナルニ之ヲ探リテ證據トナシタルハ失當ナリト云フニアレトモ。○假リニ論旨ノ如クナリトスルモ被告ノ供述ヲ錄取シタル豫審調書其物ハ効力ヲ失フモノニアラサレハ之ヲ斷罪ノ資料ニ供スルモ違法ニアラス第八ハ原院ハ被告ノ申立ニ齟齬アルヲ以テ詐欺取財ナリトノ認定ヲ下シタリ好シ齟齬アリトスルモ告訴人ノ供述ニモ曖昧齟齬ノ點數多アリ然ルニ告訴人ノ申立ノミヲ採用シ對質ヲ請求シタルモ之ヲ許サス有罪ノ判決ヲ下シタルハ不法ナリト云フニアレトモ。○要スルニ原院ノ職權ニ屬スル證據ノ取捨ヲ批難スルニ外ナラサレハ上告適法ノ理由ナシトス。遺伸ノ要旨第一第二第三第五ハ前記擴張ノ趣旨ヲ敷衍辯明スルニ過キサレヲ以テ別ニ說明ヲ與ヘス。其第四ハ本件ノ骨髄タル私印盗用私書偽造ハ無罪トナリ及ヒ證書成立ノ基本タル株式密賣買ヲ不問ニ置キナカラ詐欺取財ノ罪アリトセシハ不法ナリト云フニ在レトモ。○私印盗用私書偽造取引所法違犯ノ罪ト詐欺取財ノ罪ハ各別ノ罪ナルヲ以テ原院カ本件ヲ詐欺取財ノ一罪トセシハ違法ニアラス。辯護士ノ辯明第二ハ本件ハ大審院ニ於テ東京控訴院ノ判決ヲ破毀シ原院ニ移送シタルモノナレハ被告ノ控訴及ヒ檢事ノ附帯控訴ヲ併セ審理スルモノナルヲ以テ公判ノ起訴ニ於テ檢事ハ被告事件ノ陳述ヲ爲スヘキニ事茲ニ出テス裁判所モ其陳述ヲ聽カスシテ判決ヲ下シタルハ不法ナリト云フニアレトモ。○被告ハ控訴ニ付テハ其上訴人タル被告ヨリ陳述ヲ爲スハ當然ニシテ檢事ヨリ起訴ニ被告事件ノ陳述ヲ爲スハ必要ナシ又々附帯控訴ニ付テハ檢事ヨリ起訴ニ陳述ヲ爲サハルモ被告ニ於テ辯護ノ方法ヲ失フコトナケレハ致テ違法ナリトセス。其第三ハ本件ニ付被告カ民事上勝訴ノ結果財物ノ移轉アリトス

ルモ個ハ強制執行ニ基クモノニシテ奪モ對手人ノ承諾ヲ要サセルモノナレハ其移轉ノ事實ヲ目シテ騙取ナリト云フヘカラス況ンヤ民事訴訟ハ口頭辯論ヲ開始セサリシモノナレハ未タ裁判所ニ對シ金圓請求ノ申立アリタルモノト云フヲ得ス從テ詐欺取財ノ實行ニ着手シタルモノニアラサルナリ故ニ原院カ本件ニ詐欺未遂ノ法條ヲ適用シタルハ違法ナリト云フニアレトモ

○原判決ノ事實ニ依レハ被告ハ民事裁判所ニ元利金ノ請求ヲ爲シ且有體動産ノ假差押ヲ爲シタルモノナレハ單ニ騙取ヲ豫備シタルニ止マラス既ニ其實行ニ着手シタルモノト謂ハサルヲ得ス故ニ原院カ詐欺取財ノ未遂ヲ以テ處罰シタルハ相當ナリ第四ハ本件公判延ニ檢事ハ法律適用ニ付意見ヲ述ヘス裁判所モ之ヲ聽カスシテ判決ヲ與ヘタルハ不法ナリト云フニアレトモ

○原院公判始末書ヲ閱スルニ檢事ハ相當ノ判決ヲ與ヘラレ度シト陳述シ其陳述ニハ法律適用ノ含響スルコトハ勿論ナレハ奪モ審理ニ不完全ノ點ナク上告ハ其理由ナシトス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本案上告ハ之ヲ棄却ス

明治二十八年十月八日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

○持兇器竊盜再審ノ件

明治二十八年第一一四九號
明治二十八年十月八日宣告

○判決要旨

公正證書ヲ以テ原判決ニ認メタル前科ノ刑期ニ錯誤アルコトヲ證明シタルトキハ再審ノ訴ヲ爲スコトヲ得

(參照) 再審ノ訴ハ左ノ場合ニ於テ重罪輕罪ノ刑ノ言渡ニ對シ被告人ノ利益ノ爲メ之ヲ爲スコトヲ得但判決確定ノ後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス(刑事訴訟法第三百一一條)

公正證書ヲ以テ訴訟記録ニ偽造又ハ錯誤アルコトヲ證明シタルトキ(同第五號條)

原裁判所 宮城控訴院

被告人 菊地來爾

右來爾カ持兇器竊盜被告事件ニ付明治二十八年六月二十七日大審院ニ於テ宮城控訴院カ被告來爾ニ對シ言渡タル判決ノ擬律ヲ破毀シ原院カ認メタル事實ニ依リ被告ヲ重禁錮四年ニ處シ監視一年六月ニ付ス但明治二十年十二月二十六日山形輕罪裁判所ニ於テ處斷セラレタル竊盜罪ノ刑重禁錮三年監視一年ノ刑ヲ以テ本刑期ニ通算スト言渡シタル判決確定ノ後被告ハ再審ノ訴ヲ爲シ原院檢事長犬塚盛誠ハ意見書ヲ差出シタルニ因リ刑事訴訟法第三百六條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

再審訴旨ノ要領抑モ來爾カ先キノ上告論旨中宮城控訴院ハ明治二十年十二月二十四日山形輕

前科ノ刑期ニ錯誤アルコトヲ原由トスル再審

罪裁判所ニ於テ受ケタル刑ヲ三年ノ重禁錮ナリト列示セラレタルモ然ラス其實三年六月ノ重禁錮ナルコトヲ論述セシニ本院ハ錯誤ナル一件書類ヲ專信シ來爾ノ論旨ヲ採ラス錯誤アル書類ニ基キ三年ノ重禁錮ト確認セラレタリ依テ重禁錮四年ノ刑ニ重禁錮三年ヲ通算スヘキモノト一定セラレタリ退テ其遺憾ヲ吞ムニ忍ヒス故ニ宮城控訴院檢事ヘ證憑ヲ付シ其取調ヲ請求セシニ全ク訴訟書類ノ錯誤ニアリタル旨告知アリタリ故ニ別紙公正證書相添ヘ再審アラントヲ請求スト云フニ在リ

○因テ訴訟記録ヲ查スルニ山形縣典獄大樂新造ノ證明書及ヒ山形輕罪裁判所ニ於テ言渡シタル判決書ハ附本ニ依レハ被告カ明治二十年十二月二十六日同裁判所ニ於テ處斷セラレタル刑期ハ重禁錮三年六月ナルコト瞭然タルニ依リ被告ハ判旨ハ刑事訴訟法第三百一條第五項ニ適合スル再審ノ原由アルモノトス

以上ノ理由ナルニ依リ刑事訴訟法第三百七條ノ規定ニ則リ原判決ノ全部ヲ破毀シ再審ヲ爲サシムル爲メ本件ヲ函館控訴院ニ移ス

明治二十八年十月八日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事春木義彰立會宣告ス

○謀殺及毆打創傷ノ件

明治二十八年第九六四號
明治廿八年十月十日宣告

○判決要旨

犯罪ノ準備ニ供シタル物件ヲ以テ犯罪ノ用ニ供シタル物件トシテ沒收シタル裁判ハ擬律錯誤ノ不法アルモノトス(判旨第三點)

證人參考人等ノ陳述ニ對シ逐一被告人ノ意見ヲ聽クヲ要セス(判旨第十點)

(參照) 左ニ記載シタル物件ハ宣告シ宜ニ沒收ス但法律規則ニ於テ別ニ沒收ノ例ヲ定メタル者ハ各其法律規則ニ從フニ法律ニ於テ禁制シタル物件ニ犯罪ノ用ニ供シタル物件

三、犯罪ニ因テ得タル物件(刑法第四十三條)

法律ニ於テ禁制シタル物件ハ何人ノ所有ヲ問ハス之ヲ沒收ス犯罪ノ用ニ供シ及犯罪ニ因テ得タル物件ハ他人ノ所有ニ係リ又ハ所有主ナキ時ノ外之ヲ沒收スルヲ得ス(刑法第十四條)

第一審 浦和地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 岩田伊十郎 辯護人 江木 水 飯田 宏 裏 作

右謀殺及毆打創傷被告事件ニ付明治二十八年七月三日東京控訴院ニ於テ被告ノ控訴ヲ審理ノ末第一審判決ヲ取消シ更ニ被告ヲ死刑ニ處シ押収物件ノ中竹及ヒ鎗ヲ沒收シ羽織及ヒ帶ハ被

犯罪準備ノ物件○被告人ノ意見

犯罪準備ノ物件○被告人ノ意見

被告人ニ選付シ公訴々訟費用ハ被告人ノ負担トスト旨渡シタル判決ニ對シ被告人ヨリ上告ヲ爲シ原判決ノ破毀ヲ要求シ原院檢察ハ答辯書ヲ差出サス大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ

上告趣旨ノ第一ハ原判決ハ罪トナラサル事實ニ對シテ有罪ヲ旨渡シタルハ不法ナリト云フニアレトモ○原院ニ於テ有罪タル事實ヲ認メタルコト判文上明瞭ナレハ右論旨ハ上告ノ理由ト爲スヲ許サス第二ハ原院カ本件ノ證據ト爲シタル證人横田テツナル者ハ最初證人トシテ適法ニ訊問ヲ受ケタレトモ其後數十日ヲ經過シタル後即明治二十八年六月二十九日再ヒ證人トシテ訊問ヲ受ケルニ際シテハ原院ニ於テ更ニ宣誓ヲ爲サシメスシテ訊問ヲ爲シ之カ陳述ヲ以テ斷罪ノ證トシタルハ不法ナリ況ンヤ同人カ再度ノ出廷ニ際シ最初原院ニ於テ爲シタル證言ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル旨ヲ自首セリ然ラハ即チ此自首ト同時ニ以前ノ宣誓モ亦無効ニ歸セサルヲ得サルカ故ニ再度ノ訊問ニ際シテハ必ス適法ノ手續ヲ履行セサル可カラズ然ルニ原院カ是等ノ手續ヲ爲サスシテ得タル陳述ヲ證言トシ而モ之ヲ斷罪ノ證トシタルハ不法ナリト云フニ在レモ○證人訊問ニ付最初適法ニ宣誓ヲ爲サシメタル上ハ再度ハ訊問ニ際リ其間日數ハ經過アルモ又其陳述ニ付變更スル處アルモ再ヒ宣誓ヲ爲サシムヘキモノニアラス故ニ原院カ横田テツハ證言ヲ斷罪ノ證料ニ供シタルハ決シテ不法ニアラス

辯護士江木真上告據理由書ノ第一ハ原判決ハ犯罪ノ用ニ供シタル物件トシテ竹及ヒ鉛ヲ沒収スヘキモノト認定シナカラカ被告人ハ此機會ニ乘シ鉛ヲ援テ躍出テ云々ト明言シ毫モ竹ヲ以

判旨第二點

判旨第三點

テ犯罪ノ用ニ供シタル事實ヲ認定セサルハ抵觸ノ認定ヲ與ヘタルモノナルノミナラス竹ハ犯罪ノ行ハレタルヨリ十數時前居宅ノ近傍ニ隠シ置キ犯時ニハ鎗ノミヲ携ヘ行キタル事實ヲ認メナカラカ之ヲ犯罪ノ用ニ供シタルモノトセルハ不當ニ事實ヲ認定シ且ツ理由抵觸ノ甚シキモノナリト云フニアリ○依テ原院判文ヲ閱スルニ何レニテカ鎗及ヒ竹ヲ準備シ其竹ヲ割リテ鎗ヲ藏メ明治二十六年四月十四日未明之ヲ登之吉居宅ノ近傍ニ隠シ置キ同日日没後該鎗ノミヲ携ヘテ登之吉居宅ノ前ニ潜伏シ云々被告人ハ此機會ニ乘シ鎗ヲ援テ躍リ出テ云々トアリテ原院カ認メタル事實ニ依リハ該竹ハ犯罪實行ノ際用ヒタルモノニアラスシテ其實行以前鎗ヲ隠シ置クカ爲メ即チ準備ノ用ニ供シタルモノハ外ナラサルナリ然ラハ則チ該竹ハ犯罪履行ノ物件ト云フヲ得サレハ刑事訴訟法第二百二條ニ依リ所有者ニ選付スヘキモノナルニ原院カ之ヲ犯罪履行ノ物件トナシ刑法第四十三條第二項第四十四條ニ依リ之ヲ沒收シタルハ擬律錯誤ハ裁列タルヲ免カレシテ此點ニ對スル原院決ハ破毀スヘキモノトス第二ハ原院決ハ刑法第三百六十二條ヲ適用シナカラカ其所爲ノ謀殺ナルカ故殺ナルカチ明言セサルハ不法ナリト云フニアレトモ○本件被告ノ所爲ヲ謀殺罪ト認メタルコトハ原院決事實理由ノ部ニ明示シアレハ同條中謀殺ノ法文ヲ被告ノ所爲ニ適用シタルコトハ明晰ナリトス第三ハ縱シ一步ヲ讓リ原院決ヲ以テ謀殺ノ刑ヲ適用シタルモノト推諛スルモ原院決ハ毫モ豫謀ノ事實ヲ認メサル不法アリ何トナレハ所謂豫謀即チ熱慮平靜ナル殺意ハ殺害ノ實行ニ伴フヘキモノニシテ準備又ハ被告カ從來ノ目的ト同視スヘキモノニアラサレハナリト云フニ在レトモ○原院カ豫謀ノ事實ヲ認メ

犯罪準備ノ物件○被告人ノ意見

アルコトハ理由書第一ノ説明中ニ摘示シタル原判文ニ依リ明瞭ナリトス【第四ハ原判決ハ單ニ殺害ノ罪アリト謂フト雖モ殺害罪ナルモノハ嘗テ刑法ニ罪名アルコトナシト云フニ在レトモ○原判決事實ノ理由中ニ被告ノ所爲ヲ謀殺罪ト認メアレハ法律適用ノ部ニ於テ「登之告ヲ殺害シタルハ」ト記シタルハ其謀殺ノ所爲ヲ掲ケタルニ過キスシテ別ニ罪名ヲ付シタルモノニアラス【第五ノ其一ハ原判決カ刑法第三百三條ヲ適用セラレタレトモ同條ノ犯罪ヲ構成スルニハ二個ノ犯罪即チ本件ノ殺害罪ト毆打罪トノ間ニ牽連則チ直接ナル原因結果ノ關係ナカルヘカラス然ルニ本件被告ノ所爲ハ銀藏カ取押ヘントシタルヲ以テ其一身ヲ適レンカ爲メニセルモノナレハ直接ノ原因ハ取押ニシテ其結果カ創傷ト爲レルナリ故ニ原判決ハ法律ノ適用ヲ誤リタルノミナラス其適用ヲ誤リタル犯罪ヲ以テ數罪ノ一ト爲シ重キニ從テ處分シタルモノニシテ到底破毀ヲ免カルヘカラサルモノト確信スト云フニ在レトモ○原判決ノ認ムル處ニ依レハ被告カ登之告ヲ謀殺シ其罪ヲ免カル、爲メ銀藏ヘ負傷セシメタルモノナレハ原院カ刑法第三百三條ヲ適用シ重罪ト爲シ輕罪ト爲シタルハ相當ノ判決ニシテ上告論旨ノ如キ不法アルコトナシ【其二ハ原判決ハ單ニ三百三條ヲ適用シナカラ其罪ヲ犯スニ便利ナル爲メニセルカ又已ニ犯セル罪ヲ免カル、爲メナルカチ定メサルハ不法ナリト云ヒ【其三ハ原判決ハ唯タ身ヲ適ル、爲メ創傷罪ヲ犯セルモノトノミ明言シ其罪ヲ免カル、爲メナルヤ否ヤチ確定セサルハ事實理由ノ不備アルヲ免カレスト云フニ在レトモ○被告カ創傷罪ヲ犯セシハ既ニ犯セル謀殺罪ヲ免カル、爲メナルコト原判文ニ明示シアレハ原判決ハ事實理由ノ不備アルコトナシ

判旨第十點

辯護士飯田宏作上告擴張書ノ第一ハ原判決ハ鎗及竹箸クハ鎗ノミチ以テ犯罪ノ用ニ供シタリト認定サレタレトモ第一審判決ハ之ニ反セリ故ニ刑法第四十三條ヲ適用セサリシハ當然ナリ然ルニ原院ハ原判決モ自己ノ判決ト同一ナリト誤認シ正條ヲ適用セストノ理由ニ依リ第一審判決ヲ取消シタルハ報復ヲ誤認シ即チ未タ十分ニ第一審判決ノ當否ヲ審判セサル不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○第一審裁判所ニ於テ沒収ノ言渡ニ付法律ノ正條ヲ明示セサルハ不法ノ判決ナルヲ以テ原院カ此點ニ付被告ノ控訴ヲ理由アリトシ該判決ヲ取消シタルハ決シテ不法ニアラス【第二ハ原院ニ於ケル證人小川辨次郎【第三回開廷】參考人小林銀藏【第二回開廷】澤田マサ【第四回開廷】ニ付被告人ノ意見ヲ聞カレス即チ刑事訴訟法第九十八條ニ違背シタル取調ナルニ此違法ナル取調ノ陳述ヲ採リテ斷罪ノ資料ニ供シタルハ不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○原公判始末書ヲ意圖スルニ證據調ノ最終ニ於テ被告ニ對シ利益ノ證又反證差出方ノ告知ヲ爲シ尙ホ申立ノ有無ヲ訊問シタルコト明載シアレハ證人又ハ參考人等ハ陳述ニ付一々被告人ノ意見ヲ聽カカリシトテ違法ハ取調ト云フヲ得、從テ原院カ該陳述ヲ採リテ斷罪ノ資料ニ供セシハ不法ニ非ス

右ノ理由ナルニ付上告擴張理由書第一ニ對スル原判決ノ部分ハ刑事訴訟法第二百八十七條ニ從ヒ之ヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ判決シ其他ノ上告ハ同法第二百八十五條ニ依リ之ヲ棄却ス

原院ノ認メタル事實ニ依リ押収ノ竹ハ刑事訴訟法第二百二條ニ依リ被告人ニ還付ス

犯罪準備ノ物件○被告人ノ意見

岩田伊十郎

明治二十八年十月十日大審院第一刑事部公廷ニテ檢事安居修藏立會宣告ス

○紙幣偽造ノ件

明治二十八年第九八一號
明治二十八年十月十日宣告

○判決要旨

事實ノ理由ニ於テ犯罪ノ用ニ供シタル物件タルコトヲ認定セスシテ法律ノ理由ニ至リ漫然刑法第四十三條第二項ヲ適用シ其物件ヲ沒收シタル判決ハ事實上ノ理由ヲ明示セサル不法ノ裁判ナリ

(參照) 左ニ記載シタル物件ハ宣告シテ官ニ沒收ス但法律規則ニ於テ別ニ沒收ノ例ヲ定メタル者ハ各其法律規則ニ從フ(刑法第四十三條)

犯罪ノ用ニ供シタル物件(同條)

第一審 浦和地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 江原半平 高橋源而 細井新太郎
辯護人 鹽谷恒太郎 高橋庄之助 木内傳之助

右紙幣偽造被告事件ニ付明治二十八年六月二十七日東京控訴院ニ於テ浦和地方裁判所ノ裁判

ニ對スル被告ノ控訴ヲ審理ノ末原判決ヲ取消シ被告半平新太郎ヲ各輕懲役七年ニ處シ被告源而ヲ重懲役四年ニ處シ監視六月ニ付ス押収品ノ一圓及ヒ五圓紙幣版木番號板日本銀行總裁ノ印願同總裁金庫局長文書局長ノ印章アル紙片彫刻刀藥瓶活字紙石眞書筆ハ之ヲ沒收シ其他ハ各差出人ニ還付スト旨渡シタル判決ニ服セスシテ被告三名ヨリ上告シタルニ依リ本院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理スル左ノ如シ

被告詠而上告趣意及ヒ同人辯護士高橋庄之助上告趣意擴張書ノ要旨ハ原院カ被告ノ所爲トシテ認メタル所ハ被告ハ當初職工トシテ雇ハレタルモ其給料ノ約束ニ違ヒシ爲メ之中止シタルニ付キ半平等ハ中村市五郎ヲシテ更ニ其所爲ヲ繼續セシメタリトノ事實ナリ然ラハ被告ノ所爲ハ事發覺前中止シタルモノナレハ其所爲罪トシテ問フ可キモノニアラス我刑法ハ貨幣偽造罪ニ於テ豫備未遂等ヲ一個獨立ノ犯罪ト認ムルモ其豫備未遂共ニ將ニ遂ケント爲シツトアル場合ニ發覺シタルトキニ於テ始メテ一個ノ罪トナルヘシ乃チ犯意ノ繼續ヲ要スルコトハ刑法第八十六條第九十二條等ニ徴シ明カニシテ本案ノ如ク其發覺前即チ中途ニ於テ意思ノ消滅シタルモノハ通常一般ノ犯罪ト同一ニ其所爲ハ不問ニ付スヘキモノナリ既ニ遂ケタル場合スラ自首スルニ於テハ特ニ免刑ス況ンヤ既遂以前ノ中止ノ所爲ニ於テオヤ然ルニ原院カ之ニ對シ有罪ノ判決ヲ與ヘタルハ擬律ニ錯誤アル不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○刑法第八十六條第二項ノ罪ハ偽造ノ器械ヲ豫備スルニ於テ成立スルモノナレハ其以後之ヲ中止スルモ其罪ヲ免ルヲ得サルナリ故ニ原院カ其認メタル被告ノ所爲ヲ刑法第八十七條第一事實上ノ理由不備

項ニ開擬シタルハ相當ニシテ擬律ノ錯誤ニアラス依テ此點ニ對スル被告諒而ノ上告ハ其理由ナシ

判旨第三點

被告新太郎辯護士木内傳之助カ擴張書ハ原院ノ判決ニ於テ藥瓶活字砥石眞書筆等ヲ沒收セラレタルモ判決ノ全部中犯罪ノ用ニ供シタリト見ルヘキ事實理由一モ記載ナシ是レ事實理由ノ不備ナリト云フニアリ○依テ原判文ヲ查スルニ其法律ハ理由中ニ藥瓶活字砥石眞書筆ハ同條(刑法第四十三條)第二項ニ依リ沒收シ云々トアルハ、ミニシテ其事實ハ理由中一モ之ニ關スル記事ナカレハ右列記沒收ノ物件カ果シテ犯罪ノ用ニ供セラレタルヤ否ヤ之ヲ知ルニ由ナク、乃チ原判決ハ事實理由ハ明示ヲ關カ不法アルモハニシテ上告論旨ハ如ク破毀ノ原由アルモハトス

被告新太郎辯護士木内傳之助上告趣意擴張書ノ要ハ本件ノ被告事件ニ於テハ其偽造セントシタル紙幣カ官許ヲ得テ發行シタル銀行ノ紙幣ニ係ルヤ銀行紙幣ニ非サル内國通用ノ紙幣ナルヤニ付テハ法律ノ適用ヲ異ニスルモノナレハ之ヲ明示スル事ヲ要ス然ルニ原判決被告半平ニ對スル理由ヲ見ルニ内國通用ノ紙幣ヲ偽造セント企テ云々先ツ五圓紙幣ニアル云々再ヒ同人ヲ呼寄セ一圓紙幣ノ表面ヲ板ニ貼付ケ云々トアリテ一圓紙幣トハ銀行紙幣ニ非サル内國通用ノ紙幣ナルコトノ明示ナキカ故ニ却テ五圓紙幣ト同ク銀行紙幣ナリト解スルヲ得セシム然ルニ原院カ何等ノ説明モナサシテ直チニ刑法第百八十二條ヲ適用シタルハ理由ヲ付セスシテ法律ヲ適用シタル不法アルモノナリト云ヒ被告新太郎辯護士木内傳之助ニ於テモ右ノ論旨ハ新太郎ノ爲メ採用スル旨申立テタリ○依テ原判文ヲ查閱スルニ其ノ事實ノ理由ニ被告半平ハ云

云内國通用ノ紙幣ヲ偽造セント企テ云々先ツ五圓紙幣ニ押捺シアル日本銀行總裁金庫局長及ヒ文書局長ノ印ヲ彫刻セシメ進ントテ五圓紙幣ヲ板ニ貼付ケ其彫刻ニ着手シタルモ同年八月申諭而ハ資金ノ給與約束ノ如クナラサルヲ以テ私カニ同所ヲ立去リタルヨリ翌二十六年四月相被告タリシ山下茂三郎ト共ニシ茂三郎カ金主ナル旨ヲ以テ詠而チ既キ再ヒ同人ヲ自宅ニ呼寄セ一圓紙幣ノ表面ヲ板ニ貼付ケ之カ彫刻ニ着手セシメタルモ云々トアリ又其第三項ニ被告新太郎ハ云々被告半平カ紙幣偽造ノ企圖ニ同意シ其費用トシテ金四十五圓ヲ差出シ前々項後段記載ノ年月場所ニ於テ云々五圓紙幣ノ彫刻ヲ爲サシメタルモノナリトアリテ半平ノ一圓紙幣新太郎ノ五圓紙幣共ニ官許ヲ得テ發行スル銀行ノ紙幣ナリヤ將々内國通用ノ紙幣即チ官ノ發行スル紙幣ナリヤ否ヤヲ明示セサルカ故ニ其法律適用ノ部ニ被告半平新太郎ノ所爲ニ對シ刑法第百八十四條第百八十二條ヲ適用シアルモ其孰レカ孰レノ法條ニ該當スルヤ又ハ兩個共ニ其引用ノ法條ニ該當スルヤ之ヲ見ルニ由ナシ殊ニ新太郎カ彫刻ヲ爲サシメタル五圓紙幣トハ半平ノ事實ノ部ニ五圓紙幣ニ押捺シアル日本銀行總裁金庫局長及ヒ文書局長ノ印云々トアル其五圓紙幣ヲ云フモノナランニハ銀行紙幣ニアラスシテ寧ロ日本銀行ノ兌換銀券ナルカノ疑ナキニ非ス要スルニ原判決ハ上告論旨ノ如ク事實ノ理由ニ於テ關クル所アル不法ノ裁判タルヲ免レスシテ破毀ノ理由アルモノトス

前示兩點ニ於テ原判決ヲ破毀スヘキモノト認ムル以上ハ半平新太郎カ他ノ上告論點ニ對シ特ニ說明スルノ要ナシトス

右ノ理由ナルニ付刑事訴訟法第二百八十五條同第二百八十六條ニ從ヒ判決スル左ノ如シ
被告詠而ノ上告ハ之ヲ棄却ス

被告半平新太郎ニ關スル部分ノ原判決ヲ破毀シ更ニ審判セシムル爲メ宮城控訴院ニ移ス
明治二十八年十月十日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○放火ノ件

明治二十八年第一〇三四號
明治二十八年十月七日宣告

○判決要旨

徵憑ニ制限ナシ(判旨第三點)

(參照) 被告人ノ自白、官吏ノ檢證調書、證據物件、證人及ヒ鑑定人ノ供述其他諸般ノ徵憑ハ
刑事ノ判斷ニ任ス(刑事訴訟法第九十條)

官署ノ捺印ヲ要スル法則(刑事訴訟法第二十條)ハ刑事訴訟法ニ依リ作成スヘキ
書類ニノミ適用ス(判旨第四點)

(參照) 官吏ノ作ルヘキ書類ハ其所屬官署公署ノ印ヲ用ヒ年月日及ヒ場所ヲ記載シテ署

名捺印シ毎葉ニ契印スヘシ若シ官署公署ノ印ヲ用ユルコト能ハサル場合ニ於テハ其事
由ヲ記載スヘシ此規定ニ背キタルトキハ其書類ノ効ナカル可シ(同法第二項)

第一審 大分地方裁判所 第二審 長崎控訴院

被告人 野間喜市 辯護人 岡崎正也

右喜市カ放火被告事件ニ付明治二十八年八月一日長崎控訴院ニ於テ被告ノ控訴ヲ審理シタル
末大分地方裁判所カ被告ヲ有期徒刑十五年ニ處シ公訴裁判費用ハ被告ノ負擔トスト言渡シタ
ル判決ハ相當ニシテ被告ノ控訴ハ其理由ナキニ付之ヲ棄却スト言渡シタル判決ニ對シ被告ハ
上告ヲ爲シタリ大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如
シ

上告趣旨ハ本案犯罪ノ夜被告ハ被害者畑延鐵藏宅ヨリ凡二里半許隔リタル西馬城村大字矢部
奥末松方ニ宿泊シ居タル事實ヲ證明スルカ爲メニ證人右末松及外一名ノ喚問ヲ申請シタルニ
原院ニ於テ之ヲ採用セスシテ被告ノ所爲ト判決シタルハ不法ナリト云フニ在ルトモ○證人喚
問ノ必要ナルヤ否ヤヲ判別シテ之ヲ許否スルハ原承審官ノ職權ニ存スルモノナレハ其申請ヲ
採用セザリシヲ以テ不法ナリト爲スコトヲ得ス

辯護士岡崎正也ノ擴張論旨第一點ハ原判文ニ、以上ノ事實ハ巡査ノ復命書探偵報告書云々ニ徵
シ證據充分ナリトアレントモ訴訟記録ヲ閱スルニ巡査ノ復命書及ヒ探偵報告書ト題スル書面數
個アルニ付孰レヲ採用シタルヤ之ヲ知ルニ由ナク即チ證據ノ明示ヲ圖キタルモノナリト云フ

徵憑○官署ノ捺印

ニ在レトモ○原判文ニ單ニ巡查ノ復命書探偵報告書トアル上ハ即チ右書類悉皆ヲ探テ以テ斷罪ノ資料ニ供シタルノ趣旨ナルコト明瞭ナレハ證據ノ明示ヲ闕キタルモノニアラサルナリ

同第二點ハ巡查ノ復命書及ヒ探偵報告書ナルモノハ警察上ノ捜査手續ニ屬スルモノニシテ裁判上證據トシテ採用スヘキ筋合ノモノニアラサルニ原院カ之ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○刑事訴訟法第九十條ニ被告ノ自白云々其他諸般ハ徵憑ハ判事ハ判斷ニ任ストアリテ何等ノ制限ヲモ設ケタルコトナケレハ法律上無効タルヘキモノナリ除クハ外ハ如何ナル書類ト雖モ總テ心證ニ供スルコトヲ得ヘキモノナレハ原院カ右巡查ノ復命書及ヒ探偵報告書ヲ採テ以テ斷罪ノ資料ト爲シタルハ決シテ不法ニアラサルナリ

判官第三點

同第三點ハ假ニ巡查ノ復命書又ハ探偵報告書ハ裁判上證據トナルヘキモノトスルモ巡查村上漢臣ノ復命書小野龜五郎ノ探偵報告書ニハ官署ノ印ヲ捺捺セス又其理由ノ記載ナク違法ノモノナルニ原院カ之ヲ探テ以テ斷罪ノ資料ニ供シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○刑事訴訟法第二十條ハ調書又ハ公判始末書等ハ如何ノ同法ハ規定ニ從テ作成スヘキ書類ニ適用スヘキ規定ニシテ同法ハ規定ニ從テ作成セサル其他ノ書類ニ迄適用スヘキ規定ニアラサルナリ故ニ巡查復命書又ハ探偵報告書ノ如キハ右規定以外ニ屬スルモノナレハ官署ノ印ヲ捺捺セス又其理由ノ記載ナキモ決シテ違法ニアラス隨テ原院カ之ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルヲ以テ不法ナリト爲スコトヲ得サルナリ

同第四點ハ原院ノ公判始末書ヲ閱スルニ被告ヲシテ最終ノ申立ヲ爲サシメタルコトナク又其

判官第四點

告知ヲ與ヘラレタルコトナキハ違法ナリト云フニ在レトモ○刑事訴訟法第二百二十條第二項ニ但辯論ノ最終ニハ被告人又ハ辯護人ヲシテ供述セシム可シトアリテ原院ノ公判始末書ヲ查閱スルニ辯論ノ最終ニ辯護人ニ於テ供述シタルコトヲ明記シアルニ付毫モ違法ノ點ナシ又其告知ヲ爲スヘシトノ規定アラサレハ告知ヲ爲サリシヲ以テ違法ナリト爲スコトヲ得ス

同第五點ハ原院ニ於テ如何ナル判決ヲ言渡サレタルヤ之ヲ知ルニ由ナク又其理由ヲ告知セラレタルコトナキハ違法ナリト云フニ在レトモ○原院ノ公判始末書ヲ查閱スルニ裁判長ハ前席同僚ノ手續ニテ開廷裁判ヲ言渡シ云々ト記載シアルニ付即チ判決ノ全部ヲ言渡シタルコト明瞭ナレハ是亦違法ノ點ナシ

同第六點ハ原院ニ於テ辯護人カ申請ノ證人許否ニ付テモ決定ヲ與ヘラレトコトナク檢事ハ證據調濟ノ後ニ於テ事實及ヒ法律ノ辯論ヲ爲サレハ不法ナリト云フニ在レトモ○原院ノ公判始末書ヲ查閱スルニ裁判長ハ云々證人申請必要ト評決セハ尙ホ開廷ス不必要ト決セハ此儘ニテ明後日宣告スル旨ヲ告知シ云々ト記載シアリテ即チ豫メ決定ヲ與ヘタルニ外ナラス又檢事ニ於テ證據調濟ノ後事實及ヒ法律適用ニ付意見ヲ陳述シタルコトモ亦有公判始末書ニ記載スル所ニ依リ之ヲ認メ得ヘキヲ以テ本論旨モ亦適法ノ理由ナキモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本案ノ上告ハ之ヲ棄却ス

明治二十八年十月十日大審院第一刑事部公延ニ於テ檢事安居修職立會宣告ス

○官林盜伐ノ件

明治二十八年第一〇〇四號
明治二十八年十月十一日宣告

○判決要旨

民事原告人ニシテ國ノ代表者ナルトキハ證人ニ對シ其民事原告人トノ身分上

ノ關係ヲ訊問審査スルノ要ナシ

第一審 奈良地方裁判所 第二審 大阪控訴院

公訴私訴上告人 丸山榮真 辯護人 高木益太郎

私訴被上告人 小林政實

右榮真官林盜伐被告事件ニ付明治二十八年七月九日大阪控訴院ニ於テ言渡シタル公訴私訴ノ判決ニ服セス被告ハ上告ヲ爲シ原院檢察長林誠一ハ公訴ニ付答辯書ヲ差出シ私訴被上告人ハ答辯書ヲ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ
上告趣意書ノ要旨ハ原判決ニ被告ハ寶生寺境内ノ官林ニ生立スル杉檜其他ノ立木八十三本ヲ盜伐シタリトアレトモ被告ハ之ヲ盜伐シタルニアラス僅ニ十數本ヲ本寺堂宇修繕ノ爲メ伐採シタルニ過キヌ明治十五年内務省達ニ依ルルハ社寺境内ニ在ル竹木ヲ社寺修繕ノ爲メ伐採スルトキハ監督官認ノ認許ヲ經ルヲ要スルニ過キヌシテ若シ認許ヲ經スシテ伐採スルモ盜伐ノ

犯罪ヲ構成セス何トナレハ社寺境内ノ竹木ニ關スル收入ハ總テ其社寺ノ収益ニ歸セシムヘキ規定ナルヲ以テ原判決ニ認メタル事實アリトスルモ毫モ他ニ害ヲ及ホスコト無ク單ニ監督手續ノ上ニ於テ責任ヲ負フニ過キサレハナリ故ニ原判決ハ違法ナリト云フニ在レトモ○原判決ニ認メタル事實ナレハ被告ハ寶生寺境内官林ノ樹木ヲ認許ヲ得スシテ伐採シタルモノニシテ同寺ノ所有ニアラサレハ堂宇修繕ノ爲メナルト否トテ論セス原院カ其所爲ヲ盜伐ト認定シタルハ當然ニシテ違法ニアラス私訴上告趣意追申書ノ要旨ハ被上告人ノ請求セシ損害ノ數額ニ付原院カ當事者ノ申立サル鑑定書ヲ證據トシテ採用シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○賠償金等ノ數額ニ付爭アル場合ニ於テ裁判所ハ職權ヲ以テ鑑定ヲ命スルコトヲ得ヘキモノナルヲ以テ上告論旨ハ其理由ナシ上告趣意辯明書第一點ハ縷々論述スル所アレトモ要スルニ原院カ官吏ノ命令ナレハ其當否ヲ問ハス風從スル山中ノ樵夫ヨリ差出シタル信用シ難キ鑑定書ヲ證據トシテ採用シタルハ不法ニシテ被告カ原院ノ認定シタル如キ樹木ヲ伐採セサルトハ證人ノ證言等ニ依リ明瞭ナリト云フニ在リテ○原院ノ職權ニ屬スル證據ノ取捨事實ノ認定ヲ批難スルニ過キサルヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス第二點ノ要點ハ被告カ植田篤之助井戸本勘四郎ニ賣渡シタル樹木ハ官廳ノ認可ヲ受ケタルモノ又ハ入札ニ依リ落札シタルモノニシテ皆正當ニ取得シタルモノナルニ原院カ柴崎久則ノ不實ノ證言ニ據リ被告ニ冒認罪アリト認定シタルハ不法ナリト云フニ在リテ○是亦原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定採證ノ當否ヲ論爭スルモノナルヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス第三點ハ私訴ニ付原院カ當事者ノ申立サル金額チ一方

ノ負擔ニ歸セシメタルハ不法ナリ又被告ハ假令監督官廳ノ許可ナクシテ境内ノ樹木ヲ採用シ
タリトスルモ其樹木ハ堂宇ノ修繕ニ使用シタルモノナルヲ以テ毫モ自己ヲ利シタルニアラサ
レハ一樹木代金辨償ノ義務ヲ負擔スヘキ筈ナキニ原院カ其義務アリト判決シタルハ違法ナリ
ト云フニ在レトモ○右前段ノ論旨ニ付原判決ヲ査閱スルニ被告上告人ノ請求シタル賠償金額ヲ
減殺シテ其賠償ヲ被告ニ負擔セシメタレハ原判決ハ上告論旨ノ如キ不法アルコトナシ又原判
決ハ被告ニ於テ境内ノ官林ヲ盜伐シタリト認定シタルモノナレハ其伐採シタル樹木ヲ被告カ
自家ノ用ニ供シタルト堂宇修繕ノ用ニ供シタルトニ論ナク被告ニ賠償ノ義務アリト判決シタ
ルハ當然ニシテ違法ニアラス『辯護士高木益太郎ノ辯明書第一點ハ本件ニ付民事原告人カ私訴
ヲ提起シタル後ニ於テ證人植田篤之助ノ第二回豫審訊問ヲ爲スニ當リ民事原告人ト身分上ノ
關係如何ヲ問ハサリシハ違法ナルニ原院カ此違法ノ調書ヲ斷罪ノ證據ト爲シタルハ不法ナリ
ト云フニ在レトモ○本件ハ民事原告人ハ國ハ代表者タル奈良縣知事ナルヲ以テ證人ニ對シ其
一身上ハ關係如何ヲ調査スルハ必要ナシ第二點ハ本件ノ檢證調書ヲ閱スルニ其檢證ハ明治二
十七年十月二十日午後一時着手シ同一時三十分降雨ノ爲メ中止シ同三時三十分再ヒ着手シ同
六時ニ至リテ中止シ又翌二十一日午前九時更ニ着手同午後三時終局ストアレハ其檢證調書ハ
之ヲ中止スル毎ニ特別ニ各調書ヲ作製スヘク又之ヲ作製シタル日時ヲ記載スヘキモノナルニ
然ラサリシハ違法ナリ從テ原院カ此違法ノ檢證調書ヲ斷罪ノ證據ト爲シタルハ不法ナリト云
フニ在レトモ○一時檢證ヲ停止スルトキハ其時毎ニ別ニ調書ヲ作製スヘシトノ規定ナク又本

件ノ檢證調書ニハ檢證ノ日時ヲ明示シアレハ其日時ノ最終ハ即檢證調書ヲ完結シタル時ト認
メ得ヘキヲ以テ毫モ違法ノ原ナシ然レハ原院カ同檢證調書ヲ證據トシテ採用シタルハ違法ニ
アラス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス
私訴上告費用ハ上告人之ヲ負擔ス可シ

明治二十八年十月十一日大審院第二刑事部公庭ニ於テ檢事應當融立會宣告ス

○竊盜ノ件

明治二十八年第一〇八二號
明治二十八年十月十一日宣告

○判決要旨

法律ハ公訴ノ提起ニ關シ一定ノ書式ヲ制限セス從テ其旨趣ヲ了解シ得ヘキ書
面ヲ提出スルヲ以テ適法起訴アリタルモノトス

第一審 東京地方裁判所 第二審 名古屋控訴院

被告人 來栖信一

右竊盜被告事件ノ控訴ニ付明治二十八年八月二十一日名古屋控訴院ニ於テ原判決ハ之ヲ取消
ス被告信一ヲ竊盜ノ罪アリトシ重禁錮二十日ニ處シ監視六月ニ付ス押収ノ小暮口暨個ハ假下

公訴提起ノ方式

ノ儘村田久吉へ還付スト言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタルニ付刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

上告趣意第一點ハ本件被告事件ノ事實ヲ明ニスルカ爲メ栗林仲助ヲ證人トシテ喚問アラシトテ請求セシニ原院カ之ヲ排斥シタルハ探證ノ法ヲ誤リタル不法ノ裁判ナリ同第二點ハ原院ノ認メタル如ク假リニ被告カ審口一個ヲ取リタリトスルモ當時盜取ノ意思ナカリシコトハ第一審調書及ヒ第二審廷ニ於ケル供述ニ於テ明瞭ナルノミナラス警察調書ニ於テ盜意アリタル事實ノ見ルヘキモノナシ然ルニ原院カ此所爲ヲ以テ竊盜犯ナリト認定シタルハ不法ノ裁判ナリト云フニ在リ

○然レトモ證人ヲ喚問スルト否トハ事實裁判所ノ見込ヲ以テ自由ニ之ヲ定ムヘキモノタリ殊ニ事實ノ認定ハ該裁判所ノ特權ニ屬スルヲ以テ上告裁判所ニ向テ之カ當否ヲ論難スルモ以テ適法ノ上告理由トスルヲ得ス

同第三點ハ原院文ニハ被害者村田久吉雇人栗林仲助ノ盜難届書ヲ以テ證據トナセシモノ一件記録中盜難届書ナルモノハ一モ之ナキノミナラス曾テ公廷ニ於テ被告ニ示サレタルコトナシ故ニ原判決ハ空物ヲ以テ證據ニ供シタル不法アリト云フニ在リ

○然レトモ一件記録中ニハ被害者村田久吉雇人栗林仲助ヨリ該盜難ノ始末ヲ届出タル書面アリ且原院ノ公判始末書中ニモ裁判長ハ被告入ノ警察調書並ニ檢事ノ調書栗林仲助ノ盜難届書ノ朗讀ヲ爲サシムルニ付注意シテ承ルヘキ旨ヲ告知ス

書記ハ該書類ノ朗讀ヲ爲シタリトアリ故ニ原院ハ空物ヲ以テ證據ニ供シタル如キ不法アリト云フヲ得ス之ヲ要スルニ上告論旨ハ右盜難届書ノ表題ニ盜難訴トアルカ故ニ盜難訴書ニシテ盜難届書ニ非スト云フニ

原由スト雖トモ是只名義ニ拘泥シタル論旨ニシテ原院文ニ謂フ所ノ届書トハ則チ右ノ書面ヲ指シタルモノナルコト殆モ疑ナ容ルヘキナシ

同第四點ハ原院ニ於テハ辯論ヲ公開セサル不法アリ何トナレハ原院公判始末書ニハ明治二十八年八月十九日午前九時開廷云々トアルモ公開シタリト記載ナシ故ニ今日ヨリ之ヲ見ルトキハ審問當時辯論ノ公開アリタルコトヲ知ルニ由ラケレハナリ或ハ明治二十八年八月二十一日ノ公判始末書ニ「本件訊問辯論裁判言渡等ハ總テ之ヲ公行シ」云々トアルニ依レハ辯論ノ公行アリタリト云フ者アラシモ八月二十一日ハ本件ニ對スル裁判言渡ノ期日ナリシヲ以テ裁判言渡ノ公行アリタリト云フヲ得スト云フニ在リ

同第五點ハ原院ハ被告人ヲシテ最終ニ發言セシメザリシ不法アリ其理由ハ第四點ト同シク八月二十一日ノ公判始末書ニハ被告人ヲシテ最終ニ發言セシメタリトアレトモ辯論ハ十九日ニ於テ既ニ終結シタルモノナレハ裁判言渡ニ際シ發言ヲ爲サシムル謂ナキヲ以テ之ヲ前日ノ記事ト謂ハサルヘカラザレハナリト云フニ在リ

○依テ案スルニ右二點ノ上告論旨ハ公判始末書ハ即日之ヲ整頓スヘク殊ニ辯論ノ數日ニ渉ル場合ニ在テハ一日毎ニ直チニ之ヲ整頓スヘキモノナリトスルニ甚クモノト如シ然レトモ刑事訴訟法第二百十條ニ於テ公判始末書ハ判決言渡ヨリ三日内ニ之ヲ整頓シ裁判長及ヒ裁判所書記署名捺印スヘシトアリテ則チ公判始末書ハ判決言渡ヨリ三日内ニ一通チ整頓スルヲ以テ足レリトス故ニ本件始末書ノ如ク辯論ノ公行及ヒ最終ニ發言セシメタリト云フ記事ノ如キモ其公行シ若クハ發言セシメタル日ニ成ラヌシテ判決言渡ノ後ニ成ルハ相當ナルヲ以テ後ニ成リタリトノ事ヲ以テ始末書ノ効力ヲ無視スルヲ得ス從

○原院ニ於テハ上告諭旨ノ如キ訴訟手續迄不法アリタルモノト謂フヲ得ス同第六點ハ原院ハ
 粟林仲助ノ盜難届書ト被告カ原院ニ於ケル供述トニ依リ有罪ノ判決ヲ下シタリト雖トモ被告
 ハ毫モ犯罪ヲ自白セサルノミナラス全ク犯罪ナキ旨ヲ供述シタルモノナレハ原院ハ盜難届書
 ニノミ依據シテ判決ヲ下シタルニ外ナラス然ルニ盜難届書ナルモノハ事實ノ生シタル日以後
 ニ成リタルモノナレハ法律上證據トシテ採用スルヲ得ヘキモノニ非ス故ニ原院力之ヲ以テ證
 據ニ供シタルハ不法ヲ免レスト云フニ在リ○然レトモ法律上禁制ナキ以上ハ如何ナル證據ト
 雖トモ裁判所ニ於テ隨意ニ之ヲ取捨スルヲ得ヘキモノニシテ而シテ盜難届書ノ如キハ則チ證
 據トスルヲ得ストノ規定ナキヲ以テ原院力之ヲ採用シタルハトテ不法ト云フヲ得ス但一私人
 ノ證明書及ヒ巡查ノ報告書ノ如キハ當院明治二十五年第一千三號ノ判決ニ依ルモ證據力ナキモ
 ノタル旨ヲ辯スルモ判決ノ旨趣ハ其後ノ判決ニ依リ既ニ變更スル所トナレリ同第七點ハ本件
 ハ檢事ノ起訴ナキモノナリ然ルニ直チニ公判ヲ開キタルハ不法ナリ尤モ一件記録中東京地方
 裁判所檢事澤野一兵ヨリ同裁判所ニ宛タル書面アリト雖トモ右ハ起訴狀ノ効力ヲ有スルモノ
 ニ非スト云フニ在リ○然レトモ起訴ニ付テハ法律上一定ノ書式アルニ非ス故ニ起訴ハ旨趣ヲ
 知り得ヘキ書面ニシテ且文書ニ要スヘキ條件ハ具備シタルモノハナルニ於テハ以テ起訴狀ノ効
 力ナキモノト謂フヲ得ス而シテ右ニ謂フ所ノ檢事ノ書面ハ常ニ使用スル所ノ起訴狀ノ用紙ニ
 シテ起訴ノ旨趣ヲ記載セルノミナラス引續キ檢事ヨリ被告事件ヲ陳述シタルコトハ該公判始
 末書ノ明示スル所ナリ故ニ本件ニ付テ適法ノ起訴ナキモノト謂フヲ得ス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス
 明治二十八年十月十一日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

○公證文書増減變換ノ件 明治二十八年第一〇七三號
 明治二十八年十月十一日宣旨

○判決要旨

詭計ヲ以テ地所抵當證書ニ登記ヲ受ケ登記官吏ノ朱書シタル登記濟ノ文字並
 ニ其押捺ニ係ル官印ノ要部ノミヲ存シ其他ノ部分ヲ除キ之ヲ利用シテ他紙ニ
 接綴シ地所金額ヲ記入シ恰モ登記完成ノ證書ノ如ク作成シタル所爲ハ公證文
 書偽造罪ナリトス

(參照) 公債證書地券其他官吏ノ公證シタル文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル
 者ハ輕懲役ニ處ス(刑法第二二四條第一項)
 第一審 德島地方裁判所 第二審 大阪控訴院
 被告人 大西音五郎

明治二十八年七月三十一日大阪控訴院ニ於テ右音五郎ニ對スル官吏ノ公證シタル文書増減變
 換罪ノ偽造

換被告事件ノ控訴ヲ審理シ原判決ヲ取消ス被告者五耶ヲ免訴ス押収ノ證書類ハ差出人ニ還付
 スト昔渡タル判決ヲ不當トシ原院檢察事長林誠一ハ上告ヲ爲シ本院檢察事ハ附帶上告ヲ爲シ被告
 者五耶ハ答辯書ヲ差出サス因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ檢事及辯護士ノ辯
 論ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

本院檢察事附帶上告趣意ハ原院力認メタル事實ニ依レハ本件ハ官吏ノ公證シタル文書ヲ偽造シ
 テ行使シタルモノニ該當スル犯罪ナルニ該文ヲ以テ私文書ト爲シ從テ公訴ノ時効ヲ經タルモ
 ノト爲シ免訴ノ旨渡シテ爲シタルハ不法ニシテ破毀ノ原由アルモノト云フニ在リ
 ○因テ案スル
 ニ原院文ニ示ス所ノ事實ハ被告ハ詐計ヲ以テ地所抵當證書ニ登記ヲ受ケ而シテ其前紙ヲ除キ
 未業登記官吏カ登記簿ト朱書シ官署ハ印ヲ押捺シアル部分ハ紙ヲ存シ之ニ他ハ紙ヲ綴込ミ以
 テ外地所及金額等ヲ記入シテ行使シタルモノナルヲ以テ其所爲ハ公證ハ文書ヲ偽造シ行使シ
 タル重罪罪ニ該當シ私文書偽造行使ハ輕罪罪ニアラサ何トナレハ右證書ハ其全部カ官吏ハ證
 明ニ因テ公證セラルハ公證文書ニシテ決シテ之ヲ分割スルヲ得ス即官吏カ文詞ヲ記載シタル
 部分ハ公證文書ニシテ他ハ私文書ナリト云フコトヲ得サルモノナリ然ルニ原院カ之ヲ分割
 シ被告ハ所爲ヲ以テ私文書偽造行使ハ輕罪罪ト爲シ從テ公訴時効ヲ經過シタルモノトシテ免
 訴ハ旨渡シテ爲シタルハ不當ニシテ原判決ハ破毀スヘキモノトス已ニ此點ニ付原判決全部破毀
 スヘキモノト認ムル上ハ他ハ說明ヲ要セス因テ刑事訴訟法第二百八十六條ニ從ヒ原判決全部
 破毀シ本件ヲ名古屋控訴院ニ移ス

明治二十八年十月十一日大審院第二刑事部公延ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

○詐欺取財ノ件

明治二十八年第八八八號
 明治二十八年十月十四日宣告

○判決要旨

幼者ノ智慮淺薄ナルニ乘シ欺罔ノ手段ヲ以テ財物ヲ授與セシメタル所爲ハ純
 然タル詐欺取財罪ニシテ刑法第三百九十條ニ依リ制裁スヘシ同法第三百九十
 一條ヲ以テ處斷スヘキモノニアラス

(參照) 人ヲ欺罔シ又ハ恐喝シテ財物若クハ證書類ヲ騙取シタル者ハ詐欺取財ノ罪ト爲
 シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス(刑法第三項)
 幼者ノ智慮淺薄又ハ人ノ精神錯亂シタルニ乘シテ其財物若クハ證書類ヲ授與セシメタ
 ル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス(刑法第三百九十一條)

第一審 東京地方裁判所 第二審 東京控訴院
 被告人 田中元次郎 辯護人 高木益太郎

幼者ニ對スル詐欺

右詐欺取財被告事件ノ控訴ニ付明治二十八年六月二十一日東京控訴院ニ於テ審理ノ末原判決申被告兩名ニ關スル部分ハ之ヲ取消ス被告元次郎ハルノ兩人ヲ各重禁錮四年罰金四十圓監視二年ニ處ス假下ケノ贓品ハ其儘假下ケ受人ニ其他ノ押収物ハ差出人ニ還付スト言渡シタル判決ニ對シ被告兩名ハ各上告ヲ爲シタリ大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理ヲ遂クル處

被告兩名カ上告趣意ノ要旨第一點ハ原判決理由ノ如キハ法律上詐欺取財ト云フヲ得ス然ルニ之ニ刑ヲ科シタルハ不法ナリト云フニ在リトモ○原判決ニハ被告等共謀ノ上被害者ヲ欺罔シ財物ヲ騙取シタル事實ヲ認メアリ故ニ此事實ニ對シ詐欺取財罪ノ刑ヲ科シタルハ相當ナリトス其第二點ハ原院ハ英次郎三郎等カ愚鈍ノ性質ナリトノ理由ヲ付セシモ一件書類中寸毫モ之ヲ徴スヘキモノナク且此點ニ關シテハ豫審公判トモ取調ヘシコトナシ然ルニ之ヲ犯罪ノ理由申ニ加ヘシハ不法ナリト云フニ在リテ○原院ノ職權ニ屬スル事實認定ノ批難ニ外ナラサルヲ以テ上告ノ理由ト爲スコトヲ得ス其第三點ハ原院ハ本件ニ必要ナル證人ノ請求ヲ一人モ許可セズ被告ニ不利ナル裁判ヲ爲シタルハ不法ナリト云フニ在リトモ○證人喚問ノ必要不必要ヲ判定シ其請求ヲ許可スルハ亦原院ノ職權ニ屬スルヲ以テ原院カ被告ノ請求ヲ許可セサルモ以テ上告ノ理由ト爲スコトヲ得ス其第四點ハ原院ハ其事實理由申幼者ナル英次郎三郎等ノ愚鈍ニ乘シ詐欺取財セリト說明セルニ拘ハラヌ刑法第三百九十一條ヲ適用セザリシハ不法ナリト云フニ在リトモ○該條ハ欺罔騙取ハ所爲ナキモ幼者ノ知慮淺薄ナルニ乘シ財物等ヲ授與セ

シメタル者ハ仍ホ詐欺取財トシテ論スルコトヲ規定シタルモハニシテ本件ハ如キ欺罔騙取ハ所爲アル場合ニ適用ス可キモノハニ非ス故ニ原院カ純然タル詐欺取財トシテ處斷シタルハ相當ニシテ毫モ不法ハ廉アルコトナシ

被告ハルカ上告趣意擴張ノ要旨第一點ハ三郎英次郎ヨリ反物ヲ安價ニ買入レタルコトアルモ半價ニテ買取リタルコトナシト云ヒ其第二點ハ安價ニ買入レ利ヲ得テ賣却セントスルハ商人ノ常態ニシテ不正ノ行爲ニ非スト云ヒ其第三點ハ十一月十一日英次郎ニ對シ反物代金ヲ支拂フト稱シ典座敷ヘ誘引シ強テ同袋ヲ勸メ云々トアルモ同日ハ當時三才ニナル男兒ノ祝日ニテ來客アリ其目前ニテ代金三百圓ヲ支拂ヒタル事實ナリト云ヒ其第四點ハ三郎英次郎ハ幼年ト云ヒナカラ高價ノ物品ヲ預リ相當ノ責任ヲ負ヒテ行商スルモノナラハ一婦人ノ爲メ容易ニ欺カルトモノニ非スト云フニ在リテ○要スルニ事實認定ヲ批難シ漫ニ苦情ヲ訴フルニ止マリ一モ上告適法ノ理由ト爲ラス

辯護士高木益太郎カ第一上告趣意辯明ノ要旨第一點ハ家城徳次郎ノ始末書ハ非現行犯事件ニ付千住警察署警部朝比奈之輩カ同人ヨリ徴収シタル文書ナルコトハ該文書ニ朝比奈警部ノ捺印アルト同警部ノ告發書及千住警察署ニ於ケル三浦三郎ニ對スル訊問調書ノ記事ニ依リ明ナリ而シテ右始末書ハ司法警察官ノ尋問ニ答辯シタルモノトセハ則チ越權ノ處分ニ基キタル無効ノ文書ト云フヘク若シ又捜査手續上之ヲ徴収シタルモノトセハ固ヨリ斷罪ノ證據トナスヘキ價值ナシ然ルニ原判決之ヲ有罪ノ證據ニ採用シタルハ違法ナリト云フニ在リトモ○訴訟記

録ヲ査閱スルニ右始末書ハ警部ニ於テ之ヲ徴収シタル事蹟ノ見ル可キモノナク又其訊問ニ對
 スル答辯ヲ記載シタルモノト見ル可キ點ナシ而シテ該書初葉ノ欄外ニ朝比奈ノ認印ヲ押捺シ
 アルハ其受附及ヒ檢閱濟ヲ證スルニ過キス左レハ原院カ之ヲ採テ斷罪ノ資料ニ供シタルハ相
 當ナリトス其第二點ハ田中ハツニ對スル檢事ノ起訴狀ヲ見ルニ田中ハツハ原判決第二項三浦
 三郎ニ關スル事件ニ付同人ト共ニ訴追セラレタルノミニシテ原判決第一項篠原英次郎ニ關ス
 ル事件ニ付テハ曾テ訴追セラレタルコトナシ然ルニ第一審第二審共檢事ノ起訴ナキ事件ニ付
 有罪ノ判定ヲ與ヘラレタルハ違法ナリト云フニ在リ○因テ訴訟記録ヲ査閱スルニ原判決第一
 項ニ記載シタル事件ニ付テハ明治二十七年十二月十二日田中元次郎篠原英次郎ハ兩名ニ對シ
 檢事ヨリ豫審ヲ請求シタルモ同時若クハ其前後ニ於テ被告ハルニ對シ起訴シタル事項ハ見ル
 可キモノナシ尤モ同月同日附田中元次郎三浦三郎及ヒ被告ハルニ對スル豫審請求書アルモ此
 ハ是レ原判決第二項ニ記載シタル事件ニ關スルモノニシテ即チ別箇ノ事件ニ屬ス左レハ原判
 決第一項ニ記載シタル事件ニ付テハ被告ハルニ對シ成規ノ起訴ナキヲ以テ公訴不受理ノ言渡
 ヲ爲ス可キニ原判決コトニ出テサリシハ不法ニシテ此論旨ハ其理由アリトス其第三點ハ原院
 ハ二罪俱發ノ場合ニ付一々其刑期ヲ指定セス輒ク第二ノ被告事件ヲ以テ犯情重キモノト認メ
 タルハ不法ナリト云フニ在レトモ○其俱發シタル各罪ニ付一々刑期ヲ定ム可シトノ法規ナク
 附シテ法律ハ犯情ノ輕重ヲ裁判官ノ判定ニ一任シタルヲ以テ此論旨ハ上告ノ理由ト爲ラス
 同辯護士カ第二上告趣意辯明ノ要旨ハ篠原英次郎ノ豫審調査ハ原判決第一ノ詐欺取財事件ニ

關スル訊問調査ニシテ同第二ノ詐欺取財事件ニ關係アルコトナシ又家城徳次郎ノ始末書ハ第
 二ノ詐欺取財事件ニ關係スルモノニシテ第一ノ詐欺取財事件ニ關係アルコトナシ然ルニ原院
 ハ第一第二ノ被告事件ニ共通ノ書證トシテ之ヲ採用シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○辯
 護士所論ノ如ク一ハ第一ノ詐欺取財事件ニ關スル證憑ニシテ一ハ第二ノ詐欺取財事件ニ關ス
 ル證憑タルコト記録ニ徴シ明瞭ナリ原判決ハ之ヲ分別シテ記載セサリシニ過キサルノミ故ニ
 此論旨モ相立タス
 右ノ理由ナルヲ以テ被告元次郎ノ上告ハ刑事訴訟法第二百八十五條ニ則リ之ヲ棄却シ被告ハ
 ルノ上告ニ付テハ同法第二百八十六條第二百八十七條ニ則リ同人ニ關スル原判決ノ部分ヲ破
 毀シ本院ニ於テ直チニ判決スルコト左ノ如シ

右

田 中 ハ ル

原判決第一ノ詐欺取財事件ニ關スル公訴ハ之ヲ受理セス其第二ノ詐欺取財事件ニ付テハ原判
 決ノ認メタル事實ニ依リ刑法第三百九十條第一項第三百九十四條第百四條ヲ適用シ被告ヲ重
 禁錮四年罰金四十圓監視二年ニ處ス餘ハ原判決ノ通
 明治二十八年十月十四日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○毆打創傷家屋毀壞及偽證等ノ件

明治二十八年第一〇一九號
明治二十八年十月十四日宣告

○判決要旨

虛無ノ豫審調書ヲ斷罪ノ證據ニ供シタル裁判ハ不法ナリ

第一審 前橋地方裁判所高崎支部

第二審 東京控訴院

被告人

春山茂十郎 小林龜吉
神保清三郎 生田宗藏
神保清三郎 生田與作

辯護人

白石眞平
角田眞行
有泉義行

右茂十郎龜吉毆打創傷家屋毀壞及ヒ家宅侵入被告事件及ヒ三二以下四名偽證被告事件ニ付明治二十八年七月二十六日東京控訴院ニ於テ前橋地方裁判所高崎支部ノ判決ニ對スル檢察及ヒ被告龜吉以下五名ノ控訴ヲ審理ノ末原判決中茂十郎龜吉ニ對スル部分ヲ取消シ被告茂十郎龜吉ヲ各重禁錮四年ニ處ス被告三二以下四名ノ控訴ハ之レヲ棄却ス公訴裁判費用ノ内生駒龍太郎林陣禮土谷金次カ村山菊造ノ創傷ニ付テ爲シタル鑑定ノ費用及ヒ山根正次カ村山菊造ノ創傷ニ付テ爲シタル鑑定ノ費用ハ共ニ被告茂十郎龜吉ノ兩人連帶負擔シ證人安井榮吉カ明治三十七年六月二十日付ヲ以テ請求シタル旅費日當ハ被告茂十郎龜吉藤七ノ三名ニ於テ連帶負擔ス可シト旨渡シタル第二審判決ヲ不法トシ各被告ヨリ上告ヲ爲シ以テ原判決ノ破毀ヲ要求セリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ以テ審判スルコト左ノ如シ

上告人春山茂十郎辯護士白石剛上告趣意擴張ノ要旨ハ原判決文證據列舉ノ中段ニ被告龜吉同藤七同金次郎同西首同兼首同茂十郎同音次郎同万次郎ノ各豫審調書(中略)ニ徴シ其證據十分ナリトアリ然ルニ一件記錄中上告人茂十郎ニ對スル豫審調書アルヲ觀ス又茂十郎カ豫審ノ調書受ケタル形跡アルコトナシ故ニ原院カ無キモノヲ以テ有トシ而カモ證據十分ナリト判決セリレタルハ不法タルヲ免カレスト云ヒ上告人春山茂十郎外五各辯護士角田眞平有泉義行上告趣意擴張ノ第四點ノ要旨ハ原判決文中證據列舉ノ部ニ小林龜吉ノ豫審調書證據トナセトモ一件記錄中ニ曾テ小林龜吉ニ對スル豫審調書アルヲ見ス又龜吉ハ豫審ヲ受ケタルコトナシ然ルニ原院カ無キ證據ヲ有ル如クニ掲ケ證據十分ナリト判決シタルハ不法ナリト云ヒ其第五點ノ要旨ハ春山茂十郎小林龜吉ノ豫審調書ナキヲ有トシテ證據ニ採用シタルハ總テノ被告ニ對シ證據トセシモノニ付各被告ノ上告ハ何レモ相當ノ理由アリト云フニ在リ

○因テ本案訴訟記錄ヲ查スルニ上告論旨ハ如ク春山茂十郎ハ勿論小林龜吉ハ被告トシテ豫審ハ訊問ヲ受ケタル形跡ナカ從テ其豫審調書アルコトナシ然ルニ原判決文證據列記ノ所ニ被告春山茂十郎小林龜吉ノ豫審調書ヲ掲記シテ是其上告論旨ハ如ク原院ニ於テ無キ所ハ證據ヲ有ルモノトシテ各被告ハ犯罪ヲ斷定シタルハ違法ハ裁判ナリ既ニ此點ヲ以テ前掲ノ原判決ヲ破毀スヘキモノタルヲ以テ他ノ上告點ニ對シ逐一之レカ說明ヲ爲サス仍テ刑事訴訟法第二百八十六條ニ照シ原判決ヲ破毀シ更ニ適法ノ審判ヲ受ケシムル爲メ之ヲ宮城控訴院ニ移送ス

明治二十八年十月十四日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢察岩野新平立會宣告ス

○恐喝取財ノ件

明治二十八年第一〇二一號
明治二十八年十月十四日宣告

○判決要旨

被告人トシテ公訴ヲ提起セラレサル以前ニ於テ證人トシテ訊問セラレタルコトアルトキハ其調書ハ證人調書トシテ効力ヲ有ス

第一審 前橋地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 設樂丑太郎 辯護人 高木益太郎
森岡近吉 長岡近吉

右被告三名カ恐喝取財事件ニ付明治二十八年七月三十日東京控訴院ニ於テ被告等ノ控訴ヲ審理シタル末前橋地方裁判所カ被告丑太郎文作ヲ各重禁錮一年八月罰金十五圓監視六月ニ被告近吉ヲ重禁錮十月罰金七圓監視六月ニ處シ公訴費用ハ各被告人ニ自己ノ犯罪ニ關スル部分ヲ負擔セシメ押収ニ係ル書面ハ差出人ニ還付スヘキモノトスト言渡シタル判決ノ相當ニシテ被告等ノ控訴ハ其理由ナキニ付之ヲ棄却スト言渡シタル判決ニ對シ被告三名ハ上告ヲ爲シタル大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ
被告丑太郎ノ上告趣旨ハ原院ニ於テ被告カ毆打セラレタル事實ヲ理由トシテ鹽野啓藏等ヲ恐喝シ財物ヲ騙取シタルモノト認定シタルトモ刑法第三百九十條ハ無根ノ事實ヲ以テ人ヲ恐怖

セシメ財物ヲ騙取シタル場合ヲ規定シタルモノナルコトハ其草案ニ無根ノ事實ヲ以テ人ヲ畏怖セシメ云々トアルニ照シテ明ナリ故ニ前掲ノ如ク實際ノ事實ヲ以テ人ヲ畏怖セシメタルモノ、如キハ同條ニ該當セス原判決ハ不法ナリト云フニ在レトモ○刑法第三百九十條第一項ニ規定スル恐喝騙取ノ罪ハ必スシモ無實ノ事ヲ以テ人ヲ恐喝シタル場合ノミニ限ラス信實ノ事ヲ以テ人ヲ恐喝シタル場合ニ於テモ猶ホ其罪ヲ成立スルコトアリ故ニ原院ノ認メタル被告等ノ所爲ノ如キハ恐喝騙取ノ罪ヲ成立スルコト固ヨリ論ヲ俟タサレハ同條第一項ヲ適用シテ處斷シタルハ相當ノ判決ナリトス

同擴張論旨第一點ハ現ニ供述ヲ爲ス可キ事件ニ付テハ假令免訴ノ言渡ヲ受ケタル者ト雖モ證人ノ資格ナキコトハ刑事訴訟法第二百二十四條ニ規定スル所ノ如シ故ニ共犯トシテ取調ヲ受ケ有罪ノ判決ヲ受ケタル者ノ供述ハ證言トシテ採ル可カラサルヲ固ヨリ論ヲ俟タス然ルニ原院ハ本件ノ共犯タル奈良元吉ノ豫審ニ於ケル供述ヲ證言ノ効アルモノトシテ斷罪ノ資料ニ供シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○訴訟記録ヲ査閱スルニ明治二十七年十一月十六日豫審ニ於テ奈良元吉カ證人トシテ訊問シタル末豫審判事ハ同人カ本件ハ共犯ト思料シタルヨリ即日豫審ニ告發シ檢事ハ其告發ニ因リ同日直チニ元吉ニ對スル豫審ヲ請求シタル事跡ハ即チ豫審判事、中村菊之助ハ告發書檢事向非殿ハ豫審請求書及ヒ元吉ハ證人調書ニ徴シテ明白ナリ然ラハ則チ豫審ニ於テ元吉カ證人トシテ訊問シタルハ未タ檢事カ同人カ本件ハ共犯トシテ起訴ヲ爲シタル以前ニ係ルヲ以テ固ヨリ刑事訴訟法第二百二十四條第五又ハ第六ニ該當セサル者ナリ

ハ法律上證人ノ資格ヲ有セシコト勿論ナリトス故ニ原院カ同人ノ資格ヲ以テ認罪ノ資料ニ供
シタルハ決シテ不法ニアラサルナリ

同第二點ハ奈良元吉ハ本件ノ共犯トシテ有罪ノ言渡ヲ受ケタルニモ拘ラス原院ハ同人カ豫審
ニ於テ證人トシテ呼出サレタル費用ヲ被告外三名ニ負擔セシメタルハ不法ナリト云フニ在レ
トモ○元吉ハ豫審ニ於テ證人トシテ呼出サレタル上ハ乃チ其費用ヲ請求シ得可キ權利アル者
ナレハ其後ニ至リ本件ノ共犯トシテ被告トナリ有罪ノ判決ヲ受ケルモ之カ爲メ右權利ノ消滅
ス可キ理由アラサルニ付同人カ證人トナリタル費用ヲ被告外三名ノ負擔ス可キモノト爲シタ
ルハ是亦不法ニアラス

被告文作ノ上告趣旨第一點ハ證人鹽野米吉ハ被害者鹽野啓藏ノ實弟ナルニ付證人ノ資格ナキ
者ナルニ原院カ證言ノ効アルモノトシテ同人ノ豫審調書ヲ採テ以テ斷罪ノ資料ニ供シタルハ
不法ナリト云フニ在レトモ○被害者ノ親屬ハ法律上證人ノ資格アルコト勿論ナレハ原院ニ於
テ證人鹽野米吉ノ豫審調書ヲ採テ以テ斷罪ノ資料ニ供シタルハ決シテ不法ニアラサルナリ

同第二點ハ後藤傳久郎ハ本件ノ告訴人ナルニ同人ヲ證人ト爲シ且其費用ヲ被告等ニ負擔ス可
シト言渡シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○假ニ右論旨ノ如ク後藤傳久郎ハ本件ノ告訴人
ト爲スモ告訴人ハ法律上證人ノ資格アル者ナレハ原院カ之ヲ證人トシテ其豫審調書ヲ證據ニ
採用シタルハ固ヨリ當然ナリ己ニ同人カ證人トナリタル上ハ其費用ヲ被告等ニ於テ負擔ス可
シト言渡シタルハ是亦相當ナリトス

同第三點ハ前掲被告丑太郎ノ擴張論旨第一點及ヒ第二點ト同一論旨ナレハ右丑太郎ノ擴張論
旨ニ對スル説明ニ依テ之ヲ了解ス可シ

同第四點ハ原院文第三(第一ノ誤)ノ所爲中丑太郎ハ傳久郎ニ對シ一ヶ月ノ中ニ八月夜モアレハ
闇夜モアリ氣ヲ付ケヨト申威シ云々トアリテ其冒頭ニ丑太郎文作濱吉茂市ノ四名ヲ共謀者ト
シ列記シタルモ被告カ其場ニ出テ恐喝シタルノ罪跡ナキノミナラス判文自ラモ被告カ行害シ
タル罪跡ノ理由ヲ説明セサルヲ以テ之ヲ觀ルモ被告ノ關係ナキコト明ナリ又假ニ一歩ヲ讓リ
被告ニ關係アリトスレハ其理由ヲ明示セサル可カラスト云フニ在レトモ○原院文ヲ查閱スル
ニ被告丑太郎文作ハ第一審ノ相被告タリシ佐田濱吉木村茂市ト相共ニ謀リ明治二十七年九月
十八日先ツ丑太郎文作濱吉ノ三名ハ云々後藤傳久郎方ニ至リ同人ニ對シ去ル八月二十日夜鹽
野啓藏ト徒黨シ丑太郎ヲ毆打シタルコトアラント云ヒ掛ケ傳久郎ハ左ルコトナシト答フルヤ
然ラハ我々ト共ニ來ルヘシト告ケ傳久郎ヲ連レ出シ途中茂市ハ之ニ加ハリ共ニ同村同大字飲
食店萩原登喜次方ニ到リ云々トアリテ被告文作モ亦現場ニ在テ犯罪ノ實行ニ加功シタルノ事
實明白ナレハ理由ヲ明示セスト云フコトヲ得ス

同第五點ハ原院文第五(第二ノ誤)ノ所爲中被告人近吉ハ啓藏ニ對シ文作ナル者ハ壯士ヲ爲シ又
ハ三百代言ヲ働ク恐ロシキ人物ナル故金錢ヲ與ヘテ仲直リスル方然ルヘシトアリテ近吉カ啓
藏ヲ恐喝シタルモノ、如ク説明シタリ然ルニ其前段ニ被告丑太郎文作茂市元吉近吉ノ五名共
謀シテ恐喝ヲ爲シタルモノ、如ク説明シタルハ前後ノ理由矛盾セリ又假ニ一歩ヲ讓リ被告文

作ハ被告近吉ノ言ノ如ク恐ロシキ人物ナリトスルモ啓職ハ斯ノ如キ言辭又ハ舉動ヲ以テ恐怖
 スルカ如キ人物ニアラサルニ被告近吉ノ言ヲ以テ被告文作モ亦共謀ノ如ク認定シタルハ架空
 ノ認定ナリ而シテ被告文作カ所爲ノ如何ヲ其理由中ニ明示セスト云フニ在レトモ○原判文ヲ
 査閱スルニ被告近吉カ啓職ニ對シ文作ナル者ハ壯士ヲ爲シ又ハ三百代言ヲ働ク恐ロシキ人物
 ナル故金錢ヲ與ヘテ仲直リスル方然ルヘシト説キ伏セタルハ即チ共犯者中分身一體ノ行爲ナ
 レハ被告等カ共謀シテ恐喝ヲ爲シタルモノト認メタルハ決シテ前後ノ理由齟齬スルモノニア
 ラス故ニ此前提ノ論旨ハ固ヨリ探ルニ足ラス又被告近吉ノ言ヲ以テ被告文作ヲ共謀ノ如ク認
 定シタルハ架空ノ認定ナリト論スルハ事實ノ認定ヲ非難スルニ外ナラス而シテ原判文第二ノ
 事實ニ付テモ亦被告文作ハ被告丑太郎等ト相謀リ共ニ啓職ヲ恐喝シテ金七圓ヲ騙取シタルコ
 トハ一讀瞭然タレハ理由ヲ明示セスト云フコトヲ得サルナリ

同擴張論旨ハ原判文第四ノ所爲ニ對スル理由中近吉ヲ他人ニ入レヨ云々トアレトモ其意義ヲ
 解スルコト能ハス云々又誤記シタルモノトセハ式ニ從テ訂正ノ手續ヲ爲サ、ルハ不法ナリト
 云フニ在レトモ○他人ニ入レヨトアルハ即チ仲裁人ニ立ツルトノ意義ナルコトハ原判文ニ近
 吉ヲ他人ニ入レヨト云ヒ以テ近吉ニ仲裁ヲ依頼セシメ云々トアルニ徴シテ明ナレハ此論旨モ
 亦探ルニ足ラサルモノトス

被告近吉ノ上告趣旨ハ原院ハ本件公判ノ起頭ニ於テ檢事ヨリ被告事件ノ陳述ヲ聽カサリシニ
 モ拘ラス直チニ被告人ヲ訊問シ有罪ノ判決ヲ下シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○上訴ノ

場合ニ於テハ上訴ヲ爲シタル者ヨリ先ツ其趣旨ヲ陳述ス可キコトハ自然ノ順序ニシテ即チ第
 一審ニ於テ起訴者タル檢事ヨリ先ツ被告事件ヲ陳述スルト其理一ナリ故ニ刑事訴訟法第二百
 十八條第二項ノ規定ハ上訴ノ場合ニ適用ス可キモノニアラスト解スルチ當然ナリトス因テ原
 院ニ於テ檢事ノ被告事件ノ陳述ヲ聽カサリシハ不法ニアラサルナリ

辯護士高木益太郎ノ辯明論旨第一點ハ被告丑太郎ノ擴張論旨第一點ト同一ナルニ付右ニ對ス
 ル説明ニ依テ了解ス可シ

同第二點ハ第一審判決證據列記ノ部ニ押収ノ書面四通トアリテ如何ナル書面ヲ有罪ノ證據ニ
 供シタルヤチ明確ニ判示セサルハ違法ナリ殊ニ本件記錄ヲ調査スルニ押収ノ書面ハ三通ニシ
 テ四通ニアラス即チ第一審ハ架空ノ證據ヲ斷案ノ資料ト爲シタル不法アルニ原院カ第一審判
 決ヲ認可シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○第一審判文ニ押収ノ書面四通トアルハ即チ第
 一審公廷ニ於テ取調ヘタル四通ノ書面ヲ指シタルコトヲ知ルチ得可キニ付如何ナル書面ナル
 コトヲ示サ、ルモ不法ナリト爲スコトヲ得ヌ又押収書ニ徴スルニ押収ノ書面ハ三通ニ止マラ
 サルコト明白ナレハ第一審ニ於テ四通ノ押収書面ヲ斷案ノ資料ニ供シタルハ決シテ架空ノモ
 ノヲ探リタルニ非ス故ニ原院カ第一審判決ヲ認可シタルハ不法ニアラサルナリ

同第三點ハ被告丑太郎ノ擴張論旨第二點ト同一ナレハ右ニ對スル説明ニ依テ之ヲ了解ス可シ
 右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本案ノ上告ハ之ヲ棄却ス

明治二十八年十月十四日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事安居修藏立會宣告ス

○私印盗用私書偽造行使等ノ件

明治二十八年第一〇六〇號
明治二十八年十月十四日宣告

○判決要旨

事實上ノ理由ニ於テ第一審及第二審ノ判決互ニ精疎詳畧ノ別アルモ犯罪ノ構成ニ影響ナキ以上ハ之ヲ取消シ更ニ判決スルノ要ナシ(判旨第三點)
檢事ノ意見ハ裁判所ヲ拘束セス(判旨第六點)
詐欺取財ヲ犯スニ因テ文書ヲ偽造シタル者ニシテ親屬ノ關係ヲ有スルトキハ詐欺取財ノ所爲ハ刑法第三百九十八條ニ則リ不論罪トナルヘキモ文書偽造ノ所爲ハ各本條ニ照シ處斷セラルヘキモノトス(判旨第十點)

(參照) 此節ニ記載シタル罪(詐欺取財ノ罪及ヒ受寄財物ニ關スル罪)ヲ犯シタル者第三百七十七條ニ掲ゲタル親屬ニ係ルトキハ其罪ヲ論セス(刑法第三百九十九條)
入テ欺罔シ又ハ恐喝シテ財物若クハ證書類ヲ騙取シタル者ハ詐欺取財ノ罪ト爲シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス(因テ官私ノ文書ヲ偽

造シ又ハ増減變換シタル者ハ偽造ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス(刑法第十三條)
第一審 宇都宮地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 大平西之助 辯護人 角田眞平
久貝儀次
高木益太郎

右私印盗用私書偽造行使被告事件ニ付明治二十八年八月十日東京控訴院ニ於テ被告兩名ノ控訴并ニ被告西之助ニ對スル判決ニ付原院檢事ノ付帶控訴ヲ審理ノ末第一審裁判所カ被告伊之助ヲ重禁錮八月罰金十圓監視六月ニ處シタル判決ハ相當ト認メ伊之助ノ控訴ヲ棄却シ被告西之助ニ關スル第一審判決ニ付キ檢事ノ附帶控訴ヲ理由アルモノトシ之ヲ取消シ更ニ西之助ヲ重禁錮二年罰金二十圓監視六月ニ處シ被告ノ控訴ハ理由ナシトシテ棄却シ又民事原告人大平善八ノ私訴控訴ニ付テハ其控訴ヲ理由アルモノトシ第一審判決ヲ取消シ更ニ被控訴人大平西之助ハ下野國那須郡那須村大字寺子乙組字東谷地二千五百四十八番地山林五町九反九畝十二歩ノ所有名義ヲ取消シ該山林地ヲ控訴人ニ返還スヘシト言渡シタリ右公訴ノ判決ニ對シテハ被告伊之助ヨリ公私訴ノ判決ニ對シテハ被告西之助ヨリ各上告ヲ爲シ原判決ノ破毀ヲ要求シ原院檢事長野村維章ハ附帶上告申立并ニ趣意書ヲ差出シタリ
大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ
被告西之助上告趣意書ノ第一ハ原判決法律理由ノ部ニ於テ共犯ニ關スル法條ヲ適用セサルハ法律ノ理由ヲ付セサル不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ○判決事實ノ部ニ於テ共犯タルノ事理由ノ精疎○檢事ノ意見○親屬間ニ於テ詐欺取財ヲ犯スニ因テ文書ヲ偽造シタル所爲

實ヲ認メ而シテ犯罪ノ事實ニ相當スル各法條ヲ適用シアレハ總則ニ掲ケアル共犯ニ關スル法條即チ刑法第四百條ヲ適用セザリシトテ不法ノ判決ト云フヲ得ス

被告西之助辯護士角田眞平久員義次ノ上告擴張書ノ第一ハ原判決ニ於テ被告ヲ私印盗用私書偽造罪ノ中一ノ重キ私印盗用ノ罪ニ從ヒ處斷セラレタレトモ各罪ニ刑ノ適用ヲ示サ、ルハ法律ノ理由ヲ具ヘサル判決ナリト云フニ在レ也○各罪ニ付刑ヲ適用スヘシトノ法定アルニアラサレハ之ヲ適用セザリシモ理由不備ノ裁判ト云フヲ得ス○第二ハ原判ハ第一審判決ト其事實ノ理由ト斷罪ノ證據トヲ變更シタルニ拘ハラズ原判決ヲ相當ト認メ被告ノ控訴ヲ棄却シタルハ不法ノ判決ナリ而シテ其事實理由ノ變更トハ第一審判決ハ被告兩名ハ云々騙取センコトヲ共謀シトノミアルニ原判決ハ其前段ニ於テ被告西之助ハ伊之助ヲ教唆シ云々トノ理由ヲ認メ又第一審判決ハ私印盗用私書偽造ノ實行者ハ被告西之助一己ノ所爲トナシタルニ原判決ニ於テハ明ラカニ西之助伊之助兩名ヲ以テ實行者ト認定シタルト云ヒ第三ハ第一審判決ニ於テハ大隨宇吉ノ干係及ヒ其後西之助ニ登記ヲ經タル事實ノ記載ナキニ原判決ハ明白ニ之ヲ記載シ第一審判決ノ不備ヲ補正シタリト云ヒ第四ハ第一審裁判所ハ大平忠八ノ公庭ノ供述ヲ斷罪ノ證據ニ採用シタルニ原判ハ之ヲ排斥シテ採用セスト云フニ在リ○依テ第二第三ノ論旨ニ基キ第一審ト第二審トノ判決ヲ對照スルニ第一審判文ニ於テハ被告兩名ニ於テ證據ヲ偽造シテ云々共謀シト記シ其以下ニ至リ至要ハ事實ハミチ叙述シ第二審判文ニ於テハ犯罪ハ起因ハ事實ヨリ事後ハ所爲ニ至ルハミチ叙述シ其事實ヲ叙述シアリテ彼此ハ判決事實ノ理由ニ精練ハ別アル

判旨第三點

要スルニ犯罪構成上ニ依テ此ハ犯罪ニ異同アルニアラハ論旨ハ被告ノ控訴ノ理由ナキモハト認メ棄却ハ判決ヲ爲シタルハ相當ナリトス又第二第四ノ論旨ヲ按スルニ證據ノ取捨ハ各承審官ノ權内ニ關スルモノナレハ第一審ノ採用シタル證據ニシテ法律上無効ノモノタラサル上ハ原院ニ於テ第一審力採用シタル證據ヲ排斥セシトテ爲メニ第一審判決ヲ取消スヘキモノニアラス故ニ原院カ被告ノ控訴ヲ理由ナシトシ棄却セシハ是亦相當ノコトナリトス

被告西之助私訴上告趣旨ハ私訴判決ニ對シテハ公訴ニ對スル上告理由ノ如ク公訴判決ノ破毀ト同一ニ私訴判決ヲ破毀セラルヘキ筋合ナリト云フニ在レトモ○右論旨ハ私訴判決自體ニ對スル上告趣旨ニアラスシテ公訴判決ノ破毀ト共ニ私訴判決モ破毀セラルヘキモノト云フニ過キサルナリ然ルニ公訴ノ上告ハ前掲説明スル如ク一モ適法ノ理由ナクレハ從テ私訴判決ニ對スル上告モ理由ナキモノニ歸ス

被告伊之助上告趣旨ノ要ハ原院ハ本件公判ノ起頭ニ於テ檢事ヨリ被告事件ノ演述ヲ聽カサリシニモ拘ハラズ直サニ被告人ヲ訊問シテ有罪ノ裁判ナラシタルハ不法ナリ何トナレハ刑事訴訟法第二百五十八條ニ依リ控訴ノ裁判ニ付テハ渾テ地方裁判所ノ第一審ニ關スル規則ヲ適用スヘキモノナレハ被告人ノ控訴ヲ審理スル場合ニ於テモ刑事訴訟法第二百五十八條ニ則リ檢事先ツ被告事件ヲ演述シ然ル後被告人ヲシテ演述ナサシメサル可カラスト云フニ在レトモ○被告入ヨリ控訴ノ申立ヲ爲シタル場合ハ控訴者タル被告人ヨリ控訴ノ理由ヲ申立ルハ審理上當然ノ手續ニシテ又斯クセサルヲ得サル事柄ナリトス故ニ刑事訴訟法第二百五十八條ノ規定ハ理由ノ精練○檢事ノ意見○親屬間ニ於テ詐欺取財ヲ犯スニ因テ文書ヲ偽造シタル所爲

理由ノ精確○檢事ノ意見○親屬間ニ於テ詐欺取財ヲ犯スニ因テ文書ヲ偽造シタル所爲

判旨第六點

控訴院ノ審理手續ニシテ第一審ノ審理手續ト抵觸セサルモノニ付テ第一審ニ關スル規定ヲ適用スヘシトノ律意ト解釋セサルヲ得ス依テ檢事カ先キニ被告事件ヲ陳述セサルヲ以テ違法ノ審理ト云フヲ得ス其ニハ原院ニ於テ檢事ヨリ有罪ノ論告ヲ爲サルニモ不拘被告ニ對シ控訴ノ棄却ノ判決ヲ下シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○裁判所ハ檢事ノ意見ニ拘束セザルハモハニハラサレハ右論旨ハ附ハカキハ上告ナリトス
被告伊之助辯護士高木益太郎上告趣旨擴張書ノ第一ハ第一審判決ニ於テ本件犯罪ノ所爲ハ西之助一人ノ所爲ナルヲ認メ乍ラ被告伊之助ヲ實行正犯トシテ罰シタルハ違法ナルニ原院ハ此判決ニ對スル被告ノ控訴ヲ棄却セシハ不法ナリト云フニアレトモ○第一審判決ニ於テ被告兩名共謀シタル事實ヲ認メ尙伊之助ハ善八ノ實印ヲ取出シタルヲ認メアルハ正犯トシテ處斷シタルハ違法ニアラス故ニ原院カ被告ノ控訴ヲ棄却セシハ不法ノ判決ト云フヲ得ス第二ノ要ハ第一審ト第二審トハ事實ノ認定ヲ異ニシタルニ第一審判決ヲ認可シ被告ノ控訴ヲ棄却シタルハ不法ナリト云フニ歸着スレトモ○被告西之助辯護士ノ上告擴張書第一第二ニ對スル說明ニ依リテ解スヘシ但シ第二ノ論旨中第二審判決ニ於テ伊之助カ西之助ノ助力ヲ加功シタル事實ヲ舉示シタルヲ以テ見レハ該判決ハ伊之助ニ不利ナル事實ヲ斷定シタルモノニシテ法律ノ許サレル處ナリトノ點アレトモ第一審判決ニ於テ被告兩名ノ共謀タルヲ認メアルノミナラス伊之助カ善八ノ實印ヲ取出シ云々ノ事實ヲ認メアルハ加功ノ事實ニ疏密ノ別アルモ犯罪構成上ニ影響ヲ及ボサレハ之ヲ以テ不利ナル事實ニ變更シタルモノト云フヲ得ス第三ハ

判旨第十點

第一審判決法律適用ノ部ニ私印盜用ノ所爲ニ就テハ刑法第二百八條第二項ノミヲ掲ケ第一項ヲ明示セス而シテ原判決ハ此刑典ヲ補正シナカラ第一審判決ヲ認可シ被告ノ控訴ヲ排斥セシハ不法ナリト云フニアレトモ○刑法第二百八條第二項ノミヲ適用シ第一項ヲ適用セサルモ其刑期ハ第一項ヲ對照シ知ルヲ得ヘケレハ第一項ヲ適用シアラサルモ不法ノ判決ニアラス故ニ原院カ此點ヲ訂正シナカラ第一審判決ヲ認可セシトテ背法ノ判決ト云フヲ得ス
檢事長附帶上告ノ要旨ハ刑法第三百九十八條ニ依レハ文書ノ偽造變造ヲ爲スト雖トモ其目的詐欺取財ヲ爲スニアレトキハ同條ニ從ヒ無罪ト爲スヘキハ當然ナリトス既ニ然レハ單ニ文書偽造罪ノミヲ犯シタル場合ニ於テモ亦均ク無罪ト爲サレ可カラス何トナレハ彼此ノ犯罪其性質ニ於テ毫モ區別スル所ナケレハナリ今ヤ本件ノ事實ハ親子間ノ文書偽造罪ナレハ宜シク刑法第三百九十八條ニ依リ無罪ノ言渡シヲ爲スヘキニ原判決爰ニ出テサルハ法律ノ見解ヲ誤リタル疑律ノ錯誤ナリト云フニアレトモ○刑法第三編第二章第五節ハ詐欺取財ノ罪及ヒ受寄財物ニ關スル罪ヲ掲ケタルモノニシテ同法第三百九十八條ニ此節ニ記載シタル罪トハ即チ以上ノ二罪ヲ指シタルモノニシテ同法第三百九十九條第二項ニ處斷方法ヲ規定シタル官私文書ハ偽造者カハ變造罪ヲ包含シタルモノニアラサルコトハ言ヲ啖カサルナリ故ニ原院ニ於テ本件文書偽造ノ所爲ヲ各本條ニ照シ被告伊之助カ處斷シタルハ相當ニシテ上告論旨ノ如ク疑律錯誤ノ判決ニアラス
右ノ理由ニ付刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件被告ノ上告并ニ檢事ノ附帶上告ハ共ニ之

理由ノ精確○檢事ノ意見○親屬間ニ於テ詐欺取財ヲ犯スニ因テ文書ヲ偽造シタル所

明治二十八年十月十四日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事安居修藏立會宣告ス

○私印盜用私書偽造行使ノ件

明治二十八年第一〇九九號
明治二十八年十月十四日宣告

○判決要旨

檢事ノ附帶控訴ニ對シ判決ヲ與ヘサルハ請求ヲ受ケタル事件ニ付判決ヲ爲サ
ル不法アルモノトス

(參照) 裁判ハ左ノ場合ニ於テ常ニ法律ニ違背シタルモノトス(刑事訴訟法第
二百六十九條)

檢裁判所ニ於テ請求ヲ受ケタル事件ニ付判決ヲ爲サス又ハ職權ヲ以テ判決スルヲ得
ヘキ場合ヲ除ク外請求ヲ受ケサル事件ニ付判決ヲ爲シタルトキ(同法同條)

第一審 靜岡地方裁判所沼津支部 第二審 東京控訴院
被告人 村上龜太郎 辯護人 信岡雄四郎

右私印盜用私書偽造行使被告事件ニ付明治二十八年八月二十九日東京控訴院ニ於テ被告ノ控

訴ヲ審理ノ末第一審判決ヲ取消シ更ニ被告ヲ重禁錮四月十五日罰金四圓監視六月ニ付スト旨
渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ定期内上告申立ヲ爲シ其趣意書ヲ差出シ原判決ノ破毀ヲ要求シ
原院檢事ハ答辯書ヲ差出サス

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ審理スルコト左ノ如シ

辯護士信岡雄四郎上告趣旨擴張書ノ第八ハ第一審裁判所檢事ハ明治二十八年六月二十八日付
ヲ以テ附帶控訴ヲ爲ス旨ノ申立書ヲ提出シ第二審ノ立會檢事ハ之ヲ取下クル旨ノ申立ヲ爲シ
タルコトナケレハ該附帶控訴ハ依然成立セルモノト云ハサルヘカラス然ルニ原院カ此點ニ付
何等ノ判決ヲモ與ヘラレサルハ請求ヲ受ケタル事項ヲ裁判セサルノ違法アリト信スト云フニ
在リ○依テ訴訟記録ヲ查閱スルニ明治二十八年六月二十八日付ヲ以テ靜岡地方裁判所沼津支
部檢事三俣秀彦カ附帶控訴ノ申立ヲ爲シタルコトハ辯護士所論ノ如シ然ルニ原院ニ於テ該附
帶控訴ニ對シ何等ノ判決ヲ與ヘサルハ即チ請求ヲ受ケタル事件ニ付判決ヲ爲サハルモノニシ
テ上告論旨ハ刑事訴訟法第二百六十九條第七ハ前段ニ該當スル理由アルモノトス既ニ此點ニ
付破毀スヘキモノト認ムル上ハ其他ノ上告論點ニ對シ更ニ説明スルノ要ナシ

右ノ理由ニ付刑事訴訟法第二百八十六條ニ依リ原判決ヲ破毀シ更ニ審判ヲ爲サシムル爲メ本
件ヲ名古屋控訴院ヘ移スモノナリ

明治二十八年十月十四日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事安居修藏立會宣告ス

○贓物故買ノ件

明治二十八年第九〇七號
明治二十八年十月十五日宣告

○判決要旨

代金支出ノ事實ハ盜賊故買罪ノ成立ニ關係ヲ有セス(判旨第二點)

第二審ニ於テ證據力ノ輕重ニ對シ第一審ト意見ヲ異ニスルモ其判決ヲ取消ス
ノ理由トナラス(判旨第三點)

盜難届ニ一定ノ式ナシ(判旨第四點)

調書并ニ證據書類ノ朗讀ヲ爲スハ畢竟被告人ヲシテ記載ノ事柄ヲ聞知セシム
ルニ在リ是故ニ既ニ其事柄ヲ熟知セル場合ニアリテハ承諾上之ヲ省略スルハ
不法ニアラス(判旨第五點)

(參照) 必要ナル調書其他證據書類ハ書記ヲシテ朗讀セシメ又證人ノ供述ヲ聽キ其他證
憑ノ取調ヲ爲ス可シ(刑事訴訟法第二
百十九條第二項)

第一審 盛岡地方裁判所 警非支部 第二審 宮城控訴院
被告人 松本源助 辯護人 花井卓藏
高野又兵衛

明治二十八年六月二十六日宮城控訴院ニ於テ右源助又兵衛外一名ニ對スル贓物故買被告事件
ノ控訴ヲ審理シ本件控訴ハ之ヲ棄却スト音渡タル判決ヲ不當トシ被告源助又兵衛ハ上告ヲ爲
シ原院檢察長犬塚盛雄ハ答辯書ヲ差出シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ
審理スル處

源助又兵衛上告趣意ハ原判決ニ列記スル證據書類中一モ被告ノ犯罪ヲ證スルニ足ルモノナシ
又第一審ニ於テ證據ト爲シタル司法警察官ノ聽取書ヲ排斥シナカラ其理由ヲ示サスシテ容易
ク有罪ノ判決ヲ爲シ控訴ヲ棄却シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○前段ハ徒ラニ探證ノ當
否ヲ論争スルモノニシテ又後段ハ股令第一審力採用シタル證據ト雖トモ第二審裁判官ハ隨意
之レヲ取捨スルノ機能ヲ有シ而シテ之レヲ取捨シタル理由ヲ指示スヘキ義務ナキモノヲ以テ
本上告論旨ハ不相立又兵衛辯護士上告趣意擴張第一ハ原判決ニ菊地方藏力(中)竊取シタル衣類
雜品百五十點ヲ万五郎方ニ持參シタルヲ万五郎ニ於テ又兵衛宅ニ持行キ(中)代金ヲ五十圓ト定
メ源助ハ三十圓万五郎ハ十圓各出金シ(中)右贓物ヲ買受云々トアルニ依レハ本件贓物ノ故買者
ハ源助万五郎ノ兩人ニシテ又兵衛ニアラサルコト明カナリ即原院ハ又兵衛力出金シタルコト
ヲ認メサルニモ拘ラス之ニ贓物故買ノ罪アルモノト爲シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ○
原判決ヲ閱スルニ又兵衛ニ於テ源助万五郎ト謀リ小澤巳津治ナル者ニ對シ豫メ竊盜品ヲ買受
クヘキ約定ヲ爲シ置キ其約ニ從ヒ己津治ノ共犯者菊地方藏ナル者竊取シタル贓品ヲ持參シタ
ルニ依リ又兵衛源助万五郎立會ノ上代價ヲ金五十圓ト定メテ之ヲ買受ケタル事實ハ最モ明ニ

盜賊故買罪ノ成立○證據力ノ輕重○盜難届ノ式○書類朗讀ノ省略

判旨第二點

記載シアルヲ以テ又兵衛カ右贓物故買共犯者ノ一人ナルコトハ判文上毫モ疑チ容ル、所ナシ
而シテ現ニ其代金ヲ出シタルト否ハ右實買成立ニ關係ナキ事柄ナルヲ以テ判文ニ又兵衛カ出
金シタルコトハ記載ナキヲ以テ又兵衛ハ買受人ニアラストハ證據ト爲スヲ得サルハ勿論ナリ
第二ハ第一審裁判所カ證據ニ採用シタル又兵衛ニ對スル司法警察官ノ聽取書ハ其實訊問調書
ニシテ法律上無効ノモノナリ故ニ原院ハ之ヲ證據中ヨリ排斥シタルニモ拘ラズ控訴棄却ノ旨
渡ヲ爲シタルハ不法ナリト云フニアレトモ○該聽取書ヲ檢スルニ其陳述ヲ爲シタル高野又兵
衛ノ署名捺印等モアルニアラスシテ全ク警部カ聽取タル事實ヲ記載シタルモノナレハ之ヲ訊
問調書ト看做スコトヲ得ス從テ其書類ハ違法ノモノト爲スヲ得サルヲ以テ設令原院カ第一審
裁判所ト證據力ハ輕重ニ付キ意見ヲ異ニシタルモ之ヲ以テ其判決ヲ取消スヘキモノニアラ
ハハ瓜判決ハ是認シ控訴棄却ハ旨渡ヲ爲シタルハ相當ナリ第三ハ伊藤其造ノ盜難届書ニハ日
付ノ記入ナク又契印モナシ殊ニ該届書ニ添付セル被害目錄ナル書面ニハ年月日ハ勿論同人ノ
署名捺印ナク結局何人ノ提出ニ係ルヤ之ヲ明認スルニ由ナシ然ルニ原院ニ於テ如此證明人ノ
何人タルヤヲ明認スルコト能ハサル無効ノ證據ヲ採テ斷罪ノ資料ト爲シタルハ不法ナリト云
フニ在レトモ○盜難届書ニハ一定ノ式アルコトナキヲ以テ必シモ每葉ニ契印アルヲ要セス又
其届書ニハ届出ノ年月記載アルノミニシテ其日時ノ記載ナキモ盜難ニ罹リタル日時ハ現ニ其
書面ニ明記シアルヲ以テ毫モ差支アルコトナシ又被害目錄書ハ其盜難届書ニ添付シテ差出シ
タル以上ハ同時同人カ提出シタルモノナルコトモ自ラ明瞭ナルヲ以テ別箇ニ署名捺印等ナキ

判旨第三點

提出者不分明ノ恐レアルコトナシ從テ之ヲ證據トシテ採用スルモ違法トセス第四乃至第七
ハ總々陳辯スル所アルモ詰局刑事訴訟法第二百十九條ハ強行法ノ規定ニシテ聽用法ノ規定ニ
アラサレハ被告人ノ承諾有無ニ拘ラス證據書類ノ朗讀ハ必スヤ其手續ヲ盡サトルハカラサル
モノナルニ原院ニ於テ被告人ノ承諾ヲ得タル迪右成文ノ規定ニ背キ調書ノ朗讀ヲ省畧シタル
ハ不法ナリト云フニ在レトモ○本條ニ調書其他ハ證據書類ハ書記ヲシテ朗讀セシム可シト規
定シタルハ畢竟被告人等ヲシテ記載ハ事柄ヲ聞知セシムルニ在ルモノハナルヲ以テ若シ已ニ其
事柄ヲ熟知シ特ニ之カ朗讀ヲ要セサル場合ニ於テハ承諾上之カ朗讀ヲ省畧シ直ニ被告人ヲシ
テ之ニ付キ辯解ヲ爲サシムルモ致テ違法ハ所爲トセス以上ノ上告論旨ハ總テ不立因テ刑事
訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ判決スルコト左ノ如シ
本件上告ハ之ヲ棄却ス
明治二十八年十月十五日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事應當融立會宣告ス

判旨第四點

提出者不分明ノ恐レアルコトナシ從テ之ヲ證據トシテ採用スルモ違法トセス第四乃至第七
ハ總々陳辯スル所アルモ詰局刑事訴訟法第二百十九條ハ強行法ノ規定ニシテ聽用法ノ規定ニ
アラサレハ被告人ノ承諾有無ニ拘ラス證據書類ノ朗讀ハ必スヤ其手續ヲ盡サトルハカラサル
モノナルニ原院ニ於テ被告人ノ承諾ヲ得タル迪右成文ノ規定ニ背キ調書ノ朗讀ヲ省畧シタル
ハ不法ナリト云フニ在レトモ○本條ニ調書其他ハ證據書類ハ書記ヲシテ朗讀セシム可シト規
定シタルハ畢竟被告人等ヲシテ記載ハ事柄ヲ聞知セシムルニ在ルモノハナルヲ以テ若シ已ニ其
事柄ヲ熟知シ特ニ之カ朗讀ヲ要セサル場合ニ於テハ承諾上之カ朗讀ヲ省畧シ直ニ被告人ヲシ
テ之ニ付キ辯解ヲ爲サシムルモ致テ違法ハ所爲トセス以上ノ上告論旨ハ總テ不立因テ刑事
訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ判決スルコト左ノ如シ
本件上告ハ之ヲ棄却ス
明治二十八年十月十五日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事應當融立會宣告ス

判旨第五點

提出者不分明ノ恐レアルコトナシ從テ之ヲ證據トシテ採用スルモ違法トセス第四乃至第七
ハ總々陳辯スル所アルモ詰局刑事訴訟法第二百十九條ハ強行法ノ規定ニシテ聽用法ノ規定ニ
アラサレハ被告人ノ承諾有無ニ拘ラス證據書類ノ朗讀ハ必スヤ其手續ヲ盡サトルハカラサル
モノナルニ原院ニ於テ被告人ノ承諾ヲ得タル迪右成文ノ規定ニ背キ調書ノ朗讀ヲ省畧シタル
ハ不法ナリト云フニ在レトモ○本條ニ調書其他ハ證據書類ハ書記ヲシテ朗讀セシム可シト規
定シタルハ畢竟被告人等ヲシテ記載ハ事柄ヲ聞知セシムルニ在ルモノハナルヲ以テ若シ已ニ其
事柄ヲ熟知シ特ニ之カ朗讀ヲ要セサル場合ニ於テハ承諾上之カ朗讀ヲ省畧シ直ニ被告人ヲシ
テ之ニ付キ辯解ヲ爲サシムルモ致テ違法ハ所爲トセス以上ノ上告論旨ハ總テ不立因テ刑事
訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ判決スルコト左ノ如シ
本件上告ハ之ヲ棄却ス
明治二十八年十月十五日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事應當融立會宣告ス

○監守盜ノ件

明治二十八年第一〇三五號
明治二十八年十月十五日宣告

○判決要旨

村役場ノ書記ハ收入役ヲ代理スルノ資格ヲ有ス從テ其代理トシテ徵收シタル

村役場書記ノ監守盜

租税金ヲ竊取シタル所爲ハ監守盜ヲ以テ論ス

(參照) 官吏自ラ監守スル所ノ金穀物件ヲ竊取シタル者ハ輕懲役ニ處ス(刑法第二百八十九條第一項)

第一審 安濃津地方裁判所 第二審 名古屋控訴院

被告人 谷 誠 二 辯護人 守屋此助

右監守盜被告事件ニ付キ明治二十八年八月七日名古屋控訴院ニ於テ控訴棄却ノ言渡ヲ爲シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シ原院檢察事長加納謙ハ答辯書ヲ差出シタルニヨリ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ檢事應當融辯護士守屋此助ノ辯明ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

上告趣旨ノ要旨第一ハ被告カ村役場書記ヲ勤務シ居タルコト明治二十八年三月二十九日取入役谷成道カ不在ナカリシコト同日成道妻カ被告ニ税金取立ノ依頼ヲ爲シタルコト及ヒ被告カ税金ヲ取纏メ役場ニ歸リ内幾分ヲ懐中ニ保管シ居タルコトハ被告ノ申立其他ノ訴訟記録ニ徴シ明瞭ニシテ裁判所モ亦タ認定シタル所ナリ而シテ右保管金ハ自宅ノ失火ト聞知シ狼狽ノ餘リ遺失シタルモノニシテ決シテ竊取シタルニ非サル旨ヲ申立テ終始變更シタルコトナシ然ルニ懐中保管シタリト云フノ事實ヲ以テ竊取ナリトセシハ被告事件ヲ撰據ニ依リ有罪ノ推定ヲ爲シタル違法ノ判決ナリト云フニアリテ

○事實裁判官ノ職權ニ屬スル事實ノ認定採證ノ當否ヲ論難ズルモノニシテ上告ノ理由ナシ

第二ハ原判決ニ明治二十七年年度地租第五期分云々合計金七百十六圓八錢ヲ徵收シ云々内金六百三圓三十六錢九厘ヲ竊取シタルモノトス

トアレトモ四口ノ合金ハ七百十六圓十錢七厘ニシテ二錢七厘ノ違算アリ然ラハ竊取金高及ヒ竊取ノ原

因タル事實ニ離斷アル不法ノ裁判ナリト云フニアレトモ

○被告カ徵收シタル金圓ノ合計ニ違算アルモ其徵收金ノ内ヨリ六百三圓三十六錢九厘ヲ竊取シタル事實ニ異動ヲ生セサルヲ以テ理由ノ離斷ト云フテ得ス

第三ハ被告ハ役場書記ニシテ租稅徵收ノ職務職權アルコトナシ收入役ノ妻ヨリ依頼アリトテ收入役ノ代理タル資格ナキハ勿論ナリ又町村制第五十三條第二項ニ依レハ町村長スラ收入役ヲ兼メルヲ得ス況ンヤ被告ノ如キ雇書記ノ之ヲ兼メルヲ得サルヤ明カナリ然ラハ被告ハ公吏ノ資格ヲ有スルモノニアラス從テ徵收シタル金員ハ其名義ハ租稅ナルモ被告カ各納稅人ヲ欺キ收受シタルモノニシテ官金公金ニアラズ故ニ竊取ノ所爲アリトスルモ監守盜ヲ以テ論スヘキモノニアラス詐欺取財若クハ通常竊盜ニ過キサルナリ何レノ點ヨリ論スルモ被告ニ明治二十三年法律第百號ヲ適用スルヲ得サルモノナルニ監守盜ナリトシテ處斷シタルハ擬律ノ錯誤ナリト云ヒ擴張要旨第一ハ町村制第六十三條第七十二條ニ依リテ見ルモ役場書記ハ公吏ト見做スコト能ハサルニ被告ヲ公吏トシテ處斷シタルハ擬律ノ錯誤ナリト云フニアレトモ

○原判文ニ被告誠ニハ三重縣朝明郡竹永村役場書記在職中トアルニ依レハ被告カ村役場書記ナリシコトハ原院ノ認定シタル事實ニシテ村役場書記ハ町村制ニ定メタル吏員ナレハ公吏タルコト勿論ナリ又ハ町村制第七十二條ニ書記ハ町村長ニ屬スルモノトナシ

○町村ノ行政ハ其ハ長助役及ヒ收入役ト其他ハ吏員トニ依リテ組織スルモノナレハ書記ハ即チ其一職員タリ斯ク書記ト收入役トハ同一局部ノ職員ナレハ收入役ヲ代理スルコトハ法律ニ之ヲ禁止スルハ特條ナキヲ以テ敢テ妨ケナシトス然ラハ被告カ收入役ニ代リ租稅ヲ徵收シ

タルハ相當ノ代理ニシテ公吏ノ資格ヲ以テ村行政ノ事務ヲ行フタルモハナリ故ニ其徵收金ハ公金ニシテ職務上保管スルモノナレハ之ヲ竊取シタル所爲ハ公吏自ラ監守スル所ハ金員ヲ竊取シタルモノト謂ハサルヲ得ス依テ原院カ明治二十三年法律第百號刑法第二百八十九條ヲ適用シタルハ相當ナリ又々原院文ニハ「收入役谷成道ニ代リ云々」トアリテ其代理ハ相當ノ手續ヲ以テ爲シタルコト明カナレハ收入役ノ妻ヨリ依頼ヲ受ケ徵收ヲ爲シタルハ代理ニアラスト云フカ如ク論訴スルモ要スルニ事實ノ認定ヲ批難スルモノニシテ上告ノ理由ナシ擴張第二ハ原判決ハ法律適用ノ部ニ刑法第二百八十九條トノミアリテ其一項ナルヤ二項ナルヤヲ明示セサルハ理由ヲ付セサル判決ナリト云フニ在レトモ○其第二項ハ官文書ノ増減變換又ハ毀棄アリタル場合ニ適用スヘキ法條ニシテ本件ニハ適モ此等ノ事實ナケレハ第一項ノミヲ適用シタルコト明白ニシテ法律ノ理由ニ不備ナシトス其第三ハ公訴費用ノ負擔ヲ言渡サトシハ刑事訴訟法第二百一條ニ背戾スル判決ナリト云フニ在レトモ○公訴費用負擔ノ言渡シナキハ被告ノ利益ナルニ其言渡ナキヲ不當ナリト論訴スルハ自ラ負擔ヲ求ムルモノニシテ被告ノ不利益ニ歸スル論旨ナルヲ以テ上告ノ理由ナシ其第四ハ本件ハ非現行犯ナルニ司法警察官ノ越權ノ處分ニ出テタル佐藤清太郎外六名ノ應取書ヲ採リテ證據トナシタルハ不法ナリト云フニアレトモ○右應取書ナルモノヲ査閱スルニ何レモ司法警察官カ職權ヲ越テ喚問シ訊問ヲ爲シテ作リタル調書ニアラスシテ捜索上各名ヨリ聞取タル事實ヲ自己ノ陳述トシテ記載シタルモノナレハ違法ノ文書ニアラス故ニ原院カ之ヲ採リテ證據トナシタルハ不法ナリトセス辯護士擴張ノ要

旨ハ押取ノ金四十圓受取書ハ被告ニ證據トシテ指示セス從テ證據トシテ辯解ヲ求メサルモノナリ然ルニ該書ヲ採リテ證據トナシタルハ不法ナリト云フニアレトモ○公判始末書ニ依レハ先少證據書類ノ取調ヲ爲シ之ニ引キ續キ裁判長ハ押取ニ係ル一切ノ物件ヲ被告ニ示シ如何ト問ヒ被告ハ何レモ認メマスト答ヘ其上ニ裁判長ハ特ニ右請取書ヲ被告ニ指示シタリ其取調ノ順序ヨリ見ルモ證據トシテ之ヲ被告ニ示シ辯解ヲ求メタルコト明カニシテ手續上違法ノ點ナク從テ該書ヲ證據トナシタルハ違法ニアラス
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本按上告ハ之ヲ棄却ス
明治二十八年十月十五日大審院第二刑事部公庭ニ於テ檢事應當融立會宣告ス

○詐欺取財ノ件

明治二十八年第一〇八三號
明治二十八年十月十五日宣告

○判決要旨

偽造證書ハ法律ニ於テ禁制シタル物件ナリ

(參照) 左ニ記載シタル物件ハ宣告シテ官ニ沒收ス但法律規則ニ於テ別ニ沒收ノ例ヲ定

偽造證書

メタル者ハ各其法律規則ニ從フ(刑法第四十三條)

法律ニ於テ禁制シタル物件(同條)

第一審 仙臺地方裁判所 第二審 宮城控訴院

被告人 小細松四郎

右詐欺取財其他ノ被告事件ニ付明治二十八年八月三日宮城控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ服
セヌ被告ハ上告ヲ爲シ原控訴院檢察長代理正木昇之助ハ答辯書ヲ差出シタルニ依リ刑事訴訟
法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ

上告趣意第一點ハ被告松四郎カ印影盗用私書偽造行使等ノ所爲ニ加功シタル事實ハ一件書類
中一モ見ルヘキモノナキハ勿論原判決ニモ其事實ノ理由ヲ明示セスノ被告ニ是等ノ犯罪アリ
ト認定シタル原判決ハ違法ナリト云フニ在レニ○原判決ニハ被告カ他ノ共犯人ト通謀シテ印
影盗用私書偽造行使詐欺取財ノ罪ヲ犯シタリト認定シタル事實ノ理由ヲ明瞭ニ説明シタルニ
依リ事實ノ理由ヲ明示セサル違法アルコトナシ○第二點ハ本件偽造ノ借用證書及ヒ地所登記名
名刺ノ如キハ之ヲ行使スルニ依テ犯罪ヲ構成スルモノニシテ固ヨリ應禁物ニアラサルニ原
カ刑法第四十三條第一號ヲ適用シテ之ヲ沒収シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○偽造ハ證
書等ハ社會ハ信用ヲ害スヘキ者ナルヲ以テ私ニ之ヲ所持スルヲ許サス然レハ原院カ其證書等
ヲ刑法第四十三條第一號ニ依テ沒収シタルハ適法ナリ○第三點ハ本件ニ付被告ハ他ノ犯罪者ノ
爲メニ使役セラレタルノミ假リニ犯罪ノ責任アリトスルモ罪ニ詐欺取財ヲ以テ論セラレヘキ

所爲アルノミ然ルニ原院カ被告ニ私印盗用私書偽造行使詐欺取財ノ罪アリト判定シタルハ違
法ナリト云フニ在リテ○原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ批難スルモノナレハ以テ上告ノ理
由ト爲ヌヲ得ス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス
明治二十八年十月十五日大審院第二民事部公廷ニ於テ檢察岩田武儀立會宣告ス

○贓物故買寄藏ノ件

明治二十八年第一一〇六號
明治二十八年十月十五日宣告

○判決要旨

一 罪ト認メタル判決ニ對シニ罪ナリト主張スルハ被告ニ不利益ナル論旨ナル
ヲ以テ上告ノ理由ト爲ヌヲ許サス(判旨第一點)
被害者ノ不明トハ被害者ノ有無ノ不明ヲ云フニアラス其住所氏名等ノ不明ナ
ル場合ヲ云フ(判旨第二點)

刑法第四十四條ニ所謂ル所有主ナキトキトハ絶對的ニ無主物タル場合ヲ云フ

不利益ノ上告申立○被害者ノ不明○所有主ナキトキノ解釋

ニアラス所有主ノ發見セラレサル場合ヲ云フ(判旨第三點)

(參照) 法律ニ於テ禁制シタル物件ハ何人ノ所有ヲ問ハス之ヲ沒收ス犯罪ノ用ニ供シ及ヒ犯罪ニ因テ得タル物件ハ犯人ノ所有ニ係リ又ハ所有主ナキ時ノ外之ヲ沒收スルコトヲ得ス(刑法第四條)

第一審 長野地方裁判所 第二審 宮城控訴院
被告入 荒井庄作 辯護人 高木益太郎

右庄作カ贓物故買寄藏被告事件ノ控訴ニ付明治二十八年八月三日宮城控訴院ニ於テ原判決ハ之ヲ取消ス被告庄作ヲ重禁錮一年六月ニ處シ罰金十五圓ヲ附加シ監視八月ニ付ス押收ノ贓物被害者不明ノ分ハ之ヲ沒收ス其他ハ假下ノ儘各被害者ニ還付ス云々ト言渡シタル處被告ハ該判決ニ對シテ上告ヲ爲シタルニ付刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

判旨第一點

上告趣意第一點ハ原院ハ贓物寄藏ト贓物故買トノ事實ヲ認メナカラ之ヲ一罪トナシタレトモ右ハ各獨立ノ犯罪ナルコトハ法理并ニ裁判例ノ合致スル所ナリ故ニ原院ハ法律ノ解釋ヲ誤リ從テ其適用ヲ誤リタル不法アリト云フニ在リ○然レトモ一罪ト認メタルニ對シテ二罪ナリト論告スルハ被告ハ不利益ニ屬スルカ故ニ以テ被告ハ上告理由トスルヲ得ス同第二點ハ原判文ニ被告ノ手ニ在リシ贓品被害者不明ノ分ハ第四十三條第三號第四十四條ニ依リ處斷シ其他ハ同法第四十八條ニ依リ處分ストアルモ何レノ物品カ被害者ノ不明ナルヤヲ示サス元來竊盜ノ

判旨第二點

被害者ハ一定ノ期間内官署ニ届出チナスヘキ規定ナルカ故ニ被害者ノ明ナラサル以上ハ贓品ニ非ス從テ贓物故買罪ハ成立セサルナリ故ニ原判決ハ事實理由不備ニシテ法ノ適用ヲ誤リタルモノナリト云フニ在リ同第三點ハ前段ノ如ク贓物タルニ非サル上ハ犯罪ニ依テ得タル物件ニ非サルカ故ニ刑法第四十三條第三號ヲ適用シタル原判決ハ法律ノ適用ヲ誤リタルモノナリト云フニ在リ○然レトモ被害者ノ不明トハ被害者ハ有無不明ナリト云フニ非スシテ其住所氏名等ノ不明ニシテ被害者ハ誰ナルカ知ルヲ得サルヲ謂フ又届出ハ有無ヲ以テ直カニ被害者ハ有無ヲ列スルヲ得ヘキ者ニ非ス之ヲ要スルニ原判決ハ被告ノ手ニ在ル物品中被害者ノ誰ナルヤヲ知り能ハサルモ贓物ニ係ルモノタルコト明白ナリトシ沒收ノ處分ヲ爲スニ至リタルモノナレハ事實理由ニ於テ欠クル所ナク又法律ノ適用ヲ誤リタルモノニ非ス而シテ何レノ物品カ不明ナルモノナルヤノ點ニ付テハ既ニ公庭ニ顯ハレタル一件記録ニ依リ明瞭ナルヲ以テ一々之ヲ列文ニ明示スルノ要ナキモノトス同第四點ハ原院ハ被害者不明ノ贓品ヲ沒收スルニ付刑法第四十四條ヲ適用シタリ是蓋所有主ナキ者ト見做シタルニ外ナラサル可シ果シテ然ラハ無主物ハ竊盜ノ目的物ニ非ス從テ贓物ニ非サルナリ云々ト云フニ在リ○然レトモ刑法第四十四條ニ謂フ所ハ所有主ナキ時トハ所有主ヲ發見セサルトキヲ云ヒ絶對的ニ無主物タルヲ要スルニ非ス故ニ原院カ被害者不明ハ物ニ付キ刑法第四十四條ヲ適用シタルハ相當ナリトス同擴張書ノ要旨ハ原判文中被告荒井庄作ヨリ贓物領置書云々其末ニ證憑十分ナリトアレトモ曾テ被告ヨリ此ノ如キ書面ヲ出シタルコトナク又其指示ヲ受ケタルコトナシ故ニ原裁判ハ不法ナリ

判旨第三點

不利益ノ上告申立○被害者ノ不明○所有主ナキトキノ解釋

不利益ノ上告申立○被害者ノ不明○所有主ナキトキノ解釋

百四十四

ト云フニ在リ○然レトモ一件記録第八十三枚乃至八十六枚目ニ於テ領置書ト題シ警部ノ作リタル書面ニシテ被告ノ署名押印セルモノアリ而シテ原院ノ公判始末書ニ依レハ本件ノ證據トシテ公廷ニ顯ハレタル書類ニ付裁判長ヨリ被告ニ對シテ意見ヲ問ヒタル事跡明白ナリトス辯護士高木益太郎ヤ上告趣意辯明書第一點ハ原判文中被害者不明ノ分「トアル賍物ハ如何ナル者ナルヤヲ知ルヲ得スト云フニ在リテ」○被告ノ上告趣意第二點ノ前段ニ同シキヲ以テ重テ辯明ヲ與ヘシ同第一點ハ原院ニ於テハ沒收スヘキ物件ヲ公廷ニ提出シテ調査シタルコトナク又被告ノ辯疏ヲモ聽キタルコトナクシテ沒收ノ定式ヲ爲シタルハ口頭辯論主義ニ背馳スル不法ナリト云フニ在リ○然レトモ物件目錄書ノ如キ書類ニ依リ訊問ヲ爲シ得ヘキ場合ニ在テハ一々實物ヲ提出セサルモ爲メニ口頭辯論ノ主義ニ戻リタルモノト云フヲ得ス本件ハ則チ各書類ニ依リ訊問ヲ爲シ及ヒ被告ノ意見ヲ問ヒタルモノナルコト該始末書ニ於テ明白ナリトス右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス
明治二十八年十月十五日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス。

○強盜及強盜殺人ノ件

明治二十八年第一一五四號
明治二十八年十月十八日宣告

○判決要旨

檢事ノ公訴ハ豫審判事管轄違ノ言渡ヲ爲スニ依リテ其効ヲ失ス從テ更ニ管轄裁判所ニ起訴ノ手續ヲ爲スニアラサレハ其公訴ハ受理スヘキモノニ非ス(判旨第一點)

(參照) 起訴豫備又ハ公判ノ手續其規定ニ背キタルニ因リ無効ニ屬スルトキハ時効ノ經過ヲ中斷スル効ナカル可シ但裁判所ノ管轄違ナルニ因リ其手續ノ無効ニ屬スルトキハ此限ニ在ニス(刑事訴訟法第十二條)

豫審判事ハ被告事件其管轄ニ非サルコトヲ認メタルトキハ其旨ヲ言渡スヘシ若シ拘留ヲ要スルモノト認メタルトキハ前ニ發シタル令狀ヲ存シ又ハ新ニ令狀ヲ發シ其事件ヲ檢事ニ交付ス可シ(刑事訴訟法百六十四條)

共犯者ノ一人ニ對スル起訴ヲ以テ他ノ共犯人ニ及ホスコトヲ得ス(判旨第二點)

第一審 大阪地方裁判所 第二審 大阪控訴院
被告人 長尾石之助 辯護人 中村一興

右強盜及強盜殺人犯被告事件ニ付明治二十八年九月十四日大阪控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ對シ原控訴院檢事長林誠一ハ上告ヲ爲シ被告ハ答辯書ヲ差出サス依テ刑事訴訟法第二百八管轄違ノ言渡○共犯人ニ對スル起訴

十三條ノ定式ヲ履行シ辯護士中村一與ノ辯論檢事臨當融ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
 上告趣意第一點ハ凡ソ裁判管轄ナルモノハ其種類及彼我交渉ノ區別ヲ判定スルニ過キスシテ
 管轄違ノ言渡ヲ爲シタルハトテ犯罪ノ消滅スルモノニアラス故ニ時効中斷ニ影響ヲ及ホサス
 又令狀ヲ存シ或ハ新ニ令狀ヲ發シテ拘留スヘキコトハ刑事訴訟法第十二條及ヒ第百六十四條
 ニ規定スルトコロナリ然ラハ即チ大阪裁判所檢事ノ起訴ハ乙丙何レノ裁判所ニ移サレタルモ
 起訴ノ効力ヲ存續スルコト論ヲ俟キルナリ然ルニ原院カ本件ハ大阪地方裁判所豫審判事カ管
 轄違ヲ言渡シタルヲ以テ同地方裁判所ニ提起シタル檢事ノ起訴ハ其効力ヲ失ヒタルニ依リ檢
 事ヨリ更ニ管轄裁判所ニ起訴スルアラサレハ其公訴ハ受理スヘキモノニアラスト判決シタル
 ハ不法ナリト云フニ在レトモ○刑事訴訟法ノ規定ニ違背シタル起訴即管轄違等ハ公訴タルヤ
 其効力ナキトハ同法第十二條ノ法文ニ依リ明瞭ナリ唯同條ノ末段及ヒ同法第百六十四條ハ管轄
 違ハ場合ニ於テモ時効ノ經過ハ之ヲ中斷スヘク又豫審判ニ於テ被告ヲ拘留スヘキモノト
 認メタルトキハ之ヲ放免セスシテ檢事ニ交付スヘキコトヲ規定シタルノミ固ヨリ之ヲ以テ管
 轄違ハ公訴ヲ有効ト爲スハ法意ニアラサルコト論ヲ俟タス然レハ本件ニ付大阪地方裁判所檢
 事ヨリ既ニ起訴シタルモ同裁判所豫審判事ニ於テ管轄違ヲ言渡シタル上ハ其起訴ハ無効ナル
 ヲ以テ檢事ヨリ更ニ管轄裁判所ニ起訴セザレハ其公訴ハ受理スヘキモノニアラス故ニ原判決
 ハ適法ニシテ上告論旨ハ其理由ナシ第二點ハ頁シヤ大阪地方裁判所檢事ノ起訴ハ其効力ナシト
 スルモ神戸地方裁判所姫路支部檢事ハ據ニ本按被告事件ノ公訴ヲ提起シアルヲ以テ因テ生ス

判官第二點

判官第二點

ル所ノ共犯人幾多アルモ豫審判事ハ直チニ訊問決定ヲ爲シ得ルノ權能ヲ有スルコトハ喋々ノ
 辯ヲ要セスシテ明カナリ是レ則刑事訴訟法第十一條ノ規定アル所以ナリ然ルニ原判決カ被告
 石之助ニ對シ起訴シタルモノニアラスト爲シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○他ハ共犯者
 ニ對シテ起訴アリタリトテ其起訴ハ効力カ本案ハ被告ニ及ホスヘカハサルコト勿論ナリトス
 第三點ハ本院ノ判決ヲ閱スルニ第二審ノ判決ヲ爲スニ方リ第一審即姫路支部豫審判事カ神
 戶地方裁判所ノ重罪公判ニ附スルノ決定ヲ爲シタルハ不法ナリト謂フニ在テ豫審決定ヲ非難
 スルニ止リ第一審公判ノ當否ニ至テハ毫モ觀ルヘキノ點ナシ是レ豈理由ヲ示シタルモノトス
 ルヲ得ンヤ要スルニ本院ノ判決ハ第一第二ノ起訴ヲ認メナカラ之ヲ無視シ第二審ノ判決ヲ爲
 スニ方リ第一審判決ノ當否ヲ明示セザルハ事實理由ノ不備ニシテ刑事訴訟法第二百三條ニ違
 背シ同法第二百六十九條第九項ニ該當スル不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ○原判決ニ明示
 シタル理由ニ依リ本案第一審判決ノ不法ナルトハ自ラ明瞭ナルヲ以テ原判決ハ第一審判決ノ
 當否ヲ審査セザルノ瑕瑾アルコトナシ又原院カ本案ニ付第一第二ノ起訴ヲ認メタリトノ論旨
 ハ原判決ノ趣意ニ添ハス徒ラニ批難ヲ試ムルニ過キサルヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得サルモ
 ノトス
 右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス
 明二十八年十月十八日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事應當融立會宣告ス

○竊盜ノ件

明治二十八年第一一八二號
明治二十八年十月十八日宣告

○判決要旨

學校ノ寄宿舎ニ同室スル者ハ刑事訴訟法第二百二十三條ニ所謂同居人ニアラス

(參照) 左ニ記載シタル者ハ證人ト爲ルコトヲ許サス但宣誓ヲ爲サシメスシテ事實參考

ノ爲メ其供述ヲ聽クコトヲ得(刑事訴訟法第百二十三條)

民事原告人及被告人ノ雇人又ハ同居人(四條第)

第一審 新潟地方裁判所 第二審 宮城控訴院

被告人 安澤時太郎
今井金七郎

右竊盜被告事件ニ付明治二十八年九月十四日宮城控訴院ニ於テ原判決ヲ取消シ被告時太郎ヲ重禁箇五月被告金七郎ヲ重禁箇四月ニ處シ各六月ノ監視ヲ附加スト旨渡シタル判決ニ對シ被告二名ヨリ上告ヲ爲シ原院檢察長犬塚盛胤ハ答辯書ヲ差出シタルニ依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ檢察官岩田武儀辯護士高木益太郎ノ辯明ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

被告兩名ノ上告趣意ノ要旨第一ハ庄太郎ハ第一審ニ於テハ被告ナルモ原院ニ於テハ被告ニアラス然ルチ原判決ニハ被告等三名云云トアリテ同人ヲ被告中ニ數ヘタルハ違法ナリト云フニアレトモ○原判決ニ被告等三名トアルハ本件ニ付公訴ヲ受ケタル三名ト云フノ意義ナレハ庄太郎ハ控訴ヲ爲サルモ犯罪事實ヲ揭擧スルニ當リ同人ヲ加ヘタルハ不法ニアラス○第二ハ庄太郎ハ第一審廷ノ供述ニ依レハ同人ト上告人兩名トハ時ヲ異ニシ忍入り且少竊取シタル金員モ同人ハ三十餘圓上告人共ハ六拾圓餘ナルニ右供述ヲ證據トナシナカラ被告等三名共々忍入り九十六圓二十錢ヲ共ニ竊取シタルモノトセシハ事實ト證據ノ間ニ於テ理由ノ阻斷アル判決ナリト云ヒ○第三ハ被告三名共々忍入り九十六圓二十錢ヲ共々竊取シタル事實ニ付テハ何等ノ證據ナク庄太郎ノ供述アルモ前段ニ述フルカ如ク原判決ノ事實ニ反ス故ニ原判決ハ不法ナリト云フニアレトモ○二點共ニ要スルニ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定探證ノ當否ヲ論難スル者ニシテ上告ノ理由ナシ○第四ハ原判決ニ證人岩城文吉ノ證言ヲ採リテ斷罪ノ證トナシタルモ右ハ大審院ニ於テ違法ノ處分トシテ廢棄シタル司法警察官ノ處分手續ノ事實ヲ云フニ過キス然ラハ違法ナル訊問調書ノ事實ヲ巧ミニ復活シ有罪ノ證據トナシタルモノニ原判決ハ不法ナリト云フニアレトモ○原判決ニ證據トナシタルハ證人岩城文吉カ第一審廷ノ供述ナレハ如何ナル事實ヲ供述シアルモ之ヲ證據トシタルハ違法ニアラス○辯護士高木益太郎辯明要旨第一ハ會監上原新五郎ノ保管セル學資金ニ付キ被告以外ニ生徒ノ寄宿者アルトチ明示セサルニ依リ若シ被告兩名ノ金ヲ預ケタルモノトセハ竊盜罪ヲ構成セス假リニ他ニ寄宿生徒アリテ其生

健全體ヨリ預リタルモノトセンカ其預リ金ノ内ニハ被告等ノ金ヲ含ムヲ以テ其被告等ノ所有ニ係ル部分ニ付テハ竊盜罪ヲ構成セス然ルニ此點ヲ明示セサルハ理由ヲ闕キタル不法ノ判決ナリト云フニアレトモ○原判決ニ「吉井庄太郎ト謀リ共ニ同校舎監上原新五郎カ各生徒ヨリ預リ保管セル學資金ヲ竊取セント企圖シ」トアルハ被告等カ犯罪ヲ企テタル事實ニシテ其實ノ明示ニ各生徒ト云フハ被告等ヨリ他ノ生徒ヲ指稱シタルモノナリ然ラハ被告等ハ自己以外ノ同校舎生徒ノ學資金ニシテ會監ノ保管セルモノヲ竊取セント企圖シ其目的ヲ達シタルモノニシテ竊盜罪ヲ構成スヘキ事實ハ原判文ニ明カナリトス「第二ハ豫審決定書第一二審判決書第一審公判始末書ニ依レハ古澤三平ト被告等トハ同校舎内ニ住居シ殊ニ被告金七郎トハ同一ノ室内ニ居住スルコト疑ナ容レズ左スレハ三平ハ被告等ト同居人ノ關係アルモノナルニ同人ノ供述ヲ以テ證人ノ證據トナシ斷罪ノ資料ニ供シタルハ不法ナリト云フニアレトモ○本件新潟尋常中學校寄宿舎ニ寄宿スル者ハ如キハ假令室ヲ同フスルモ唯々同一ノ建築物内ニ寄宿スルト云フニ過キスシテ刑事訴訟法第二百二十三條ハ所謂同居人ニアラサルヲ以テ證人タルハ資格ナキモノニアラス依テ原院カ古澤三平ノ證言ヲ採リテ證據トナシタルハ違法ナリトセス右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本按上告ハ之ヲ棄却ス

明治二十八年十月十八日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

○公署公吏ノ印偽造詐欺取財ノ件

明治二十八年第一一九九〇號
明治二十八年十月十八日宣告

○判決要旨

村役場印ノ偽造罪ヲ處斷スルニ當リ單ニ刑法第二百六條ノミヲ適用シ明治二十三年法律第百號ヲ適用セサル判決ハ擬律錯誤ノ裁判ナリ

(參照) 官ノ文書ヲ偽造スルニ因テ官印ヲ偽造シ又ハ盜用シタル者ハ偽造官印ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス(刑法第二二六條)

刑法中官廳官署ニ關スル條項ハ公署ニ適用シ官吏ニ關スル條項ハ公吏ニ適用シ官ノ印文書及免狀鑑札ニ關スル條項ハ公署ノ印文書及免狀鑑札ニ適用ス(明治二十三年法律第百號)

第一審 大阪地方裁判所 第二審 大阪控訴院

被告人 山崎榮次郎 辯護人 森條右衛門

右公署公吏ノ印私印並ニ公文書偽造詐欺取財被告事件ニ付明治二十八年九月二十日大阪控訴院ニ於テ言渡シタル判決ニ服セス被告ハ上告ヲ爲シ原控訴院檢事長林誠一ハ答辯書ヲ差出シタルニ依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ檢事應當融辯護士森條右衛門ノ辯論ヲ聽キ審理スル處

上告ノ趣意ハ公署印又ハ公文書偽造ノ所爲ヲ刑法第二百六條ニ依リ處斷スヘシトノ規定アラ

村役場印偽造罪ノ法律ノ適用

ハ則其法文ヲ明示シテ處斷セサルヘカラサルニ原院カ單ニ刑法第二百六條ノミヲ適用シテ被告ノ所爲ヲ處斷シタルハ違法ナリト云フニ在リ○依テ案スルニ原判決ニ認メタル被告ノ役場印偽造罪ハ明治二十三年法律第百號刑法第二百六條同法第百九十五條ヲ適用シテ之ヲ處斷スヘキモノナルニ原判決ニ單ニ刑法第二百六條第百九十五條ヲ適用シ明治二十三年法律第百號ヲ明示セスシテ役場印偽造ノ罪ヲ處斷シタルハ上告論旨ノ如ク擬律ニ錯誤アル不法ノ判決ナリトス因テ刑事訴訟法第二百八十七條ニ從ヒ原判決ヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ判決スル左ノ如シ

山崎榮次郎

原判決ニ認メタル事實ニ依リ之ヲ法律ニ照スニ被告カ富山縣婦負郡保内村役場印並ニ村役場助役ノ印ヲ偽造シタル所爲ハ共ニ明治二十三年法律第百號刑法第二百六條第百九十五條公證書偽造ノ所爲ハ刑法第二百四條第二百六條第三百九十條二項私印偽造行使ノ所爲ハ刑法第二百八條第二百十二條金圓騙取ノ所爲ハ刑法第三百九十條第三百九十四條ヲ適用スヘク仍數罪俱發ニ付刑法第百條ニ照シ一ノ重キ村役場印偽造ノ罪ニ從テ處斷スヘキモノトス因テ被告ヲ重懲役九年ニ處ス其他ハ原判決ノ通タルヘシ

明治二十八年十月十八日大審院第二刑事部公庭ニ於テ檢事應當融立會宣告ス

○私書偽造變造詐欺取財ノ件

明治二十八年第一一九九號
明治二十八年十月十八日宣告

○判決要旨

證書ノ本文ニ變更ナシ又被害者ノ筆跡ニ異狀ナキモ證書ノ實體ヲ變更シタル所爲ハ私書變造罪ナリトス

證書ノ餘白ニ保證人ヲ書加ヘタル所爲ハ證書ノ實體ヲ變更シタルモノトス

第一審 長野地方裁判所 第二審 名古屋控訴院

被告人 宮島松太郎
柳島キチ

右私書偽造詐欺取財被告事件ニ付明治二十八年十月二日名古屋控訴院ニ於テ原判決ハ之ヲ取消ス被告松太郎キチ各私書變造行使ノ罪アリトシ重禁錮四月ニ處シ罰金四圓ヲ附加シ監視六月ニ付ス云々ト旨減シタル判決ニ對シ右兩名ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

松太郎ノ上告趣意ハ原判文ニハ保證人ナキ借用證書ニ保證人ヲ書加ヘ且共謀者以外ノ氏名ヲ用ヒシ所爲ハ眞實ノ變換云々トアルモ保證人ナキ證書ノ餘白ニ保證人ヲ附加シタルノミニテハ證書ノ本文ヲ變換シタルニ非ス凡ソ證書變造罪ニ要スル眞實ノ變換ハ必ス被變造者ノ筆跡

私書變造罪ノ成立○證書實體ノ變更

ヲ詐リ且該人ノ變換シタル如キ事實ヲ要ス又共謀者以外ノ氏名ヲ用ユルトアルモ既ニ死亡シタル人ハ私書變造罪ノ被害者タルヲ得ス又原判文ニ嘉平ヲシテ出訴期限規則援用ノ利益ヲ失ハシムルノ害ヲ生スルヲ以テ云々トアレトモ主タル義務ニシテ出訴期限ノ經過ニ係ル上ハ保護義務モ當然經過スルモノナリ故ニ此變換ノ所爲アリタリトスルモ之カ爲メ出訴期限規則援用ノ利益ヲ失ハシムルモノト謂フヲ得ス況ンヤ原判文前段ニハ嘉平ハ(中略)遂ニハ期限後滿五年ヲ經過スルニ至リ爾來悉皆辨濟シタリト主張シテ被告キチノ督促ニ應セザリシ云々トアリテ原院ハ明ニ嘉平カ出訴期限規則ヲ援用シタルコトヲ認メタルニ於テオヤ之レヲ要スルニ本件ノ事實ハ私書偽造罪ヲ構成スヘキモノニアラス假令之レヲ構成スルモノトスルモ被告ハ亡父和三四ノ印ヲ押捺セシ迄ニシテ變換ノ所爲ニ對シテハ現ニ手ヲ下シタルニ非ス故ニ刑法第百九條ニ該當スルモノナレハ原院カ該法條ヲ適用セサルハ不法ナリト云フニ在リ

○依テ案スルニ假令證據ハ本文ヲ變換セス若クハ被害者ノ筆跡ヲ詐爲スル如キ行爲ナシト雖トモ證據實體ハ變更ヲ爲シタル以上ハ則チ眞實ハ變換アリタルモノト謂ハサルヲ得ス而シテ本件ノ事實ハ保證人ナキ證據ニ保證人ヲ書加ヘ及ヒ其印ヲ押捺セリトハコトナルヲ以テ實體ハ變更アリタルコト毫モ疑ハ容ルヘキナシ又貸金トシテ被告ヨリ出訴スルトキハ相手方嘉平ニ於テ出訴期限規則ヲ援用スルヲ以テ故サラニ保證人アル證據トナシ保證人ヨリ嘉平ニ係リ立替金トシテ出訴シ嘉平ヲシテ貸金ニ付テノ出訴期限ノ利益ヲ主張スルヲ得サルニ至ラシメタル事實ナル以上ハ右變換ノ行爲ハ害ヲ生シ得ヘキモノト謂ハサルヲ得ス故ニ私書變造罪ノ要素ニ付キ

備ハラサル所ナシ又原判文前段ニ嘉平ニ於テ出訴期限規則ヲ援用セシ如キ記載アルハ證據變造前ノ模様ヲ叙述シタルモノナリ則チ嘉平ニ於テ出訴期限規則ヲ援用スルカ故ニ之ヲ妨グル爲メ變造ノ相談ニ及ヒタリト云フニ在リテ判文上毫モ不當ノ點ナシ又原院ハ被告ヲ認メテ共謀者ト認メタル以上ハ固ヨリ刑法第百九條ヲ適用スヘキ理ナキヲ以テ原判決ハ一モ不法ノ點アルコトナシ

キチ上告趣意ハ本件ハ原院カ認メタル如キ事實ナリト假定スルモキチハ自己ノ有スル債權證書ニ他人ノ氏名ヲ記入シタルノミナリ而シテ該證書カ出訴期限ニ依リ効力ヲ失フタルモノナルニ於テハ告訴人(債務者)ニ於テ其債務ヲ認メサルヲ以テ足レリトス左スレハ右ノ記入ニ依テ効力ニ消長ヲ來タスヘキ謂レナシ然ルニ原院カ「不正ニ嘉平ヲシテ出訴期限規則援用ノ利益ヲ失ハシムルノ害ヲ生スルヲ以テ法律上私書變造罪ノ構成ニ要スヘキ條件ハ具備スルモノトスト列決セシハ不當ニ事實ヲ確定シタルモノナリト云フニ在リ

○然レトモ此論旨ハ原院カ實害ヲ生スヘキモノト認メタルニ對シテ異議ヲ唱フルニ過キス而シテ其害ヲ生スヘキモノナリトノ點ニ付テハ前項ニ於テ辯明セシ所ノ如シ依テ此上告論旨モ適法ノ理由アルモノト云フヲ得

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治二十八年十月十八日大審院第二刑事部公庭ニ於テ檢事安居修職立會宣告ス

○詐欺取財ノ件

明治二十八年第一二〇二號
明治二十八年十月二十二日宣告

○判決要旨

第一審ニ於テ監視六月ニ處シタルヲ變更シ第二審ニ於テ監視七月ニ處シタル
ハ被告人ニ不利益ナル變更ヲ爲シタル判決ナリトス

(参照) 被告人辯護人又ハ法律上代理人ノミ控訴ヲ爲シタルトキハ原判決ヲ變更シテ被
告人ノ不利益ト爲スコトヲ許サス(刑事訴訟法第二百
六十五條第一項)

第一審 高知地方裁判所 第二審 大阪控訴院

被告人 梶原貞吉

右梶原貞吉カ詐欺取財被告事件ニ付明治二十八年九月二十一日大阪控訴院ニ於テ高知地方裁
判所ノ判決ニ對スル被告人ノ控訴ヲ審判シ原判決ヲ取消シ更ニ被告貞吉ヲ重禁錮三年ニ處シ
罰金七圓ヲ附加シ監視七月ニ付ス公訴裁判費用ハ被告人ノ負擔タルヘシ押収ノ約定證ハ差出
人ニ還付スト言渡シタル第二審ノ判決ニ服セス被告人ハ上告ヲ爲シタルニ因リ刑事訴訟法第
二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決ヲ爲スコト左ノ如シ
上告第一論旨ハ被告貞吉ハ明治二十八年七月十六日高知地方裁判所ニ於テ重禁錮三年罰金七

監視六月ニ處セラレタルヲ控訴シ大阪控訴院ハ刑事訴訟法第二百六十一條第二項ニ依リ被告
ノ控訴ヲ理由アリトシタルニ拘ハラス原判決ヲ變更シテ重禁錮三年罰金七圓監視七月ノ言渡
ヲ爲シタルハ刑事訴訟法第二百六十五條第一項ニ違背シタルモノナリト云フニ在リ○依テ之
ハ密接スルニ本件ハ原控訴院ニ於テ被告ハ控訴ヲ理由アリトシ原判決ヲ取消シ更ニ言渡ヲ爲
シタルモノナルニ其禁錮罰金ノ刑期金額ハ第一審判決ト同一ナルモ監視ハ刑期ハ第一審カ六
月ニ處シタルヲ變更シ監視七月ト言渡シタルハ刑事訴訟法第二百六十五條第一項ニ違背シ即
チ法則ヲ適用セサル違法ハ判決ナリトス已ニ此點ニ付破毀ノ理由アリト認メタルヲ以テ其他
ノ上告論點ニ對シ一々説明ヲ爲スノ必要ナキモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十六條ニ從ヒ原判決ノ全部ヲ破毀シ本件ヲ廣島控訴
院ニ移シ更ニ審判セムシルモノナリ

明治二十八年十月二十二日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事廳當融立會宣告ス

○詐欺破産ノ件

明治二十八年第一〇一八號
明治二十八年十月二十四日宣告

○判決要旨

控訴ニ係ラサル部分ニ對シ判決ヲ爲スハ法律ニ背キ公訴ヲ受理シタル不法ノ
裁判ナリトス

(參照) 裁判ハ左ノ場合ニ當ニ於テ法律ニ違背シタルモノトス (刑事訴訟法第
二百六十九條)

法律ニ背キ公訴ヲ受理シ又ハ受理セサルトキ (同條
五號)

第一審 靜岡地方裁判所 第二審 東京控訴院

被告人 河合金兵衛 辯護人 松田道夫

明治二十八年七月二十七日東京控訴院ニ於テ金右兵衛カ詐欺破産事件ニ付公訴受理ス可ラサ
ルノ申立ニ對スル靜岡地方裁判所ノ判決ヲ不當トシ同裁判所檢事ヨリ控訴ヲ爲シタルニ因リ
審理ノ上檢事ノ控訴ハ其理由アルモノトシ原判決ヲ取消シ被告カ公訴受理ス可ラサルノ申立
ハ棄却ス本案詐欺破産ノ所爲アリト認メ商法第千五十條明治二十三年法律第百一號第一ニ該
ルヲ以テ刑法第二十二條第二項ニ照シ輕懲役六年ニ處ス押收ノ書類ハ刑事訴訟法第二百二條
ニ從ヒ各差出人ヘ還付ス訴訟費用ハ被告ノ負擔トスト言渡シタル判決ヲ不法トシ被告并ニ辯
護士原院檢事ハ各上告ヲ爲シタリ
大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理ヲ遂ケル處

辯護士松田道夫上告第二ノ要旨ハ第一審檢事ノ控訴ハ豫審決定書第一點中ノ第一乃至第七ニ
止マルコトハ第一審ノ判決ニ依ルモ同檢事ノ請求ニ依リ第一審裁判所ハ爾後其進行ヲ中止シ
居ル事實ニ依ルモ明瞭ナルノミナラス曠ニ原院檢事カ本件ニ對シ公訴受理ス可カラサルノ申
立ヲ爲シ原院カ之ヲ棄却シタル際上告人被告及ヒ辯護士ヨリ上告ヲ爲シタルニ對シ當院判決
ノ理由ニ依ルモ明ナリ故ニ原院ニ於テ第一點ノ第八以下第二點ヲ取調ヘラル、ニ際リ辯護士
ヨリ上來ノ理由ヲ舉ク異議ノ申立ヲ爲シ立會檢事ヨリモ同様異議ヲ申立ラレタルニ原院ハ其
申立ヲ棄却シ第一審ノ判決ヲ經由セス隨テ其控訴モナキ第一點ノ第八及ヒ第二點ヲ審判サレ
タルハ公訴ヲ不當ニ受理シタルモノト云フニ在リ

原院檢事上告ノ要領ハ第一審裁判所ハ河合金兵衛ニ對スル詐欺破産被告事件審理ノ初ニ於テ
被告金兵衛ヨリ豫審決定書第一中一乃至七ノ事實ニ付再理ノ理由ヲ以テ爲シタル公訴受理ス
可ラサルノ申立ヲ採容シ該七事實ニ付本案ノ判決ヲ爲シ被告ニ無罪ヲ言渡シタリ第一審裁判
所ノ檢事ハ前顯七事實ヲ以テ再理ニ係ルモノニ非スト爲シ右七事實ニ關スル本案ノ原裁判ニ
對シテ控訴ヲ爲シタリ則チ當控訴院ニ繫屬シタルハ右七事實カ再理ニ係ルヤ否ヤノ問題ニ止
マルカ故ニ當控訴院ハ單ニ此問題ニ付其裁判ヲ下ス可キモノトス然ルニ破産罪ヲ構成スル事
實カ法理上分割ヲ許サストノ理由ヲ以テ同事實ノ某々者ニ付控訴アリタル爲メ破産事件ノ全
體カ當然控訴サレタルモノ、如ク見做シ現ニ第一審裁判所ニ繫屬シテ未タ第一審ノ審理判決
ヲ經サル破産被告事件其物ノ本案ニ對シ第二審ノ裁判ヲ言渡シタルハ法則ニ違背シタル裁判

控訴以外ノ判決

ナリト云フニ在リ。因テ按スルニ第一審ニ於テ被告ヨリ本件公訴中第一乃至第七ノ事項ニ對シ公訴受理不可ナルハ申立ヲ爲シタルモノニ付之レニ對シ相當ノ判決ヲ爲スヘキハ勿論ナリト雖モ抑モ本件豫審決定書ニヨレハ被告ハ第一第二ノ事實ニテ詐欺破産ハ所爲アルモノトセリレ重罪裁判ニ移サレタルモノハ第一事實ハ八項中一乃至七項ニ對シ公訴受理不可ナルハ申立ヲ爲スモ詐欺破産罪ハ惟一ニシテ分割不可カラサルモノニ付第一點中ノ第八項及ヒ第二點ヲモ審理シ俱ニ判決ヲ爲ス可キハ當然ナリ然ルニ第一審判決茲ニ出ス被告ハ公訴受理不可ナルハ申立ハミニ對シ判決ヲ爲シ其一部ハ審理ヲ中止シタルハ失當ナリト然リト雖トモ已ニ一部ニ對シ判決ヲ下シ之レニ對シ檢事ヨリ控訴ヲ爲シ原院ニ於テ審理ハ上公訴ヲ理由アリトシ第一審判決ヲ取消シ被告ハ公訴不受理ハ申立ヲ却下スト判決シタル以上ハ第一審裁判所ニ於テ本按即チ詐欺破産事件全部ハ審理ヲ爲サシムヘキハ當然ナルニモ係ハラズ檢事ハ公訴ハ特ニ第一乃至第七ノ事項ニ對スルモノハナルモ被告事件ハ一ハ詐欺破産罪ニシテ其事項ハ數多ニ分ルハモ其罪タル固ト一罪ナルヲ以テ本件詐欺破産罪事件ハ全部當院ニ繫屬セラルモノト謂ハサルヲ得スト云フハ理由ヲ以テ其控訴ニ係ラサル部分ヲ併セ本案全部ニ對シ判決ヲ下シタルハ即チ法律ニ背キ公訴ヲ受理シタル不法ノ裁判ニ付原判決中後段ハ本案判決ハ破毀スヘキモノトス已ニ此點ニテ破毀ト認メタル上ハ他ノ上告論旨ニ對シ一々説明ヲ要セス。右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十七條ニ依リ原判決中本案ニ係ル部分ヲ破毀シ本件第一審裁判所ヘ差戻ス。

明治二十八年十月二十四日大審院第一刑事部公延ニ於テ檢事岩田新平立會宣告ス

○私印盜用私書偽造行使等ノ件

明治二十八年第一〇四四號
明治二十八年十月二十四日宣告

○判決要旨

詐欺取財ニ着手シタル事實ノミヲ揭ケ其騙取ノ目的ヲ遂ケサリシ事實ヲ明示セシテ輕ク刑法第三百九十條及ヒ同法第三百九十七條ノ擬律ヲ爲シタル判決ハ事實上ノ理由ヲ備ヘサル不法ノ裁判ナリ

(參照) 入テ欺罔シ又ハ恐喝シテ財物若クハ證書類ヲ騙取シタル者ハ詐欺取財ノ罪ト爲シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス(刑法第三百) 此節ニ記載シタル罪(詐欺取財ノ罪及受寄財物ニ關スル罪)ヲ犯サントシテ未ダ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス(刑法第三百九十七條)

裁判ハ左ノ場合ニ於テ常ニ法律ニ違背シタルモノトス(刑事訴訟法第) 裁判ニ理由ヲ付セス又ハ其理由ノ斷斷アルトキ(同第九條) 二百六十九條

第一審 長野地方裁判所松本支部 第二審 東京控訴院

理由ヲ明示セサル判決

被告人 藤森助十郎 辯護人 高木益太郎

右助十郎カ私印盗用私書偽造行使詐欺取財未遂被告事件ニ付明治二十八年八月八日東京控訴院ヨ於テ長野地方裁判所松本支部ノ判決ニ對スル被告ノ控訴及ヒ原院檢事ノ第一審判決ハ刑罰輕キニ失シタリトノ附帶控訴ヲ審理ノ未被告ノ控訴ハ之ヲ棄却ス原判決ハ取消ス被告藤森助十郎ヲ重禁錮二年罰金貳拾圓ニ處シ六月ノ監視ニ付ス押収ニ係ル偽造證書ハ官ニ沒収ス其他押収品ハ差出人ニ還付ス公訴裁判費用ハ被告ノ負擔トスト言渡シタル判決ニ服セスシテ被告ヨリ上告シタルニ依リ本院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ審理スル左ノ如シ

被告辯護人高木益太郎上告趣意擴張書第一ノ要旨ハ原判決ハ被告カ偽造證書ニ基キ地所ヲ騙取センカ爲メ地所買戻請求ノ訴訟ノ長野地方裁判所松本支部ニ提起シタルコトヲ認メ此點ニ付詐欺取財未遂ノ法則ヲ適用セラレタルモ其判決理由ニハ只證書ヲ提出シ該地買戻ノ證據ニ供シ其目的ヲ遂ケサリシトノミアリテ之カ事實ヲ承示セス故ニ或ハ中止犯ノ法則ヲ適用スヘキ協合ナルヤモ知ル可ラス民事訴訟中止ノ原由ハ當事者双方ノ合意又ハ裁判所ノ決定等ニ基ク可キモノナレハ是等ノ事實ヲ明示セス其目的ヲ遂ケサリシトノ法律語ヲ以テ之ヲ脱去リタルハ不當ナリ要スルニ實判決ハ必要ノ理由ヲ闕キタル不當ノ裁判ナリト云フニアリ○依テ原判決文ヲ查閱スルニ其事實ノ理由ハ部ニ被告藤森助十郎ハ云々明治二十五年三月十三日太田清吉ヨリ小作米代金ハ請取證書アルヲ奇貨トシ該證書中、小作米代金請取ニ關スル部分ハ數字

ヲ打消シ太田清吉ハ自筆ニ係ル年月日宛名及署名捺印アル原判金貳百五十拾圓ヲ買戻代金ハ内入トナシタル旨ヲ記入シテ之ヲ偽造シ而シテ該地ヲ騙取セントノ意ニテ明治二十七年十月二十八日付ヲ以テ太田清吉ニ對シ地所買戻請求ハ訴訟ヲ長野地方裁判所松本支部ニ提出シ同年十一月二十二日口頭辯論ハ際有偽造ニ係ル金貳百五十拾圓ハ請取證書ヲ提出シ該地買戻ノ證據ニ供シ其目的ヲ遂ケ得サリシトアリ此判決ニ依レハ被告カ地所騙取ノ目的ヲ以テ太田清吉ニ對シ誹謗ヲ提起シ口頭辯論ハ際其證據トシテ偽造ハ買戻代金内入レ金請取書ヲ提供シタル迄ハ事實ヲ見ルニ足ルモ再後如何ナル事由アリテ其騙取ノ目的ヲ遂ケ得サリシヤ之カ事實ヲ舉示セサルヲ以テ果シテ被告ハ所審カ該判決ニ適用シアル刑法第三百九十條第三百九十條第七條第一百十二條等ニ該當スルヤ之ヲ知ルニ由ナシカ刑事訴訟法第二百六十九條第九號ニ謂フ所ハ裁判ニ理由ヲ付セサルモノニシテ上告論旨ハ如ク原判決ハ破毀ノ原由アルモノトス既ニ此點告ニ於テ訴訟決ヲ破毀スヘキモノトスル以上ハ他ノ上告點ニ對シ特ニ説明スルノ要ナシトス

右ノ理由ナルニ付刑事訴訟法第二百八十六條ニ則リ原判決ヲ破毀シ更ニ審判セシムル爲メ本件ヲ宮城控訴院ニ移ス

明治二十八年十月二十四日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

○私書偽造行使詐欺取財ノ件

明治二十八年第九五六號
明治二十八年十月二十五日宣告

○判決要旨

公判ノ續行ニ際シ陪席判事ニ異動ヲ生シタルニ拘ラス其訊問ヲ更新セスシテ
判決ヲ爲シタルハ口頭審理ノ定則ニ背キタル不法ノ裁判ナリ

第一審 新潟地方裁判所高田支部 第二審 大阪控訴院

被告人 丸山萬吉 辯護人 高木益太郎

右私書偽造行使詐欺取財被告事件ニ付明治二十八年七月五日大阪控訴院ニ於テ言渡シタル判
決ニ對シ檢察長林誠一ハ上告ヲ爲シタルニ依リ刑事訴訟第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ辯護
士高木益太郎ノ辯論檢察處田武儀ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

上告趣意第一點ハ本案ニ付陪席判事澤崎頼之助ハ第一回ノ公判ニ干與セス第二回ノ公判ヨリ
陪席シタルニ被告ニ異議ナシト辯論ヲ更新セスシテ判決ヲ爲シタルハ訊問審理ノ要件ヲ闕
キタル違法ノ裁判ナリト云フニ在リ○依テ公判始末書ヲ閱スルニ其第二回ハ部ニ本日ハ前回
ハ立會判事申一人ノ異動アルモ本日日出會ハ判事ニ於テ前回ハ公判始末書ヲ閱讀シ居ルニ付別
段新ニ取調ヲ爲カハルモ異議ナキヤテ檢事及ヒ被告人ニ問ヒタル處異議ナキ旨ヲ答ヘタリト
アリテ陪席判事ニ異動アリタルニ拘ラス審理ヲ更新セザリシコト上告論旨ハ如クナルニ依リシ

原判決ハ口頭審理ハ定則ニ違背シタル不法ヲ免レサルモトス既ニ此點ニ於テ破毀ノ原由ヲ
リト認メタルニ依リ他ノ上告論旨ニ對シテハ説明ヲ要セス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十六條ニ依リ原判決ヲ破毀シ本件ヲ廣島控訴院ニ移
ス

明治二十八年十月二十五日大審院第二刑事部公延ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

○偽造紙幣知情行使ノ件

明治二十八年第九七八號
明治二十八年十月二十五日宣告

○判決要旨

公判ノ續行ニ際シ陪席判事ニ異動ヲ生シタルニ拘ラス訊問ヲ更新セスシテ判
決ヲ爲シタルハ口頭審理ノ定則ニ背キタル不法ノ裁判ナリ
(明治二十八年第九五六號)
丸山萬吉ノ件參看本卷登載

第一審 大阪地方裁判所 第二審 大阪控訴院

被告人 伊瀬嘉一郎

明治二十八年七月五日大阪控訴院ニ於テ右嘉一郎ニ對スル偽造紙幣知情行使被告事件ノ控訴
ヲ審理シ原判決ヲ取消ス更ニ被告ヲ罰金五十圓ニ處ス押収ニ係ル偽造紙幣四枚ハ之ヲ沒收ス

判事ノ口頭審理ノ定則ニ背キタル判決

其他ノ押收書類等ハ各差出人ニ還付スト言渡タル判決ヲ不當トシ原院檢察長林誠一ハ上告ヲ爲シ被告人ハ答辯書ヲ差出シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ檢察及辯護士ノ辨明ヲ聽キ審理スル處

上告趣意ハ訊問審理ト書類審理トハ之ヲ區別セル可ラス訊問審理ハ訊問ニ據テ以テ心證ヲ資ルカ故ニ訊問ヲ以テ審理ノ一大要件トス若シ訊問ヲ闕クヤ是レ審理ナキト一般無効ナリトス本案ニ付キ審理ノ順末ヲ立會上實見シタル所ト公判始末書トニ照セハ判事蘆谷久敬ハ本月五日始メテ陪席シタルモノニソ前三回ノ公判ニハ曾テ于與シタルコトナシ曾テ于與シタルコトナシトスレハ訴訟關係人異議ノ有無ニ拘ラス必スヤ更ニ訊問セサル可ラサルハ論ヲ俟タサル所ナルニ原院ニ於テ其手續ヲ盡サス即更ニ訊問ヲ爲サスシテ直ニ辯論ヲ續行シタルハ不法ナリト云フニ在リ○因テ審究スルニ刑事訴訟法第七十六條ニ公判ハ判事檢察書記出廷シテ之ヲ爲スモハトストアレハ公判ハ口頭審理ヲ要スルモノニシテ且是等重要ノ手續ハ假令訴訟關係人ハ承諾アリト雖トモ擅ニ之ヲ變更シテ書面審理ニ代ニルコトヲ許イサルモノトス而シテ本件ニ付キ公判始末書ヲ閱スルニ裁判長ハ本日ハ前回ト陪席判事申一人ノ異動アルモ本日立會タル判事ニ於テ前回公判始末書ヲ閱讀シ居ルニ付新ニ取調ヲナサストモ異議ナキヤ否ヤ檢察官及辯護人ニ問ヒタル處何レモ異議ナキ旨ヲ述タルニ付左ノ取調ヲ爲ス云々ト記載シアリ即原院ハ陪席判事ニ變更アリタルニモ拘フス其判事カ書類ヲ閱讀シ又ハ訴訟關係人カ異議ヲ申ト述ヘタル處更ニ口頭審理ノ手續ヲ盡スコトヲ爲サスシテ直ニ之カ履行ヲ爲シルハ法違

ニシテ本上告ハ頗ル理由アルモノトス因テ同法第二百八十六條ニ從ヒ判決スルコト左ノ如シ
原判決ヲ破毀シ本件ヲ名古屋控訴院ニ移ス
明治二十八年十月二十五日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢察官照當融立會宣告ス

○竊盜ノ件

明治二十八年第一一五二號
明治二十八年十月二十五日宣告

○判決要旨

親屬相盜ノ場合ニ於テ親屬以外ノ共犯人カ其財物ヲ分ナタレハトテ親屬タル身分上ノ關係ヲ有スル者ヲ共犯ノ一人トシテ處罰スルハ刑法第三百七十七條第二項ノ精神ニアラス

(參照) 祖父母父母夫妻子孫及ヒ其配偶者又ハ同居ノ兄弟姉妹互ニ其財物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ヲ以テ論スルノ限ニアラス若シ他人共ニ財物ヲ分ナタル者ハ竊盜ヲ以テ論ス(刑法第三百七十七條)

第一審 高知地方裁判所 第二審 大阪控訴院

被告人 岡村喜太郎

財物分取ノ解釋

右竊盜被告事件ニ付キ明治二十八年八月三十日大阪控訴院ニ於テ控訴ニ係ル原判決ノ部分ヲ取消シ更ニ被告ハ無罪トスト旨渡シタル判決ニ對シ原院檢察長林誠一ハ上告ヲ爲シタルニヨリ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

上告趣意ノ要旨ハ親屬相盜ニシテ其罪ヲ論セサルハ財産共通ノ原理ニ基クモノニシテ其盜ム所ノモノ自己ノ所有物ナルカ故ナリ果シテ然ラハ親屬ノミカ其財産ヲ利スル場合ヲ除クノ外苟クモ其財産ヲ他人ノ掌裡ニ歸セシムルトキハ財産ニ損害ヲ生スルヲ以テ之ヲ罰ス可キナリ本按ハ相被告石黒楠太郎竹崎三郎ハ財ヲ分チタルモノトシテ確定判決ヲ受ケタルモノナレハ被告カ財ヲ分チタリトノ證據十分ナラストスルモ其一身同體タル共犯者目的ヲ達シタル以上ハ財産ハ損害ヲ受ケタルヲ以テ被告モ罰セサル可カラス又刑法第三百七十七條第二項ニ財ヲ分チタル者トアルハ財ヲ分チタル者ニ限ルニアラス共犯ハ一身同體ナルヲ以テ共犯中ノ一人財ヲ分テハ總括シテ財物ヲ分チタルモノト解釋ス可キハ當然ナリ然ルニ原判決ハ共犯中一入モ財ヲ得タルモノナシト云ハスシテ單ニ被告一人カ財ヲ分チタルノ理由ヲ付シ共犯ニ對スル確定判決ノ事實アルヲ否テ明示セシテ財ヲ分チタル者ニ對シ無罪トナシタルハ裁判ニ理由ヲ附セサル不法ノ判決ナリト云フニアレトモ

○刑法第三百七十七條第二項ハ本條ニ掲グセル親屬以外ノ人ニシテ其親屬ト共ニ犯シタル者ハ財物ヲ分チタルトキニ限リ竊盜ヲ以テ論スルモハトス然ラハ假令親屬ニアラサル共犯カ財物ヲ分チタリトテ本按被告ノ如キ財物ヲ分チタル者ニ在リテハ無罪ナルコト勿論ニシテ共犯ハ所爲ハ被告ニ影響ヲ及ホカス故ニ原院カ財物

ヲ分チタルノ證據ナキ被告ニ對シ無罪ヲ旨渡シタルハ相當ニシテ其之ヲ旨渡スニ當リ相被告ニ對スル確定判決ノ事實ヲ明示セサルモ理由ノ不備ナリトセス要スルニ上告ハ其理由ナシトス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本按上告ハ之ヲ棄却ス

明治二十八年十月二十五日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢察事岩田武儀立會宣告ス

○拐帶及竊盜ノ件

明治二十八年第一一七三號
明治二十八年十月二十五日宣告

○判決要旨

非現行犯ノ場合ニ於テ檢事ハ訊問調書ヲ作ルノ權能ナシ從テ其調書ヲ罪證ニ供シタル判決ハ不法ナリ

第一審 仙臺地方裁判所古川支部 第二審 宮城控訴院
被告人 鈴木廣治 辯護人 高木益太郎

右廣治カ拐帶及ヒ竊盜被告事件ニ付明治二十八年九月五日宮城控訴院ニ於テ仙臺地方裁判所古川支部カ被告廣治ヲ重禁錮四月ニ處シ罰金六圓ヲ附加シ監視六月ニ付ス現在ノ贓品ハ木内眞藏ニ還付スト旨渡タル判決ニ對スル被告ノ控訴ヲ審理シ本件控訴ハ之ヲ棄却ス當法廷ニ於

非現行犯ニ對スル檢事ノ訊問調書

テ押取シタル端書一枚ハ被告ニ還付スト判決シタルヲ不法トシ被告ハ上告ヲ爲シ原控訴院檢事長大塚盛胤ハ答辭書ヲ差出シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ辯護士高木益太郎ノ辯論立會檢事岩田武儀ノ意見ヲ聽キ判決スルコト左ノ如シ

高木辯護士上告擴張書ノ要旨第一點一件記録中ニ綴込アル仙臺地方裁判所古川支部磯谷檢事ノ發シタル關係人小澤朴淳ニ對スル取調囑託書案ヲ見ルニ曰ク「小澤朴淳右ノ者ニ對シ刑事被告入岡崎素雄事鈴木廣治竊盜及拐帶事件ニ付左記條項取調ノ上聞取書ヲ徵シ云々一鈴木廣治ヨリ發被及三經合木一冊光妙讀談一冊預リタルコトアリヤ一何々一何々トアリテ乃チ管轄裁判所檢事ヨリ小澤朴淳所在地ノ司法警察署ニ本按被告事件ニ付關係人ニ對スル訊問事項ヲ揭ケ其取調方ヲ囑託シタルモノナルヤ明カナリ而シテ小澤朴淳ノ聞取書ヲ視ルニ其冒頭ニ「僱侶小澤朴淳ハ當檢事局ノ通知ニ依リ出廷シ本職ノ面前ニ於テ左ノ陳述ヲ爲ス」トアリ次ニ前掲囑託ニ係ル訊問事項ニ就キ一々同人ノ答辭ヲ記載シタル上右讀聞ケタルニ相違ナキ旨陳述セリ依テ左ニ署名捺印セシム年月日小澤朴淳^④於長野地方裁判所松本支部檢事代理司法官試補具塚徳之助^⑤ト記載シアリ又該聞取書ニ屬スル回答書ニハ「中畧即チ別紙ノ通り聞取書ヲ徵シ候條云々」トアリテ該聞取書ハ其實質檢事ノ取調ニ屬スル訊問調書タルコト爭フヘカラス然ルニ本件ハ非現行犯事件ナルニ付檢事ハ關係人ヲ取調其調書ヲ作ルノ權ナキモノナリ依テ該聞取書ハ無効ノモノタルヲ免レンス然ルニ第一審判決證據列記ノ部ニ右ノ聞取書ヲ掲ケ之ヲ有罪ノ證トナシタルハ即チ探證法ニ違背シタル不法ノ判決ナルニ原院力之ヲ相當ナリトシテ被告ノ

控訴ヲ棄却シタルハ是亦不法ノ裁判ナリト云フニアリ^⑥因テ訴訟記録ヲ查閱スルニ仙臺地方裁判所古川支部檢事ノ囑託ニ依リ長野地方裁判所松本支部檢事代理司法官試補具塚徳之助ニ於テ小澤朴淳ナル者ヲ同廳檢事延へ出頭セシメ聞取書ト題スル書面ヲ作り之ニ回答書ヲ添へ囑託セシ古川支部檢事ニ宛廻付シタルコト及ヒ其聞取書ト稱スル書面ニハ古川支部檢事カ囑託シタル訊問ノ事項ヲ陳述セシメ其末尾ニ「右讀聞ケタルニ相違ナキ旨陳述セリ依テ左ニ署名捺印セシム」トアリテ即チ其關係人タル小澤朴淳ヲシテ署名捺印セシメアルノミナラス其取調ヲ爲シタル司法官試補ニ於テモ連署シアルニ依リ名ハ聞取書ナルモ其實訊問調査ニ外ナラス而シテ本件ハ非現行犯事件ニ付檢事ニ於テ訊問調書ヲ作ルノ權限ナキモノナレハ該調書ハ法律上有効ノ證トナスヲ得サルニ原院力之ヲ罪證ニ供シタル第一審判決ヲ是認シ控訴ヲ棄却シタルハ要スルニ上告論旨ノ如ク違法ノ裁判タルヲ免レサルモノトス已ニ此點ニ於テ破毀ノ原由アリト認メタル上ハ他ノ上告論旨ニ對シテハ一々之レカ説明ヲ與ヘス

以上ノ原由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十六條ニ則リ原判決ノ全部ヲ破毀シ之ヲ東京控訴院ニ移スモノナリ

明治二十八年十月二十五日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

○盜賊寄藏ノ件 明治二十八年第一一七七號
明治二十八年十月二十五日宣告

○判決要旨

公判ニ於テ管轄違ノ言渡ヲ爲スモ遡リテ豫審處分ノ効力ヲ抹消スルヲ得ス從
テ其豫審ノ際蒐集シタル調書ハ適法ノ成立トシテ證據力ヲ有スヘシ(判旨第二點)
證憑列記ノ部ニ等トアルハ其列記ノ證憑ヲ總括シタル謂ニシテ列記以外ノ證
憑ヲ包含セズ(判旨第三點)

第一審 名古屋地方裁判所 第二審 名古屋控訴院

被告人 松野富三郎

右盜賊寄藏被告事件ニ付明治二十八年九月二十日名古屋控訴院ニ於テ控訴棄却ノ言渡ヲ爲シ
タルニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シ原院檢察部長加納謙ハ答辯書ヲ差出シタルニ依リ刑事訴訟法第
二百八十三條ノ定式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ
上告趣意ノ要旨第一ハ第一審判決ノ理由ノ闕典タル情婦山田キク云々藏匿云々ノ二句ヲ原判
決ニ於テ補正シナカク控訴ヲ棄却シタルハ不法ナリト云フニアレトモ○原判文ニ情婦山田キ
クト記載シタルハ被告ニ贓物ヲ渡シタルキクト竊盜犯瀧次郎トノ關係ヲ示シタルモノニシテ
犯罪構成ノ事實ニアラス又本件ノ犯罪ハ被告カ贓金ヲ受領シタルニ因リ成立スルモノナレハ
其受領シタル後ヲ藏匿シタルコトハ事後ノ所爲ナレハ犯罪構成ニ影響ナキモノトス故ニ右二

判旨第二點

點ハ第一審判決ニナキ所ニシテ第二審判決ニ之ヲ掲擧シタルモ第一審判決ノ不備ヲ補正シタ
ルニアラス唯々精粗ノ別アルニ過キサレハ原院カ控訴ヲ棄却シタルハ失當ニアラス(第二ハ土
地ニ付キ管轄違ナル解同地方裁判所カ爲シタル無効ノ豫審手續ニ依リテ成立シタル家宅搜索
調書ヲ採リテ犯罪ノ資料ニ供シタルハ不法ナリト云フニアレトモ○公判ニ於テ事件ハ管轄違
ナリト管渡シタルトキト雖トモ遡リテ豫審ハ處分ハ無効ニ歸セシムルモノハニアラス依テ本
件ニ付キ解同地方裁判所ハ管轄違ヲ言渡シタルモ其ノ裁判所ニ於テ爲シタル豫審處分ニ依リ
テ蒐集シタル家宅搜索調書ハ正當ニ成立シタルモノナレハ原院カ之ヲ採リテ證據ト爲シタル
ハ適法ニアラス(第三ハ原判決證憑列記ニ前署當法廷ノ供述等ニ依リ云々トアリ其等ノ字ニハ
如何ナル證據物件ヲ包含スルヤ之ヲ知ルニ由ナク即チ證據ノ明示ヲ關キタル不法ノ判決ナリ
ト云フニ在レトモ○原判文證憑列記ノ部ニ供述等トアルハ其掲擧シタル證憑ノ外ニ證憑アリ
トスルニアラスシテ列擧シタル證憑數多アルヲ以テ等ハ字ヲ慣用シタルモノハナレハ證憑ハ明
示ヲ關キタル不法アリトセズ(擴張ノ要旨第一第二ハ要スルニ趣意書ノ第一第二ヲ解明スルモ
ノナルヲ以テ別ニ説明ヲ與ヘス)第三ハ參考人山田キクノ供述調書ノミニ依テ本罪構成ノ要素
タル贓物タルノ情ヲ知タルノ事實ヲ認定シタルハ虛無ノ證據ヲ採リタル不法ノ判決ナリト云ヒ
第四ハ山田キクノ所爲ニシテ牙保ノ制裁ヲ受ケサルモノトスレハキクカ贓物タルコトヲ知ラ
ズ從テ被告ニ贓物タルコトヲ告知セザリシコトハ推知スヘキニ否ラザリシハ理由不備ノ判決
ナリト云フニアリテ○要スルニ二點共ニ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定採證ノ當否ヲ論難ス

判旨第三點

豫審處分ノ効力〇等ノ字ノ解釋

ルモノニ外ナラサレハ上告ノ理由ナシトス
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ由リ本按上告ハ之ヲ棄却ス
明治二十八年十月二十五日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事安居修藏立會宣告ス

○毆打創傷ノ件

明治二十八年第一一八四號
明治二十八年十月二十五日宣告

○判決要旨

辯護人ヨリ控訴ヲ申立タル場合ニアリテハ辯護人ニ對シ其趣意ヲ訊問スヘキモノトス

第一審 盛岡地方裁判所 第二審 宮城控訴院

被告人 遠藤直次郎 辯護人 岡崎正也

右直次郎カ毆打創傷被告事件ノ控訴ニ付明治二十八年九月二十日宮城控訴院ニ於テ本件控訴ハ之ヲ棄却スト旨渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シタルニ付刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ
上告趣意ハ第一審裁判所ハ被告ニ於テ毆打創傷ノ罪アリトスル證據トシテ法律上無効ニ屬ス

ヘキ司法警察官ノ作リタル聽取書ヲ採用シタリ然ルニ原院ハ此點ニ付キ何等ノ説明ヲ與フルコトナク被告人ノ控訴ヲ棄却シタルハ刑事訴訟法第二百六十一條第二項ニ背反スル不法ノ裁判ナリト云フニ在リ○然レトモ該聽取書ハ司法警察官ニ於テ聽取タル事項ヲ記載シタル書面ニ過キサルヲ以テ法律上無効ト認ムヘキ廉ナキニ依リ第一審裁判所カ之ヲ證據ニ供シタルハトテ不法ト云フヲ得ス從テ原院カ控訴ヲ棄却シタルハ相當ナリトス
辯護士岡崎正也上告趣意擴張書第一ハ原院公判始末書ヲ見ルニ裁判長ハ控訴ノ趣旨及ヒ事實ニ付辯護人ヲ審問シタルモ被告人ニ對シ控訴ノ趣旨ヲ訊問シタルコトナシ故ニ原裁判ハ刑事訴訟法ノ手續ニ違背シタル不法アリト云フニ在リ○依テ案スルニ本件ハ辯護人ハ控訴ニ係リタルヲ以テ裁判外長ハ先ツ辯護人ニ對シテ控訴ノ趣旨ヲ訊問シタルモノナリ而シテ處刑ヲ受ケタルコトナキヤ否ヤノ如キ其以下ノ訊問ハ特ニ被告人ニ對スル旨ヲ明記セサルモ事實上被告人ニ對スルモノナルハ毫モ疑ヲ容ルヘキナシ之ヲ要スルニ本上告論旨ハ公判始末書ノ初メニ「辯護人答」云々トアルヲ以テ其以下ノ問答モ全ク辯護人ニ對スルモノト誤解スルニ基クモノニシテ固ヨリ適法ノ理由トスルヲ得ス同第二點ハ本件第一審判決ニ於テ要助ノ頭部右脛骨上部腰部等ヲ毆打シトノミアリテ果シテ創傷セシメタルヤ否ヤノ點ニ對シ判示スル所ナシ依テ第一審ニ於テハ右ノ不法ナル欠點ヲ補正シ毆打シトノ下ニ其各部ニ創傷ヲ爲シトノ事實理由ヲ加ヘナカフ第一審判決ヲ認可シ控訴ヲ棄却シタルハ不法ナリト云フニ在リ○然レトモ是只事實ヲ記載スルニ當リ疎密ノ別アルノミニシテ其毆打ニ原因シ二十日以内疾病休業ニ至ラシメリ

トノ事實ニ至テハ二者各々認定ヲ同フスルヲ以テ則チ控訴ヲ棄却シタルハ當然ナリトス
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス
明治二十八年十月二十五日大審院第二刑事部公庭ニ於テ檢事廳當廳立會宣告ス

○竊盜及囚徒逃走ノ件

明治二十八年第七七一號
明治二十八年十月二十八日宣告

○判決要旨

拘留狀ノ職權ヲ有スル檢事ニアラサレハ之ヲ發スルコトヲ得ス而シテ司法官
試補ハ地方裁判所以上ノ檢事ヲ代理スルノ職權ナキヲ以テ其發シタル拘留狀
ハ法律上何等ノ効力ヲモ生スヘキモノニアラス從テ其執行ヲ遁レ逃走シタル
所爲ハ囚徒逃走罪ヲ構成セス

(參照) 司法大臣ハ適當ナル場合ニ於テハ區裁判所判事試補又ハ郡市町村ノ長ヲシテ檢
事ヲ代理セシムルコトヲ得(裁判所構成法第
十八條第三項)

第一審 東京地方裁判所 第二審 東京控訴院
被告人 伊藤清吉 辯護人 高木益太郎

右竊盜及囚徒逃走被告事件ノ控訴ニ付明治二十八年五月二十八日東京控訴院ニ於テ審理ノ末
原判決ヲ取消ス被告清吉ヲ重禁錮五年ニ處シ監視一年ニ付ス但明治二十八年二月十八日浦和
地方裁判所熊谷支部ニ於テ宣告ヲ受ケタル重禁錮三年六月監視一年ハ本刑期ニ通算スト旨渡
シタル判決ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理ヲ遂ケル處

上告ノ要旨ハ本案ハ犯罪ノ證據モ存立セサルニモ拘ハラヌ原院カ有罪ノ認定ヲ下シタルハ
不法ナリト云フニ在リ○原承審官ノ職權ニ屬スル證據ノ取捨事實ノ認定ヲ非難スルニ過キス
上告違法ノ理由ナシ

辯護士高木益太郎カ上告趣意辯明ノ要旨第三點ハ原院檢事ハ原判決書第一ノ事實ニ付被告ノ
控訴ノ理由ナキ旨ヲ陳述シタルニ止リ第二ノ事件ニ付意見ヲ述ヘタルコトナク原院モ右檢事
ノ意見ヲ聞カスシテ直ニ判決ヲ下シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○原院公判始末書檢事
陳述ノ部ニ「原裁判ハ總テ相當ニシテ被告人ノ控訴ハ理由ナク棄却アリ度シ云々」トアリテ第一
點判決全部ヲ相當トスルノ意見ヲ陳述シタルコト明ナレハ本論旨ハ其謂ハレナキモノトス「其
第三點ハ武藤キクノ始末書ハ相當官吏ノ徵取シタルモノニ非サレハ固ヨリ證據ノ効力アルモ
ノニ非ス然ルニ原院カ之ヲ斷案ノ資料ニ供シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○該始末書ハ
違法ニ成立シタルモノニ非サレハ之ヲ心證ノ資料ニ供スルモ違法ニ非ス」其第四點ハ原公庭ニ
出頭シタル藤村鐵則ハ被告及第一審ノ相被告タル荒井貞吉ノ竊盜共犯事件ニ付證言ヲ爲スモ

檢事代理ノ發シタル拘留狀ノ効力

ノナレハ被告及荒井貞吉ニ對シ刑事訴訟法第二百二十三條ノ關係ナキヤ否ヲ訊問スルコトヲ要ス然ルニ原院ニ於テハ此法式ヲ履マス紫朗ナシテ證言ヲ爲サシメ直ニ之ヲ斷案ノ資料ト爲シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ○本件ニ付テハ被告清吉ノミ控訴ヲ爲シテ荒井貞吉ハ第一審判決ニ服從シ其判決已ニ確定シタルヲ以テ原院カ證人ニ對シ現在ノ被告タル清吉トノ關係ヲ取調ヘ別ニ貞吉トノ關係ヲ訊問セザリシハ相當ニシテ隨テ原院カ右證人ノ證言ヲ採用シタルハ決シテ違法ニ非ス其第一點ハ司法警察官ハ非現行犯事件ニ付犯罪捜査ノ爲メ被告入ヲ留置スルノ權アルモノニ非ス故ニ警察官カ明治二十八年一月二十日藤村紫朗ニ對スル竊盜非現行犯事件捜査ノ爲メ被告ヲ日本橋警察署ニ留置シタルハ越權ノ處置タルコト明カナリ隨テ被告カ該警察署構内ヨリ逃走シタル所爲ハ刑法第四百四十二條ニ該當スヘキ犯罪ニ非ス原判決ハ擬律ノ錯誤ナリト云ヒ同辯護士カ追申書ノ要旨ハ本件第二ノ事實ニ關シ原判決カ揭ケタル明治二十八年一月二日付ノ拘留狀ニハ刑事訴訟法第七十六條ニ規定スル令狀發付ノ時刻ヲ記載セス又該令狀ヲ發シタル官吏ノ資格ヲ調査スルニ單ニ東京地方裁判所檢事代理ニ瓶正藏トアレトモ同人ハ果シテ如何ナル木職ヲ帶ヒ東京地方裁判所檢事ノ職ヲ攝行シタルヤ明確ナラス故ニ同人ニ右令狀發付ノ職權アルモノト認ムルヲ得ス加之該拘留狀ニハ警視廳監獄署拘留監ニ拘留スヘキモノナリトアルノミナレハ其發布後十八日ヲ過キ他ノ被告事件犯罪捜査ノ爲メ被告ヲ日本橋警察署ニ移シ之ヲ留置スルノ効力アルコトナシ況ヤ檢事ハ刑事訴訟法第四百四十四條ニ則リ犯所臨檢ヲ爲ス事件ノ外豫審處分ヲ爲ス權限アルモノニ非ス

要スルニ被告ハ違法ナル監禁ヲ受ケタルモノニ非サレハ其逃走ニ付キ有罪ノ裁判ヲ受ケヘキモノニ非ス然ルニ原院カ之ヲ有罪トシタルハ違法ナリト云ヒ其第二追申書ノ要旨ハ本件ノ拘留狀ニ署名アル二瓶正藏ハ其發付ノ當時東京地方裁判所ノ檢事代理ニ非ス故ニ發シタル拘留狀ハ無効ナリ隨テ被告ハ該令狀ニ服從スヘキ責ナキニ付原判決カ囚徒逃走罪アリトシタルハ違法ナリト云フニ在リ○因テ審按スルニ原判決ニハ被告清吉ハ原判決第二ニ掲ケル竊盜事件ハ現行犯トシテ巡査ニ引致セラレ林松五郎ト偽稱シ明治二十八年一月二日檢事ハ發シタル拘留狀ニ依リ警視廳監獄ニ拘留中云々トアリテ正當職權アル檢事ハ發シタル拘留狀ニ依リ拘留セラレタルモノハ如何ナルモ訴訟記録中ニ存スル明治二十八年一月二日附林松五郎ニ對スル拘留狀ニハ東京地方裁判所檢事代理二瓶正藏ト記名シアルニ依レハ原判決ニ檢事トアルハ右檢事代理二瓶正藏ヲ指シタルモノナルコト明白ナリ果シテ然ラハ該拘留狀ハ正當職權アル檢事ハ發シタルモノト謂フ可カラス何トナレハ右二瓶正藏ハ肩書ニ東京地方裁判所檢事代理トアルモ同人ハ當時司法官候補ニシテ本所京橋龜町三區裁判所詰檢事代理タルコトハ顯著ナル事實ニシテ元來司法官候補ハ裁判所構成法第十八條第三項ニ基キ司法大臣ハ命ニ依リ區裁判所檢事ヲ代罪スルコトヲ得ルモ地方裁判所以上ハ裁判所ニ於ケル檢事ヲ代理スルコトハ法律ノ許ス所ニ非サレハナリ已ニ該拘留狀ハ正當職權アル者ヨリ發シタルモノニ非ストセハ法律上何等ノ効力ヲ生スヘキモノニ非ス隨テ被告カ其執行ヲ逃レ逃走シタリトスルモ囚徒逃走ノ罪固ヨリ成立スルコトナシ因テ此點ニ關スル原判決ハ一部ハ到底破毀ヲ免カレス且原

判決ハ二罪俱發トシテ處斷シ彼此關係アルヲ以テ他ノ點ニ關スル部分モ共ニ破毀セサルヲ得サルモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十六條第二百八十七條ニ則リ原判決ノ全部ヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ判決スルコト左ノ如シ

右

佐藤清吉

原判決第一ニ掲ケル所爲ニ付テハ原院ノ認メタル事實ニ依リ刑法第三百六十六條第三百六十九條第三百七十六條第九十八條第九十二條ヲ適用シ被告ヲ重禁錮五年ニ處シ監視一年ニ付ス但明治二十八年二月十八日浦和地方裁判所熊谷支部ニ於テ宣告ヲ受ケタル重禁錮三年六月監視一年ハ同法第二百條第一項ニ依リ本刑期ニ通算ス

原判決第二ニ掲ケル所爲ハ刑事訴訟法第二百二十四條ニ依リ無罪

明治二十八年十月二十八日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事安居修藏立會宣告ス

○詐欺取財未遂ノ件

明治二十八年第一〇八四號
明治二十八年十月二十八日宣告

○判決要旨

區裁判所ニ於ケル民事ノ口頭辯論調書ハ其判事差支アルトキニ限り裁判所書記ノ署名捺印ヲ以テ作成スルコトヲ得從テ其調書ヲ採テ斷罪ノ證據ニ供スルハ不法ニアラス

(參照) 調書ニハ裁判長及ヒ裁判所書記署名捺印ス可シ裁判長差支アルトキハ官署最高キ陪席判事之ニ代リ署名捺印ス區裁判所判事差支アルトキハ其裁判所書記ノ署名捺印ヲ以テ足ル(民事訴訟法第百三十二條)

第一審 前橋地方裁判所 第二審 東京控訴院
被告人 鈴木愛之助 辯護人 磯部四郎

右詐欺取財未遂被告事件ニ付明治二十八年八月二十日東京控訴院ニ於テ前橋地方裁判所ノ判決ニ對スル被告ノ控訴ヲ審理ノ末控訴ヲ棄却シタル判決ニ服セス被告ヨリ上告ヲ爲シタルニ依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ
被告カ上告趣意ハ原判決ハ被告ノ所爲ハ己ニ辨濟ヲ受ケタル債權證書ヲ利用シテ別途ノ債權ナリトシテ訴ヘタルモノニシテ詐欺取財ノ所爲ナリト判定シタルトモ其證書ハ己ニ辨濟ヲ受ケタル證書ナリヤ否ヤハ關係書類ニ徴スルモノモ其證據ト爲スヘキモノナシ且々本件ノ原因

區裁判所ノ口頭辯論調書ノ作成

トナリタル民事記録及ヒ證人湯淺恒次郎ノ調書ニ於テ辨濟シタル債權證書ナリトノ證言アリト雖トモ是レ被告ト利害相反對スル地位ニアル者ノ證言ニシテ一モ刑事上ノ證言ト爲スヘキモノニ非ス然ルニ其證憑アリトシテ判決シタルハ民事上ノ證憑ヲ直接ニ刑事ノ裁判ニ採用シタルモノニシテ即チ民事ハ刑事ヲ中止セシメ得ルノ證憑力アルモノニ非ストノ原則ニ反スル不法ノ裁判ナリト云フニアレトモ○證人湯淺恒次郎ハ被害者ノ地位ニアリテ被告ト利害相反スル者ナルニモモ刑罪訴訟法上證人タル資格アル者ナルコトハ其調書ニ徴シ明白ナレハ原院カ同人ノ證言ヲ證據トシテ採用セシハ不法ニアラサルノミナラス苟モ法律上無効タルヘキモノノ外其何タル證據徴憑ヲ問ハス之ヲ採擇シ得ルコト勿論ナレハ原院カ民事記録ヲ本件斷案ノ證料ニ供セシハ毫モ不法ニアラス要スルニ本論旨ハ原裁判所ノ職權ニ存スル採證ノ批難ニ過キサレハ固ヨリ上告ノ理由ト爲ラス

辯護士磯部四郎上告趣意擴張書第一點ノ要旨ハ原判決採證ノ部ニ高崎區裁判所二四(ハ)七六號民事記録中ノ口頭辯論調書ヲ明示セラレタルトモ該調書ニハ書記ノ記名ノミニテ裁判長ノ記名調印ナシ是レ民事訴訟法第二百二十九條第二及ヒ同第三百三十二條ニ規定セル裁判長記名捺印スヘシトアルニ違背セル調書ヲ採テ斷罪ノ證トシタル不法アリト云フニアレトモ○民事訴訟法第三百三十二條末項ニ區裁判所判事差支アルトキハ其裁判所書記ハ署名捺印ヲ以テ足ルトアリテ別ニ其旨ハ付記ヲモ要シアラス而シテ今一件記録ニ添付シアル高崎區裁判所二四(ハ)七六號書類中第二回口頭辯論調書ヲ閱スルニ判事ハ記名調印ヲ關キ御リ裁判所書記ハ署名捺印アル

ニ依レハ當時當該判事差支アリテ署名捺印シ能ハナリシ爲メ書記ノ記名調印セシモノナリトト明カナリ又該調書ハ初葉ニ民事訴訟法第二百二十九條第二ノ條件即チ判事及ヒ書記ノ姓名記載シアルハ其作成總テ適式ニシテ毫モ不法ハ點ナク隨テ原院カ之ヲ斷罪ノ證料ニ供セシハ當然ニシテ上告論旨ハ其理由ナシ

同第二ノ要旨ハ原判決採證ノ部ニ第二審ノ口頭辯論調書即チ前橋地方裁判所二八年(レ)第九號ノ調書ヲ明示セラレタルニ然レトモ該調書ハ刑事訴訟法第九十八條第二項ノ證憑物件ハ被告人ニ示シテ辯解ヲ爲サシムヘシトアル規定ニ違背シタル不法アルモノナリト云フニアレトモ○原院公判始末書中裁判長ノ告知ニ「本件記録及ヒ民事記録ニ付テモ尙ホ辯解アラハ辯解ヲ爲スヘシトアルニ依レハ民事訴訟記録ノ全部ニ就テ辯解ヲ求メタルコト明カニシテ原院ノ審理手續上上告論旨ノ如キ不法アルニアラス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却ス
明治二十八年十月二十八日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス